



Title	現代モンゴル語における反義語の研究
Author(s)	金, 書包
Citation	大阪大学, 2009, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/74
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

博 士 論 文 (2008年度)

現代モンゴル語における反義語の研究

大阪大学大学院言語社会研究科

言語社会専攻

金 書 包

大阪大学大学院言語社会研究科

博 士 論 文

題目 現代モンゴル語における
反義語の研究

提出年月 2009 年 3 月

氏名 金書包

現代モンゴル語における反義語の研究

目次

はじめに

第一章 序論

一 研究課題の選択

二 研究課題の範囲

三 研究課題の方法

第二章 モンゴル語における反義語研究の現状

一 反義語研究の概況

二 反義語研究に対する誤解

第三章 モンゴル語における反義語の特徴

一 意味的特徴

二 構造的特徴

三 民族的特徴

第四章 モンゴル語における反義語の分類

一 オトハラソによる分類

二 品詞による分類

三 過渡的な意味による分類

第五章 モンゴル語における反義語研究の

意義深さについて

一 特別な反義語

二 反義語と同義語

三 反義語と反義関係

四 反義語と否定関係

第六章 モンゴル語における反義語の役割

一 使用の役割

二 形成の役割

三 教育の役割

四 辞典編纂の役割

おわりに

一 論文の独創性

二 論文の発展性

参考文献

現代モンゴル語における反義語の研究

—— 日本語要旨 ——

反義語は世界の全ての言語に存在している普遍的要素である。反義語は意味論の重要な位置を占めており、古今東西の学者に研究されてきた。モンゴル言語学における意味論の研究は未発達で、モンゴル語意味論の中でも反義語研究は特に不十分である。これまで、モンゴル語における反義語の研究は詳しくなされておらず、まだ氷山の一角しか見えていないと言える。これは意味論の複雑性、多様性、抽象性などの客観的な原因とモンゴル語研究者達がモンゴル語における反義語に対して研究を見落としてきたことと関係があると考えられる。しかし、客観的原因より主観的原因のほうが大きいと思われる。そこで私は、先行研究の成果を活用しつつ、モンゴル語の反義語を総合的に、体系的に研究することを目指している。本研究課題は、論文編と辞典編の二つの部分から構成されている。

研究論文は、「はじめに」、「第一章」、「第二章」、「第三章」、「第四章」、「第五章」、「第六章」、「おわりに」という 8 つの部分から構成される。「はじめに」では、この研究論文の構成と内容を簡単に紹介する。「第一章」では、この研究課題を選択した理由について述べ、さらに課題範囲、研究方法に言及する。具体的に言えば、この研究課題の選択について主観的理由と客観的理由に分けて説明する。研究課題の範囲はモンゴル語における単語反義語と連語反義語という二つの種類にわけて説明する。研究方法について本論は、統計的方法、構造分析的方法、図式化方法、意義素分析方法という四つの方法を使用する。その中で、統計的方法、構造分析的方法、図式化方法という三つの方法を用いて、モンゴル語における反義語を分析するのは初めてのことである。「第二章」では、モンゴル語における反義語の研究現状について述べる。つまり、モンゴル語における反義語のこれまでの研究概況と誤っている問題について分析する。「第三章」では、モンゴル語における反義語の特徴、すなわち、意味的特徴、構造的特徴、民族的特徴を分析する。意味的特徴はモンゴル語における反義語の基本的特徴であり、その中で対等性はモンゴル語における反義語の最も重要な特徴であると同時に反義語であるかどうかを検証する基準である。モンゴル語における反義語は、意味の点で対立関係を基に、形態の形式の同一と付加的意味の同一も考慮する必要がある。形態の形式及び付加的意味の同一がなければ、意味の点のみで対立関係になっても反義語になることができない。モンゴル語の反義語は意味の対立関係、形態の形式が同一及び付加的意味が同一でなければならない。つまり、モンゴル語の反義語はその三つの要求の集合体である。そのため、モンゴル語の反義語とは、対等性の条件に一致す

る語である。構造的特徴には、単語反義語の構造的特徴と連語反義語の構造的特徴という二つのジャンルにわけて説明する。単語反義語の構造的特徴について語幹異同反義語と語幹同一反義語という二種類にわけて、語幹異同反義語も＜反義語＋接尾辞＞と＜非反義語＋接尾辞＞という二種類にわけて説明する。語幹同一反義語もさらに、受身形の反義語と二語幹反義語という二種類にわけて説明する。＜反義語＋接尾辞＞という形式の反義語も＜反義語＋同一接尾辞＞と＜反義語＋異同接尾辞＞という二種類にわけられる。＜非反義語＋接尾辞＞という形式の反義語も＜非反義語＋同一接尾辞＞と＜非反義語＋異同接尾辞＞という二種類にわけられる。これまで、モンゴル語における反義語の研究対象は単語のみに限られてきた。これは、モンゴル語の反義語研究の対象となる語の一部分を研究したにすぎない。換言すれば、もう一つの重要な研究対象である連語反義語を見落としてきた。単語のみを対象として反義語を研究すると、モンゴル語における反義語の特徴と性質を全面的に明らかにすることができない。更に、モンゴル語における反義語の構造のモデルについて全面的に明らかにすることができない。したがって、モンゴル語の反義語研究は単語反義語と連語反義語を共通に研究しなければならない。モンゴル語の連語反義語の構造的特徴について詳細に説明するために、連語反義語の構造形式、連語反義語の意味関係、連語反義語の対立関係などの三つの角度から分析する。その中で、連語反義語の対立関係の種類は多く、しかも構造は複雑であり、全部対立関係の反義語、対等対立関係の反義語、後語対立関係の反義語、前語対立関係の反義語、整体対立関係の反義語 I、整体対立関係の反義語 II という六種類にわけられる。この六つのジャンルの対立関係の詳しい分析がモンゴル語における連語反義語研究のポイントである。民族的特徴は主にモンゴル語の反義語と他の言語の反義語について比較して説明する。民族的特徴は言語のみの研究ではなく、社会、歴史、民俗などに関する複雑な研究である。言語は民族の特徴であるので反義語も当然民族の特徴を持っている。これは、国家、または地域の生活、文化、習慣、環境の差異によって形成された。こうしたことは反義語の民族特徴の基礎である。「第四章」では、モンゴル語における反義語の分類、すなわち、オトハラソ (udqalasu) による分類、品詞による分類、移動的な意味による分類を行う。具体的に言えば、オトハラソによる分類は一つのオトハラソにおける反義語と複数のオトハラソにおける反義語という二種類にわけて、さらに一つのオトハラソにおける反義語も一つのオトハラソに一つの反義語と一つのオトハラソに複数の反義語という二種類にわけて説明する。複数のオトハラソにおける反義語にも、一つの語の複数のオトハラソにおける反義語と反義語の複数のオトハラソ

における反義語という二種類にわけて分析する。品詞による分類は名詞類の反義語、動詞類の反義語及び不変化詞類の反義語という三つの種類にわけて説明する。さらに、名詞類の反義語にも名詞の反義語、形容詞の反義語、代名詞の反義語、時間空間の反義語とわけて説明する。不変化詞類の反義語は副詞の反義語、助詞の反義語、待遇詞の反義語とわけて説明する。モンゴル語の品詞は大きく名詞類、動詞類、不変化詞類という三種類にわけて研究されている。その中で、主に名詞類と動詞類における反義語について研究され、不変化詞類における反義語は研究されなかった。これは、モンゴル語の反義語研究のもう一つの欠点である。数について、モンゴル語の名詞類と動詞類における反義語は極めて多数であり、不変化詞類における反義語は非常に少数である。反義語における研究対象として、不変化詞類における反義語を研究しなければならない。品詞に関するモンゴル語の反義語について特に説明することは、これまで、モンゴル語の反義語について説明した著作と論文には、モンゴル語の形容詞反義語の数が一番多いと説明されている。しかし、これは誤解である。モンゴル語の反義語では、動詞反義語の数は一番多いのである。移動的意味による分類には、相補反義語と両極反義語という二種類にわけて分析する。相補反義語とは、中間に移動的意味がない反義語である。相補反義語の特徴は事物を二つの状態にしか分けておらず、その間に三番目の概念を表す語が存在しないのである。両極反義語とは、中間に移動的意味ある反義語である。両極反義語は、さらに一つの移動的意味ある両極反義語と多数の移動的意味ある両極反義語という二種類にわけられる。中間の移動的な意味がその反義語の両極の連続性である。「第五章」では、モンゴル語の反義語研究に存在している意義深い問題について分析する。モンゴル語における反義語研究には様々な意義深いことが存在している。これは、モンゴル語の反義語研究において特殊なことであり、同時に見落とすことのできない研究課題である。しかし、こうした課題については、これまで研究されていないのである。具体的に言えば、特別な反義語、同義を示す反義語、反義語と反義関係、反義語と否定関係についての研究である。「第六章」では、モンゴル語の反義語の役割について述べる。モンゴル語学者達は、モンゴル語の反義語の役割について重要な研究対象として分析して、説明してきたが、主に使用の役割について限られてきた。本論では、モンゴル語の反義語の役割について四つの点から分析する。つまり、使用の役割、形成の役割、教育の役割、辞典編纂の役割ということである。そうすると、モンゴル語における反義語の役割について全面的に説明することができるだろう。「おわりに」では、以上述べた内容をまとめると同時に本論の独創性と発展性について述べる。研究論文にとって、

独創性と発展性はキーポイントである。実際、これは、この研究課題にいったい何を書き、どれくらいまで分析したかという質問に対する答えである。

本論の科学的及び学術的価値を高めるため、モンゴル語における反義語を収集し、辞典として編纂した。辞典は参考書として、学術研究のためだけではなく、日常生活の中で、広く使用される。これまで、モンゴル語に関する様々な辞典が出版されており、しかも種類も豊富であり、成果を得てきた。学生向けのモンゴル語反義語小辞書が出版されてきたが、学術研究向けのモンゴル語反義語辞典は出版されていない。したがって、学術向けのモンゴル語反義語辞典を編纂する必要がある。本書は、上部と下部という二つの部分から構成されており、上部は単語における反義語であるが、下部は連語における反義語である。その中で、単語における反義語は540組であり、連語における反義語は120組であり、合わせて660組の反義語である。また、本書の反義語の注釈は、『モンゴル語辞典』の注釈に基づき注釈を付した。これが、辞典編のことである。

この研究課題の中では、論文編は理論的なものであり、辞典編は実践的なものである。理論と実践の両面から研究を行うことで、モンゴル語における反義語研究がより詳しくより深いものになると大いに期待できる。

ଆମେ ଯେତେବେଳେ ମଧ୍ୟମ ଶ୍ରେଣୀର ଶିକ୍ଷା ଦେଉଛୁ, ସେତେବେଳେ ଶିକ୍ଷକଙ୍କୁ ଏହା ସ୍ପଷ୍ଟ କରିବାକୁ ପଡ଼ିଥାଏ ଯେ ଶିକ୍ଷକଙ୍କର ଶିକ୍ଷା ଦେବାର ଉଦ୍ଦେଶ୍ୟ କ'ଣ ହେଉଛି ।

אשר, וְאֵלֶּיךָ יָשׁוּב׃

۱. **مقدمه:** این سند به منظور بیان اهداف و سیاست‌های کلی در زمینه توسعه پایدار و رفاه اجتماعی تدوین شده است. هدف اصلی، ارتقای سطح معیشت و بهبود زیرساخت‌های کشور است.

۲. **اهداف کلان:**

- ۲.۱. افزایش تولید ناخالص داخلی و رشد اقتصادی.
- ۲.۲. ایجاد اشتغال و کاهش نرخ بیکاری.
- ۲.۳. بهبود زیرساخت‌های حمل و نقل و انرژی.
- ۲.۴. ارتقای سطح معیشت و رفاه اجتماعی.
- ۲.۵. توسعه پایدار و حفظ محیط زیست.

۳. **سیاست‌های کلی:**

- ۳.۱. سرمایه‌گذاری در بخش‌های استراتژیک و زیرساخت‌ها.
- ۳.۲. حمایت از بخش خصوصی و کسب‌وکارهای نوپا.
- ۳.۳. توسعه منابع انسانی و سرمایه‌گذاری در آموزش و بهداشت.
- ۳.۴. حفظ محیط زیست و استفاده پایدار از منابع طبیعی.
- ۳.۵. تقویت نظام مالی و پولی.

۴. **تدابیر اجرایی:**

- ۴.۱. تشکیل کمیته‌های تخصصی برای پیگیری اهداف.
- ۴.۲. تخصیص بودجه و منابع مالی برای اجرای سیاست‌ها.
- ۴.۳. نظارت و ارزیابی مستمر از پیشرفت کار.
- ۴.۴. همکاری و مشارکت بخش‌های مختلف جامعه.
- ۴.۵. شفافیت و پاسخگویی در مدیریت منابع.

۵. **نتیجه‌گیری:** با اتخاذ این سند به عنوان اساس عمل، می‌توان به تحقق اهداف توسعه پایدار و رفاه اجتماعی دست یافت.

[illegible][illegible]

はじめに

反義語は世界の全ての言語に存在している普遍的要素である。反義語は意味論の重要な位置を占めており、古今東西の学者に研究されてきた。モンゴル言語学における意味論の研究は未発達で、モンゴル語意味論の中でも反義語研究は特に不十分である。これまで、モンゴル語における反義語の研究は詳しくなされておらず、まだ氷山の一角しか見えていないと言える。これは意味論の複雑性、多様性、抽象性などの客観的な原因とモンゴル語研究者達がモンゴル語における反義語に対して研究を見落としてきたことと関係があると考えられる。しかし、客観的原因より主観的原因のほうが大きいと思われる。「反義語は、意味論の本でしばしば無視され、辞書のなかに席を通常与えられていないのは、驚くべきことである」¹⁾。そこで私は、先行研究の成果を活用しつつ、モンゴル語の反義語を総合的に、体系的に研究することを目指している。本研究課題は、論文編と辞典編の二つの部分から構成されている。

研究論文の内容は、「はじめに」、「第一章」、「第二章」、「第三章」、「第四章」、「第五章」、「第六章」、「おわりに」という8つの部分から構成される。「はじめに」では、この研究論文の構成と内容を簡単に紹介する。「第一章」では、課題を選択した理由を述べ、さらに課題の範囲、研究方法に言及する。「第二章」では、モンゴル語における反義語の研究現状について述べる。「第三章」では、モンゴル語の反義語の特徴、すなわち、意味の特徴、構造的な特徴、民族的特徴を分析する。「第四章」では、モンゴル語における反義語の分類、すなわち、オトハラソ (udqalasu) による分類、品詞による分類、移動的な意味による分類を行う。「第五章」では、モンゴル語の反義語研究に存在している意義深い問題について分析する。「第六章」では、モンゴル語の反義語の役割について述べる。「おわりに」では、以上述べた内容をまとめると同時に本論の独創性と発展性についてまとめて述べる。

本論の科学的及び学術的価値を高めるため、モンゴル語における反義語を収集し、辞典として編纂する。これまで、モンゴル語に関する様々な辞典が出版されており、成果を得てきた。学生向けのモンゴル語反義語小辞書が出版されてきたが、学術研究向けのモンゴル語反義語辞典は出版されていない。したがって、学術向けのモンゴル語反義語辞典を編纂する必要がある。これが、辞典編のことである。

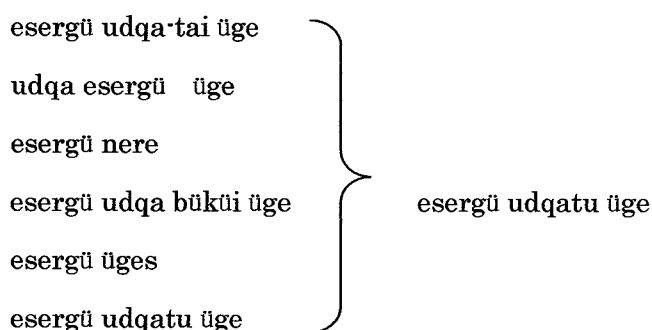
この研究課題の中では、論文編は理論的なものであり、辞典編は実践的なものである。理論と実践の両面から研究を行うことで、モンゴル語における反義語研究がより詳しくより深いものになると大きいに期待できる。

用語の採用について

モンゴル語における反義語及び意味論の用語は学者によって言い方は異なる。そして、広く使用されている用語で統一しようと考えている。「用語の標準化と呼称は用語研究の最も基本的ことであり、さらに最も重要なことである」²⁾。

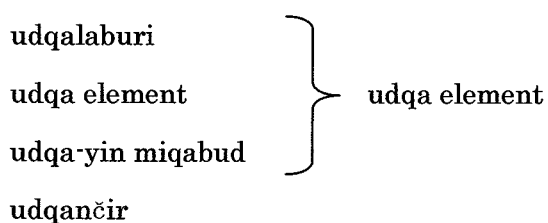
モンゴル語における反義語という用語が様々である。

esergü udqa-tai üge、udqa esergü üge、esergü nere、esergü udqa бүкүй üge、esergü üges、esergü udqatu üge など様々である。その中で、esergü udqatu üge という用語で、モンゴル語の反義語という呼称を統一しようと考えている。

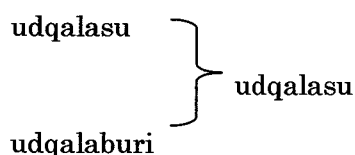


モンゴル語における意味論の最も小さい意味単位である用語の言い方が以下の並べたように色々である。

udqalaburi、udqa element、udqa-yin miqabud、udqančir などである。その中で、udqa element という用語で、モンゴル語の意義素という名称を統一しようと考えている。



モンゴル語の言葉において個々の意味である用語が内モンゴルではオトハラソ (udqalasu) という用語を使用し³⁾、モンゴル国ではオトハラブリ (udqalaburi) という用語を使用している⁴⁾。本論は、オトハラソという用語を選択し使えた。



モンゴル語の意味論の意義素分析方法という用語がモンゴル語では、**udqalaburi-bar jadalqu arya**、**udqa element-ün jadalulta-yin arya**、**miqabudčilan jadalqu arya**、**gesigünjigülkü arya** など様々である。その中で、**udqa element-ber jadalqu arya** という用語で、モンゴル語の意義素分析方法という呼称を統一しようと考えている。

udqalaburi-bar jadalqu arya	}	udqa element-ün jadalulta-yin arya
udqa element-ün jadalulta-yin arya		
miqabučilan jadalqu arya		
gesigünjigülkü arya		

[注]

- 1) フランク R. パーマー 1978 p.104
- 2) Bao qing shan 1991 p132
- 3) Badmadorji 1997
- 4) Sečen Delgerma 1996

本論では、中国・内モンゴルのホルチン語方言を基に、考察を進めることにする。

第一章 序論

当部分では、モンゴル語における反義語研究という研究課題の選択理由、研究範囲及び研究方法について述べる。

1.1. 研究課題の選択

モンゴル語の意味論の重要な研究対象として、反義語は主に大学の教科書及び研究論文で研究されてきた。しかし、モンゴル語の反義語研究は少数の反義語を列挙し、それらの反義語について分析し、さらに重複していることが多数であり、詳しく研究されていない。つまり、モンゴル語における反義語研究のレベルは低いということである。このことはモンゴル語学者達も認めている。「モンゴル語における反義語の研究は比較的少ない。モンゴル語学者達が反義語について簡単に研究したにすぎない」¹⁾。これは、モンゴル語における反義語研究のまとめと言ってもいい。それでは、モンゴル語の反義語研究がなぜ遅れているか。具体的な理由は以下のような四つ点があると思う。まず、モンゴル語について様々な辞典（例えば、類義語辞典、モンゴル語辞典、学生向けのモンゴル語辞典、モンゴル語頻度辞典、モンゴル語諺辞典、モンゴル語不変化詞辞典、モンゴル語用語辞典、モンゴル

語標準語辞典、モンゴル語意味分類辞典…) が数多く出版されてきたが、学術向けの反義語辞典が出版されていない。2002年ウランバートルで出版され、168個の反義語を注釈し、学生向けの『モンゴル語反義語小辞典』²⁾という成果はモンゴル語の反義語研究にとって喜ばしいことであるが、内モンゴルではこれまでモンゴル語における反義語辞典はまだ出版されていないのである。これは、モンゴル語における反義語研究が遅れている証拠の一つである。モンゴル語の反義語は実践的なものとして、その辞典を編纂しなければ理論的な研究を深めにくいだろう。辞典をもとに研究すれば反義語の理論的な研究を深めるのに役立つであろう。次に、モンゴル語の反義語についての研究論文は非常に少数だということである。1964年発表されたリンチンの『モンゴル語の反義語について』³⁾という論文からこれまでモンゴル語の反義語について20編ほどの研究論文が発表されている。その中に私の発表した8編の論文が含まれている。これは、モンゴル語における反義語研究は成果が少なく、発展が遅いということを反映している。モンゴル語における反義語は、研究することが少ないということではなく、実際、研究すべきことは数多くある。その次に、研究されても重複している内容が多いのである。モンゴル語の反義語について分析した論文や著作の中で重複している内容も少なくないのである。つまり、研究の独創性が乏しいことで、新しい研究成果が不足しているということである。例えば、モンゴル国における学者達の編集したモンゴル語の意味論の代表的な著作である『orčin čay-un mongyul kelen-ü udqa sudulul-un ündüsü』⁴⁾と内モンゴルの学者達の編集したモンゴル語意味論の代表的な著作である『mongyul kelen-ü udqa sudulul』⁵⁾という二冊の本では、反義語の意味関係という部分の内容がまったく同じである。また、研究論文については『mongyul kelen-ü esergü udqa-tai üge-yin tuqai』と『mongyul kelen-ü esergü udqa-tai üge-yin tuqai öcügen ajiylal』という二つの論文を見てみよう。この二論文には合わせて147の例（前者は81の例、後者は66の例）が並べられ、その中で、同じ例が112個ある。つまり例の全体の76%が重複していることである。実際、モンゴル語における反義語研究には研究されていないことや詳しく研究されていないことが非常に多いのである。最後に、モンゴル語における反義語研究に誤っている問題が多く存在している。このことについては、後ほど詳しく説明する。これは、客観的な理由である。主観的理由について、私は、モンゴル語における反義語研究に興味をそそられて、この課題についての資料と研究成果を集め、さらに学者達と交流し、意見を交換し合い、見聞を広めた。また、私はモンゴル語の反義語についての学術論文も10編ほど発表し、反義語についての

理解を深めた。これは、私にとって、非常に勉強になり、同時にモンゴル語の反義語研究の基礎となった。総じて、モンゴル語の反義語を体系的に研究することはモンゴル語の意味論を深めることに役立つであろう。実際、モンゴル語のみの反義語研究が遅れているということではない。「これまで、国内外において言語における反義語の特徴が詳しく研究されていない」⁶⁾。以上がこの研究課題を選択した理由である。

1.2. 研究課題の範囲

これまで、モンゴル語における反義語の研究対象は単語のみに限られてきた。例えば、sayin (良い) ⇨ mayu (悪い)、yeke (大きい) ⇨ baya (小さい)、nökür (友) ⇨ dayisun (敵)、qayira (愛) ⇨ qorusul (憎み)、abqu (もらう) ⇨ ögkü (あげる)、irekü (来る) ⇨ očiqu (行く) などである。これは、モンゴル語の反義語研究の対象となる語の一部を研究したにすぎない。つまり、もう一つの重要な研究対象である連語反義語を見落としている。これは、モンゴル語の反義語研究において非常に残念なことである。モンゴル語における反義語の研究対象は単語反義語だけではなく、連語反義語も存在する。例えば、erkim degedü (上品) ⇨ egel douradu (下品)、ünenči siduryu (誠実な) ⇨ jisur jaliqai (ずるい)、aburyu yeke (膨大) ⇨ öčüken baya (微小)、qabsurču demjikü (助ける) ⇨ qourlaju könügekü (妨げる)、šal ondoo (まったく異なる) ⇨ egege adali (まったく同じ)、siyud qaričayatu (正比例) ⇨ urbayu qaričayatu (反比例) など多数である。モンゴル語の反義語の数量について、当然のことながら、単語反義語は連語反義語よりはるかに多い。具体的に言えば、単語反義語は540組であり、連語反義語は120組である。しかし、連語反義語もモンゴル語における反義語の研究対象として、無視すべきではない研究課題である。

1.3. 研究課題の方法

どのような研究方法を使用するか、またどのように使用するかということは、研究上において非常に重要である。本論には、研究方法として、統計的方法、構造分析的方法、図式化方法、意義素分析方法という四つの方法を使用する。統計的方法とは、色々なジャンルの反義語の数量を統計しながら分析する方法である。これは、説得力がある研究方法として、様々な分野で広く使用されている。これまで、モンゴル語の反義語は統計的方法を用いて研究されていない。構造分析方法とは、モンゴル語の反義語を構造の角度から研

究する方法である。モンゴル語は膠着語であり、語幹、接尾辞から構成されている。構成分析方法を通してモンゴル語における反義語の構造のモデルを明らかにすることができる。図式化方法とは、分析したことを図式化することである。周知のように、意味論は非常に抽象的なことであるので、図式化方法を使用することによって言語で描写するよりもっとわかりやすくなるのである。この方法は、モンゴル語の意味論研究にますます注目を集めている方法である。意義素分析方法とは語の内部的構造を明らかにする有効な方法である。意義素は意味論の研究対象とする最も小さな単位である。意義素が発見されたことは意味論の大きな進歩である。意義素分析方法はモンゴル語の意味論に積極的使用されている方法である。この四つの研究方法は、モンゴル語の反義語を詳細に研究することに大きく貢献すると思われる。

[注]

- 1) Somiyabayatur nar 1987 P.132
- 2) Bandi 2002
- 3) Rinčin 1964
- 4) Badmadorji 1997 pp.128—129
- 5) Delgerma 2002 pp.178—180
- 6) 王振昆 1982 p.75

第二章 モンゴル語における反義語研究の現状

反義語はモンゴル語における意味論の重要な研究対象として、モンゴル語の意味論や語彙論の著作などで分析され、研究されてきた。そのほか、モンゴル語における反義語についての研究論文がいくつか発表されてきた。モンゴル語の反義語を研究する時、まず、これまでのモンゴル語における反義語研究の現状を理解する必要がある。実際、これまでのモンゴル語における反義語研究のレベルを理解するというのが、モンゴル語における反義語を体系的に研究するための前提である。わかりやすくするため、モンゴル語における反義語研究の現状について研究概況と誤っている問題という二つの部分に分けて説明しよう。

2.1. 反義語研究の概況

モンゴル語における反義語は、様々な内容が分析されたが、研究の深さかというとあまり進まなかった。これは、モンゴル語における反義語研究を重視しなかったことと関係があると思われる。そのほか、研究の方法や角度にも関係があると思われる。これまでモンゴル語における反義語の研究概況についてまとめれば以下ようになる。

2.1.1 モンゴル語における反義語の概念について三つの面で説明していた。つまり、「意味の対立関係がある語は反義語である」、「意義素が対立している語は反義語である」、「対立概念を表す語は反義語である」などである。

2.1.2 モンゴル語における反義語の研究対象については、単語のみの反義語は研究されてきたが、連語反義語が研究されていないのである。

2.1.3 モンゴル語における反義語の特徴については、同じ品詞の語のみは反義語になるが異なる品詞の語は反義語になることができないと強調してきた。また、全ての語に対応する反義語があると限らないと説明している。

2.1.4 モンゴル語における反義語の分類について、概念による分類、移動的な意味による分類などの視点から簡単に研究してきた。

2.1.5 モンゴル語における反義語の数について、形容詞反義語、動詞反義語、名詞反義語の数が多いと説明している。その中で、モンゴル語において形容詞反義語の数が最も多いと強調している。

2.1.6 モンゴル語における反義語の役割について、現象と物事の矛盾をはっきり表現でき、意味をわかりやすく示すことができると説明している。

以上は、モンゴル語における反義語の研究概況のまとめである。

2.2. 反義語研究に対する誤解

モンゴル語における反義語研究は以前より次第に進んでいると同時に、色々な点で誤っていることが少なくないのである。これらの問題は直さなければならないと思われる。

2.2.1 モンゴル語における反義語の概念について、三種類の視点で説明されている。つまり、「意味が対立している語が反義語である」、「対立概念を示している語が反義語である」、「意義素が対立している語は反義語である」などである。しかし、その三つの説明にはそれぞれ不足点があると思われる。一番目の概念である「意味が対立している語が反義語である」という説明は反義語の意味的特徴を強調したが、文法形式の特徴について無視した

ということである。例えば、ariyun čeber (きれい) と bujar (汚い) という二つの語は意味の点で対立しているのに反義語になることができない。なぜならば、連語と単語の対立関係からである。二番目の概念である「対立している概念を示している語が反義語である」という説明は、モンゴル語における不変化詞類の反義語を含められなかった。モンゴル語における全ての語が概念を示すとは限らない。例えば、モンゴル語の助詞(sula üge)、副詞(dayiburi üge)、待遇詞(qandulya üge)などは概念を示せないのに反義語になることができる。中国語の学者も概念の角度から反義語を説明したことはある。「反義語は対立している概念の両面を表している」¹⁾。三番目の概念である「意義素が対立している語は反義語である」という説明は間違っているのは確実のことである。なぜならば、意義素が対立して語が全て反義語になるとは限らないからである。例えば、abu (父) ⇔ eji (母) という二語の反義語になることができなく、家族関係を表す関係名詞(qaričaya nere)である。この二語を意義素分析すれば以下のようなようである。

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{abu } [\text{öber-ün beye-yil}][\text{törügsen}][\text{eregtei}] \\ \text{eji } [\text{öber-ün beye-yil}][\text{törügsen}][\text{emegtei}] \end{array} \right.$$

分析によると、abu と eji という二語が対立する意義素の[eregtei]と[emegtei]によって区別されている。しかし、この二語が反義語になることができないのは明確である。「意義素は対立している語は全て反義語になるとは限らないのである」²⁾。

以上は、モンゴル語における反義語の概念についての説明の分析である。

2.2.2 モンゴル語における反義語の品詞による分類について、これまで、形容詞反義語の数が最も多いと説明されてきたが³⁾、実際、モンゴル語における反義語の中で、形容詞反義語は最も多くはなくて、動詞反義語が最も多いのである。このことについて反義語の分類という部分で詳しく説明する。

2.2.3 モンゴル語における反義語研究の中で、特に例の誤っていることが少なくないのである。これは、モンゴル語における反義語の対等性については詳しく理解しなかったからである。対等性について後で詳しく説明する。例の間違ひはモンゴル語の反義語研究において深刻な問題である。この誤っている点を正さなければならない。それは、研究者や一般の人に誤解を与える恐れがあり、さらにモンゴル語の反義語研究が順調に行われることに不利だからである。引き続き、モンゴル語における反義語の誤っている例について例の分類及び具体的な分析という二種類にわけて説明する。まず、誤っている例の分類について説明する。

2.2.3.1 誤った例の分類

モンゴル語における反義語研究の誤った例の分類は文法の点で誤った例と意味の点で誤った例の二つのジャンルにわけられる。では、それぞれ分析する。

2.2.3.1.1 文法の点で誤った例

文法の点で誤っている例はさらに品詞の混同している例、格がついた例、文法形式が混同している例など小さく事項にわけられる。

2.2.3.1.1.1 品詞が異なった例

jalayu (若い) — ötelügsen (年寄りになる)、qaskiraqu (大声で呼ぶ) — duyui (黙る)、bayingyu (常に) — jarim (一部分)

2.2.3.1.1.2 格がついた例

kümün-ü (他人の) — öber-ün (自分の) 、egüride-yin (永遠の) — jaɣurada-yin (一時的な)

2.2.3.1.1.3 文法形式が異なった例

理論的に詳しく説明するため、さらに二つのジャンルにわけて説明しよう。

2.2.3.1.1.3.1 原級と比較級の混同した例

qarangyui (黒い) — gegeken (明るい)

2.2.3.1.1.3.2 語尾の異なる例

jiryal (幸せな) — jobulang (苦しみ)、uridu (前) — qoyina (後)、ekilelte (はじめ) — tegüsül (おわり)、yadana (外) — dotura (中)

2.2.3.1.2 意味の点で誤った例

意味の点で誤っている例は肯定関係と否定関係の例、原語とその否定の例、対立関係が誤った例、対立関係ではない例という点で反映されている。

2.2.3.1.2.1 tai と ügei がついた例：

kücü-tei (力がある) — kücü ügei (力がない)、sedkil-tei (気持ちがある) — sedkil ügei (気持ちはない) idebki-tei (積極的) — idebki ügei (積極的でない)
ayur-tai (怒りがある) — ayur ügei (怒りがない) 、

2.2.3.1.2.2 原語とその否定関係の例：

adali (同じ) — adali ügei (同じでない)、bolqu (よい) — bolqu ügei (いけない)、irekü (来る) — irekü ügei (来ない)、qauli yosun-u (正義) — qauli yosun-u bisi (正義でない)

2.2.3.1.2.3 対立関係が誤った例

ayurlaqu (怒る) — iniyekü (笑う)、 alququ (歩く) — joy-suqu (立つ) 、 erte (早い) — qojim (今後)、 emegen (おばあさん) — keüken (娘)、 oyilayaqu (わかる) — martaqu (忘れる)、 ulayan (赤い) — qara (黒い)、 iniyekü (笑う) — qaniyaqu (咳が出る)、 čeber (きれい) — maruqai (醜い)、 ebül (冬) — qabur (春)、 martaqu (忘れる) — sanaqu (知る) 、 büdügün (太い) — baya (小さい)、

2.2.3.1.2.4 対立関係ではない例

nara (太陽) — jibar (風)、 nidü (目) — čiki (耳)、 oryil (頂上) — bel (ふもと) 、 nara (太陽) — sara (月)、 daruqa (リーダー) — čerig (兵)、 törü (国) — šašin (宗教)

2.2.3.2 誤った例の分析

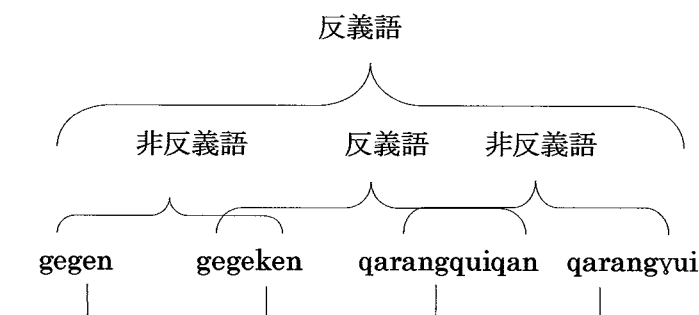
続いて、上記の例の存在している問題点について具体的に分析してみよう。

2.2.3.2.1 例 2.2.3.1.1.1 の誤った理由は、異なる品詞の語の対立からである。反義語は必ず同じ品詞の語から構成されている。異なる品詞の語が異なる概念を表すため、反義語になることができないのである。このことについて学者達は意見が合意している。これは正しい見解である。例えば、jalayu という語は名詞あるいは形容詞であり、ötelügsen という語は動詞だから反義語なることができない。代わりに jalayu (若者) — kögsin (年寄り)、jalayujiqu (若くなる) — ötelkü (年寄りになる) はそれぞれ名詞 (たまた形容詞)、動詞から反義語である。qaskiraqu という語は動詞であり、duyui という語は形容詞から反義語になることができない。かわりに qaskiraqu — sibegenekü という言葉は反義語になることができる。bayingyu という言葉は副詞であり、jarim という言葉は代名詞から反義語になることができない。しかし bayingyu — qaya、bökö — jarim は反義語になることができる。

2.2.3.2.2 例 2.2.3.1.1.2 の誤った理由は、例の誤った理由は、モンゴル語における反義語は語とその格がついた語で表現ではない。モンゴル語の格は語ではなく、語の間の関係を示す文法範疇である。そして、格がついた語は反義語になることができない。

2.2.3.2.3 例 2.2.3.1.1.3.1 の誤った理由は、形容詞の原級と比較級の対立からである。具体的に言えば、gegeken という語は gegen という形容詞の比較級であり、qarangyui は比較級でなく、原級である。qarangyui という語の比較級は qarangyuyiqan ということであ

る。それで、正解は qarangyui $\ni$ gegen あるいは gegegen $\ni$ qarangyuiqan である。同一級の間で反義語になることはできるが、異同級の間で反義語になることはできない。図式化すれば以下の通りである。



2.2.3.2.4 例 2.2.3.1.1.3.2 の誤っている理由は、語尾は同一ではないからである。つまり文法形式は異同である。これは、反義語の対等性と矛盾する。対等性について後で詳しく説明する。正解は uridu $\ni$ qoyitu あるいは qoyina $\ni$ emüne であり、ekilelte $\ni$ tegüsülte あるいは ekilel $\ni$ tegüstül であり、yadana $\ni$ dotuna あるいは yadar $\ni$ dotur であり、jiryal $\ni$ jobal あるいは jiryalang $\ni$ jobalang である。

2.2.3.2.5 例 2.2.3.1.2.1 の誤っている理由は、単語あるいは連語の後に肯定助詞の tai と否定助詞の ügei という語が入ったからである。モンゴル語は名詞の後ろに助詞である tai と ügei が付いて肯定と否定の意味を表す。そういう語は矛盾する関係を表すが反義語ではない。

2.2.3.2.6 例 2.2.3.1.2.2 の誤っている理由は、まず、類型は異なる語からである。つまり、単語と複合語の対立である。「一つの単語から構成されている語は相互に反義語になり、二つの単語から構成されている語は相互に反義語になる」³⁾。次に、原語とその否定関係の語は、反義語にはなることができないのである。否定関係と反義語は、異なる概念である。原語とその否定関係の語が反義語であるとすれば、モンゴル語のほとんどの語には、対応する反義語が存在するということになる。実際、モンゴル語では、対応する反義語がない語はモンゴル語に数多くある。反義語の有名な学者である謝文慶は、反義語になることができない六つの条件を提出し、その中で、三番目の条件は「原語とその否定関係は反義語になることができないのである」ということである⁴⁾。このことについて後で説明する。

2.2.3.2.7 例 2.2.3.1.2.3 の誤った理由は、モンゴル語における反義語になる基礎である対立関係ではないからである。正解は以下のようになる。

誤解の例	正解の例
ayurlaqu — iniyekü	ayurlaqu ≡ bayarlaqu, iniyekü ≡ uqilaqu
alququ — joysuqu	alququ ≡ güyükü, yabuqu ≡ joysuqu
emegen — keüken	emegen ≡ ebügen, küü ≡ keüken
oyilayaqu — martaqu	oyilaqu ≡ quuturaqu, martaqu ≡ sanaqu
ulayan — qara	qara ≡ čayan
erte — qojim	erte ≡ orui, odu ≡ qojim
iniyekü — qaniyaqu	iniyekü ≡ uqilaqu
čeber — mayuqai	čeber ≡ bujar, sayiqan ≡ mayuqai

2.2.3.2.8 例 2.2.3.1.2.4 の誤っている理由は、意味の点で対立関係ではないし、しかも対応する反義語が存在していないからである。oryil — bel, nara — jibar, nidü — čiki, nara — sara, daruya — čerig, törü — šašin などの語は相互に対立関係ではないであり、その上相互に対応する反義語がないということである。ある語に対応する反義語があるが、ある語に対応する反義語がないのである。「反義語であるかないかということは、その言語の特徴によって決められる」⁵⁾。

例文はその概念の説明を証明する重要な証拠である。例が誤れば、その概念について誤解する恐れがあるので、特に注意しなければならない。これは、例の重要さである。正確の例がその概念を理解するうえで重要な役立を果たすのは言うまでもない。概念を正確に説明しても、例が誤れば、理解しにくくなり、逆に例を正確に説明しても、概念の説明が誤れば理解しにくくなる。概念も例も誤れば、結論は当然信用できないであろう。だからこそ、学者達は概念をわかりやすく、しかも正確に説明するため注意していると同時に、例の正確さにきわめて注意を払っている。これは概念と例の関係である。

[注]

1) 王徳春 1997 p.107

2) Tulıyayuri 1993 p.27

3) 傅朝阳 1980 p. 46

4) 謝文慶 1986 p.37

5) Tedke 1987 p.277

第三章 モンゴル語における反義語の特徴

特徴の研究は、モンゴル語の反義語研究において重要な研究対象であると同時に理論的な研究である。そのため、その特徴について詳しく研究しなければ、モンゴル語の反義語研究を深めることができない。換言すれば、モンゴル語の反義語研究が詳細に研究されなかった理由の一つはその特徴について研究が不足しているからである。モンゴル語における反義語の特徴について意味的特徴、構造的特徴、民族的特徴という三種類に分けて分析する。モンゴル語における反義語研究の特徴について、研究者達は意味的特徴を重視して分析したが、構造的特徴と民族的特徴についてはほとんど研究していなかった。意味的特徴は意味論の角度から研究されたのに対して、構造的特徴は形態論と意味論の角度から研究され、民族的特徴は言語学、民俗学、社会学、人類学など色々な研究課題と関係がある総合的研究である。当然のことながら、反義語の民族的特徴が非常に複雑な研究であるのは言うまでもない。

総じて、特徴の研究が詳細であればあるほどモンゴル語の反義語研究はより一層に進めることができる。したがって、本論では、私はモンゴル語の反義語の特徴についてできるだけ詳しく分析しようと思う。

3.1. 意味的特徴

モンゴル語における反義語の意味的特徴は反義語の基本的な特徴である。モンゴル語の反義語の意味的特徴は理論の視点からの研究が非常に不足している。反義語の研究を深めるため、まず意味的特徴を明らかにする必要がある。モンゴル語における反義語の意味的特徴は様々である。

3.1.1. 反義語の対等性について

モンゴル語の反義語について、まず研究しなければならない特徴は対等性である。対等性の概念とその重要さを説明する前に、先に例を分析しよう。1) *čayan* (白い) — *qaralaqu* (黒くなる)、2) *irekü* (来る) — *očina* (行く)、3) *degere* (上) — *douratu*(下)、4) *yadaɣu qoyusun* (貧乏) — *bayan* (金持ち)、5) *nimgen* (薄い) — *juɣayaqan* (厚

め)、6) *mendülekü* (生まれる) — *ükükü* (死ぬ) などである。当然のことながら、これらの語は反義語になれないのは明白である。なぜ、反義語になれないか。その理由について分析しよう。例1) は、品詞の異なる(形容詞—動詞)語だからであり、例2) は、形態の形式、つまり接尾辞が異なる(形動詞形—終止形)からであり、例3) は、語尾が異なる(-*re*—*-tu*)からであり、例4) は、類型が異なる(連語—単語)からであり、例5) は、品詞は同じ形容詞であるが、級が異なる(原級—比較級)からであり、例6) は、付加的意味が異なる(敬語—普通語)からである。正解は以下のようになる。*čayan* (白い) $\ni$ *qara* (黒い)、*qaralaqu* (黒くなる) $\ni$ *čayiraqu* (白くなる)、*irekü* (行く) $\ni$ *očiqu* (行く)、*irene* (来る) $\ni$ *očina* (行く)、*degere*(上) $\ni$ *doura*(下)、*douratu*(下) $\ni$ *degedü*(上)、*yadayu qoyusun*(貧乏) $\ni$ *bayan činegelig*(金持ち)、*bayan*(金持ち) $\ni$ *yadayu*(貧乏)、*nimgen*(薄い) $\ni$ *jujayan*(厚い)、*nimgeken* (薄め) $\ni$ *jujayaqan*(厚め)、*mendülekü*(生まれる<敬語>) $\ni$ *nögčikü*(死ぬ<敬語>) *törükü*(生まれる) $\ni$ *ükükü*(死ぬ)である。

モンゴル語における反義語の研究は、意味論の範囲のみの研究ではなく、形態論にも密接な関係がある。しかし、これまで、モンゴル語における反義語研究は意味論のみの角度から研究されており、形態論の視点から研究されていなかった。これは、モンゴル語における反義語研究が他の研究分野より遅れてきた一つの要因である。したがって、モンゴル語における反義語は意味論のみの視点からではなく、形態論と付加的意味の視点からも詳しく研究しなければならない。例の分析によると、モンゴル語における反義語は意味の対立だけではなく、文法形式が同一であることと付加的意味が必ず同一であるということである。これは、モンゴル語における反義語の対等性である。文法形式の同一とは接尾辞の同一、類型の同一、品詞の同一、級の同一など様々である。付加的意味の同一とは、敬語—敬語の同一、普通語—普通語の同一、現代語—現代語の同一、古代語—古代語の同一など様々である。モンゴル語における反義語は、意味の点で反義関係を基に、文法形式の同一と付加的意味の同一も考慮する必要がある。文法形式及び付加的意味の同一がなければ、意味の点のみで反義関係になっても反義語になることができない。モンゴル語の反義語は意味の対立関係、文法形式が同一及び付加的意味が同一でなければならない。つまり、モンゴル語の反義語はその三つの要求の集合体である¹⁾。したがって、モンゴル語の反義語とは、対等性の条件に一致する語である。対等性はモンゴル語における反義語研究に、非常に重要な基本的条件であり、同時に反義語であるかどうかを検証する基準である。換言

すれば、対等性について正しく理解すれば、モンゴル語の反義語について正しく理解できるということである。したがって、反義語であるかどうかということは主観的にあるいは直感的に判断して決められることなく、対等性という客観的な検証基準を通して判断して決められるであろう。モンゴル語における反義語の研究に、色々な誤っている考え方が存在している最大の理由と最も直接的な理由は反義語の対等性に言及されなかったからである。反義語の最も重要な特徴について異なる観点を持ち学者もいる。「対立関係と文章の中で対立使用されることは反義語の最も重要な特徴である」²⁾。中国語の学者達は反義語の対等性について様々な点から分析してきた。例えば、「付加的意味の同一、品詞の同一、韵律の同一は反義語の重要な条件である」³⁾。「反義語は文法形式の点で一致する必要がある」⁴⁾。「書き言葉は相互に反義語になり、話し言葉は相互に反義語になる」⁵⁾。モンゴル語における反義語の対等性を図で示せば、より明瞭になる。

3.1.2. 対立しながら統一することについて

モンゴル語における反義語が対立すると同時に統一するという特徴の研究は、最近のことである。この特徴は意義素分析方法を通して明らかにすることができる。

意義素分析方法は音声の弁別的特徴を明らかにする方法から啓発された意味論の分析方法である。この方法は語の内部的な構造と本質を明らかにする上で有効な方法である。モンゴル語の意味論に意義素分析方法は積極的に適用され、モンゴル語の意味論の発展に寄与している。具体的に言えば、モンゴル語の意味論の研究対象が以前は、単語 (udqalasu) と複合語 (kelkisü) に限られており、現在は、研究対象は広がり、最も小さな研究対象である udqa element (意義素) から最も大きな研究対象である yarisu (談話の意味) まで広がり、七つの研究対象になった。つまり、A1- udqa element (意義素)、A2 - udqalasu (語の意味)、A3- kelkisü (複合語の意味)、A4-ögülesü (文章の意味)、A5- yasisu (談話の意味)、A6- bötügesü (接尾辞の意味)、A7-nemelte udqa (付加の意味) である⁶⁾。その中で、A1、A2、A3、A4、A5 の意味関係を図式化すれば以下の通りである (図1)。モンゴル語の意味論の研究対象は、以前は udqalasu (A2) と kelkisü (A3) という二つの研究対象だった。図式化すれば以下の通りである (図2)。

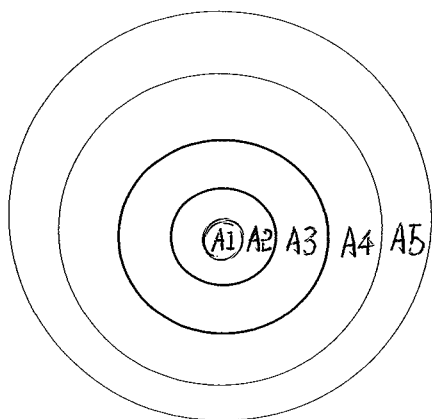


図1

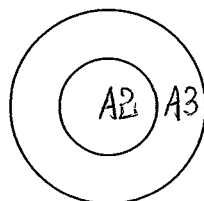


図2

引き続き、具体的にモンゴル語における反義語の例を意義素分析方法で分析してみよう。例えば、qola (遠い) ≡ oyira (近い) 、 jegün (左) ≡ barayun (右) 、 yang yamsiy (干ばつ) ≡ usun yamsiy (水害)、bayartu jüčüge(喜劇) ≡ yuniytu jüčüge(悲劇) などである。

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{qola } [\text{ögülegçi-eçe}] [\text{aluslaqu jai}] [\text{yeke}] \\ \text{oyira } [\text{ögülegçi-eçe}] [\text{aluslaqu jai}] [\text{baya}] \end{array} \right.$$

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{jegün } [\text{jüg çiglel}] [\text{naran}] [\text{manduqu}] \\ \text{barayun } [\text{jüg çiglel}] [\text{naran}] [\text{tasiqu}] \end{array} \right.$$

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{yang yamsiy } [\text{baiyali-yin yamsiy}] [\text{qura boruyan}] [\text{bayaduqu}] \\ \text{usun yamsiy } [\text{baiyali-yin yamsiy}] [\text{qura boruyan}] [\text{yeketükü}] \end{array} \right.$$

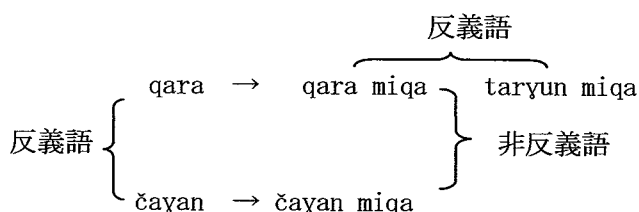
$$\left\{ \begin{array}{l} \text{bayartu jüçüğe } [\text{jüçüğe}] [\text{üre düng}] [\text{kümüs-yi}] [\text{bayaqlayulqu}] \\ \text{yunıytu jüçüğe } [\text{jüçüğe}] [\text{üre düng}] [\text{kümüs-yi}] [\text{qaramsayulqu}] \end{array} \right.$$

上記の分析によると、qola ⇔ oyira という反義語は、[ögülegçi-eçe][aluslaqu jai]という共性意義素と[yeke]、[baya]という二つの個性意義素から構成されている。共性意義素とはその二つの語が反義語になる前提であると同時にその二語の共通点である。個性意義素とはその二語が反義語を形成する要因である。そして、反義語は共通性の意義素を基に互いに関連して、個性の意義素の区別特徴によって反義語になっている。その通りに、jegün ⇔ barayun という反義語の共通意義素は[jüg çiglel][naran]であり、個性意義素は[manduqu]と[tasiqu]の二つである。yang yamsiy と usun yamsiy という反義語の共通意義素は[baiyali-yin yamsiy][qura buruyan]であり、個性意義素は[bayaduqu]と[yeketükü]である。bayartu jüçüğe ⇔ yunıytu jüçüğe という反義語の共通意義素は[jüçüğe][üre düng][kümüs-yi]であり、個性意義素は[bayaqlayulqu]と[qaramsayulqu]である。

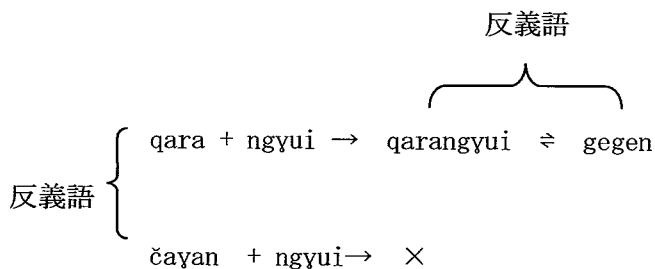
3.1.3. 反義語の多様性について

3.1.3.1. ある反義語がほかの単語と組み合わせ使用されるときは反義語になることができない場合がある。これは、その単語は元の意味を失い、二つの語は一つの語の意味を示すということである。つまり意味変化によって異なっている。例えば、qara (黒い) と çayan (白い) という語は反義語であるが、miqa という単語と組み合わせ使用される場合は反義語になることができない。つまり、qara miqa と çayan miqa という二つの語は反義語になることができない。なぜならば、qara miqa と çayan miqa は意味の点で互いに対立

する関係がないからである。qara miqa という語は脂肪が少ない肉を指すのに対して、čayan miqa という語が肛門の端の肉である。しかし、qara miqa という語は 脂肪が多い肉である taryun miqa という語と反義語になる。モンゴル語では qara と taryun という二つの単語は反義語になることができない。qara という単語は čayan という単語と反義語となり、taryun という単語は turangqai という単語と反義語になる。つまり、以下のようになる。



3.1.3.2. ある反義語の後ろにある接尾辞を連続して新しい反義語を形成するが、ある接尾辞はその反義語の一つの語に連続できるが、もう一つの語に連続できない場合もある。例えば、qara ≡ čayan という反義語では、-ra-という接尾辞を連続すれば、qarala-（黒くなる） ≡ čayira-（白くなる）という動詞の反義語を形成できる。しかし、ngyui という接尾辞を連続すれば、qara という単語に連続できるが、čayan という単語に連続できない。新しい形成された qarangyui という語が gegen という語と反義語になることができる。つまり、以下のようになる。



3.1.3.3. ある反義語の前に必ずしも同じ修飾語が要るとは限らないが、語によって異なる。例えば、qara ≡ čayan という反義語では、その二つの単語の前に程度副詞の masi（とても）、tung（非常に）、neliyed（かなり）などの語に組み合って、masi qara（とても黒い）、masi čayan（とても白い）、tung qara（とても黒い）、tung čayan（とても白い）、neliyed qara（かなり黒い）、neliyed čayan（かなり白い）などの反義語が形成できる。しかし、qara という単語の前に修飾語の kō が要るが、čayan という単語の前に要らない。逆に、čayan という単語の前に labai という修飾語が要るが、qara という単語の前にいら

ないのである。つまり、以下のようになる。

$$\begin{array}{l}
 \left. \begin{array}{l} \text{反義語} \left\{ \begin{array}{l} \text{qara : } \text{kö} + \text{qara} \rightarrow \text{kö qara} \text{ (非常に黒い)} \\ \text{čayan : } \text{labai} + \text{čayan} \rightarrow \text{labai čayan} \text{ (非常に白い)} \end{array} \right. \end{array} \right\} \text{反義語} \\
 \left. \begin{array}{l} \text{反義語} \left\{ \begin{array}{l} \text{qara} \rightarrow \text{labai qara} \text{ (×)} \\ \text{čayan} \rightarrow \text{kö čayan} \text{ (×)} \end{array} \right. \end{array} \right\}
 \end{array}$$

3.1.3.4. 興味深いことは、ある反義語がある単語と組み合わせて使用される場合は反義語になることができないが、逆に同義語になることができる。例えば、qara ≡ čayan という反義語は ariki (酒) という単語と組み合わせて使用される場合は、同義語の意味を示す。つまり、qara ariki (黒い酒) — čayan ariki (白い酒) である。この二つの語の意味は同じだが、内モンゴルでは、qara ariki と言うのに対して、モンゴル国では čayan ariki と言う。中国語の白酒という言い方はモンゴル国においてモンゴル語の čayan ariki という言い方と同一である。語の同じモンゴル民族でも地域によって語の使い方が異なる。これは、モンゴル語の反義語の特殊な現象である。

3.1.3.5. 反義語になることができない二つの単語はある単語に組み合わせて使用される場合新しい反義語を形成することもある。例えば、siyud (直接) と urbayu (逆) という二つの単語は単語として反義語になることができない。しかし、この二つの単語は qaričayatu (比率) という単語と組み合わせて使用される場合は反義語になることができる。つまり、siyud qaričayatu (正比率) ≡ urbayu qaričayatu (反比率) は反義語になる。usu (水) と yang (干ばつ) という二つの単語は単語として反義語になることができないが、その二つ単語は yamsiy (災害) という単語と組み合わせて使用される場合、つまり usun yamsiy (水害) と yang yamsiy (干ばつ) という二つの連語は反義語になることができる。つまり、usun yamsiy ≡ yang yamsiy である。これは、語の組み合わせ関係によって決められることである。

3.1.4. 対応する反義語について

モンゴル語の反義語について分析した多数の著作では、全ての語に対応する反義語があるわけではないと強調してきた。「反義語は語彙の重要なものであるが、全ての語に対応する反義語があるとは限らないのである」⁶⁾。反義語は全ての語に存在している普遍的なも

のであるが、全ての語に反義語があるとは限らない。「世界の全ての言語に反義語は存在しているが、全ての語に対応する反義語あるとは限らない」⁷⁾。「反義語は言語のものだから、全ての矛盾している物事、概念は反義語を通して表現できるとは限らない」⁸⁾。例えば、『モンゴル語辞典』には7万ほどのモンゴル語を掲載して注釈を加えている⁹⁾。また、学者であるB・リンチンは「モンゴル語の語彙は約10万ある」と述べている¹⁰⁾。しかしながら、モンゴル語の反義語は、モンゴル語の一部分を占めるにすぎないのである。中国語では、反義語は少なくとも4000個あると述べている¹¹⁾。具体的に言えば、

用語類：abiya (音声)、atum (原子)、körüŋge (資本)、es (細胞)、energi エネルギー
tegsidgel (方程式)、not (楽譜) …

鳥類— bijuqai (スズメ)、keriye (カラス)、todi, toyus (クジャク) qariyačai (ツバメ)、eliye (とび)、bödüne (うずら) …

動物類— arslan (ライオン)、činua (狼)、bars (トラ)、jayan (象)、taulai (兎)、ünege (狐)、jaraya (はりねずみ) …

果物類— banana (バナナ)、toyur (もも)、almurad (りんご)、alima (なし)、jürji (みかん)、güyilestü (あんず)、samur (くるみ) …

野菜類— songgina (葱)、töbed qasi (トマト)、örgesütü kemke (きゅうり)、tömüsü (ジャガイモ)、yoyud (にら) …

家畜類— noqai (いぬ)、muur (ねこ)、mori (馬)、yaqai (豚)、üker (牛)、takiya (鶏)、qoni (羊) …

交通工具類— masin (車)、bolu (自転車)、motur (バイク)、ongyuča (船)、yaltu terge (列車)、niskel (飛行機) …

家庭用品類— köldegegür (冷蔵庫)、jiruytu radio (テレビ)、yar utasu (携帯電話)、qorqu (たんす)、sirege (机)、sandali (椅子) …

植物類— ebesü (草)、čečeg (花)、modu (木)、qulusu (竹)、narasu (松) uda (榆)、uliyasu (柳) …

資源類— čilayun tosu (石油)、alta (金)、mönggü (銀)、negüresü (煤)、temür (鉄)、bolud (鋼鉄)、jes (銅)、tuyulya (鉛) …

しかし、方向詞及び位置詞に対応する反義語の確率が高いのである。そのほか、動作や変化を示す語及び特徴を示す語に対応する反義語が多いのである。

3. 1.5. 反義語と類義語の相互関係について

モンゴル語の反義語と類義語は、非常に重要な意味関係にあり、意味論や語彙論の著作の中では、重視して強調して分析してきた研究対象である。したがって、反義語と類義語が意味論で重要な位置を占めている。このことは、学者達に認められている。「語彙は意味の点で、反義語と類義語という二ジャンルに分けられる」と述べた学者もいる¹³⁾。

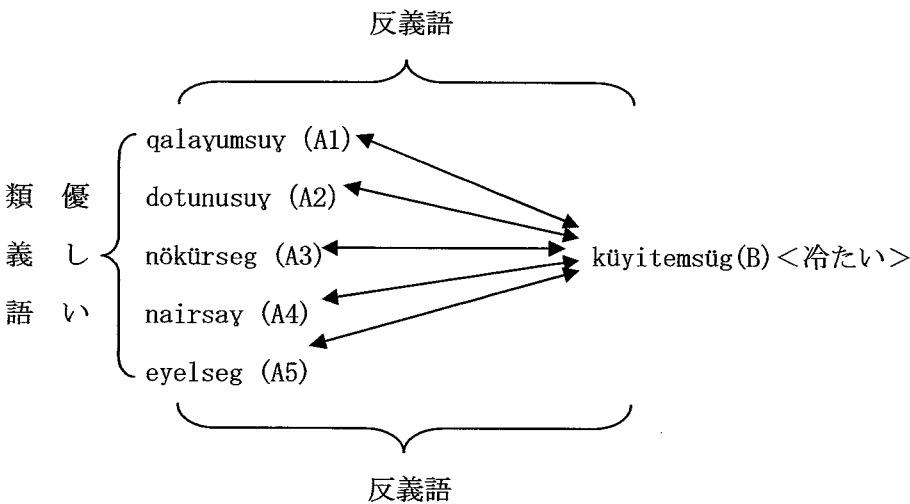
「反義関係と類義関係は意味論の中で最も注目を集めている二つの意味関係である」¹⁴⁾。

「語の意味関係のジャンルはいろいろであり、その中で一番注目を集めているのは対立関係（反義語）と類義関係（類義語）である」¹⁵⁾。反義語と類義語というものの名称から見ると、相互に関係がない意味の研究対象のようである。しかし、反義語と類義語は密接な関係がある。反義語と類義語は意味論の異なる研究対象であるが、両者は互いに対立するのではなくて、逆に両者の間には切っても切れない相互関係にある。モンゴル語における反義語の研究の中には、反義語と類義語の関係について簡単に分析したものもある。ある単語に多数の反義語が対応する場合もある。つまり、ある語はその語と反義語になると同時にその語の類義語にも反義語になる場合がある。例えば、中国語の「熱鬧」という語は以下の23語と反義語になることはできる。「寂寞，寂然，淒涼，冷落，寂靜，寂寥，冷清，冷僻，冷靜，冷寂，冷淡，幽寂，幽靜，清幽，清靜，沉靜，孤寂，安靜，背靜，寧靜，僻靜，偏僻，荒僻」¹⁶⁾。

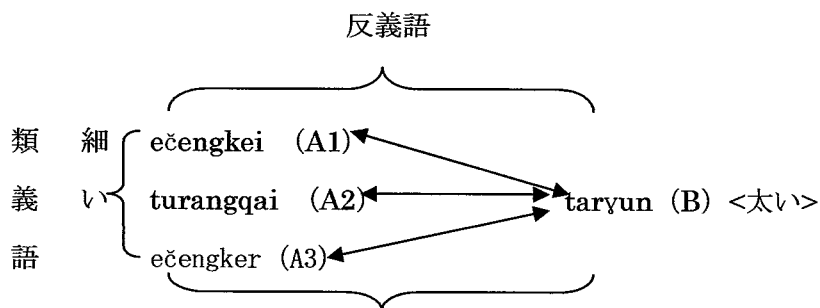
詳しく説明するため、二つのジャンルにわけて分析しよう。

3.1.5.1. 一語における多数の反義語

これは、一つの語に多く反義語が対応するということである。例えば、



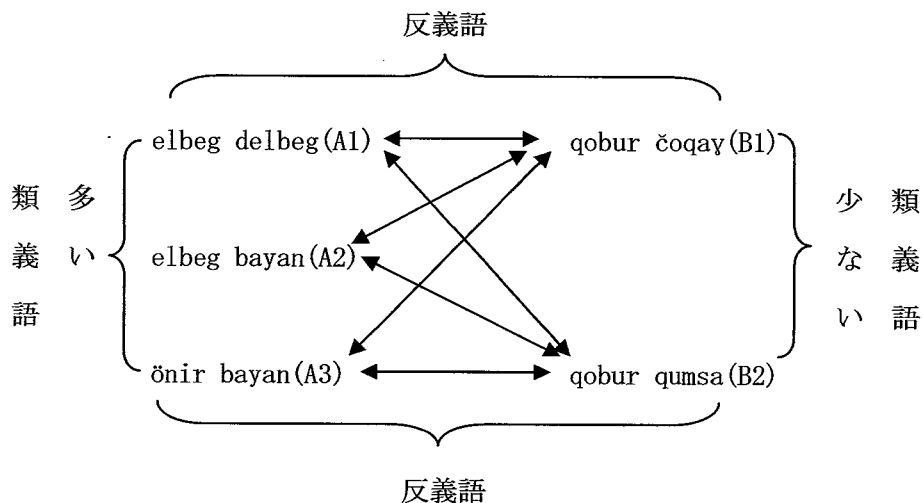
上記の分析によると、küyitemsüg という単語は合わせて五つのペアの反義語を形成している。つまり、 $A1 \rightleftharpoons B, A2 \rightleftharpoons B, A3 \rightleftharpoons B, A4 \rightleftharpoons B, A5 \rightleftharpoons B$ である。



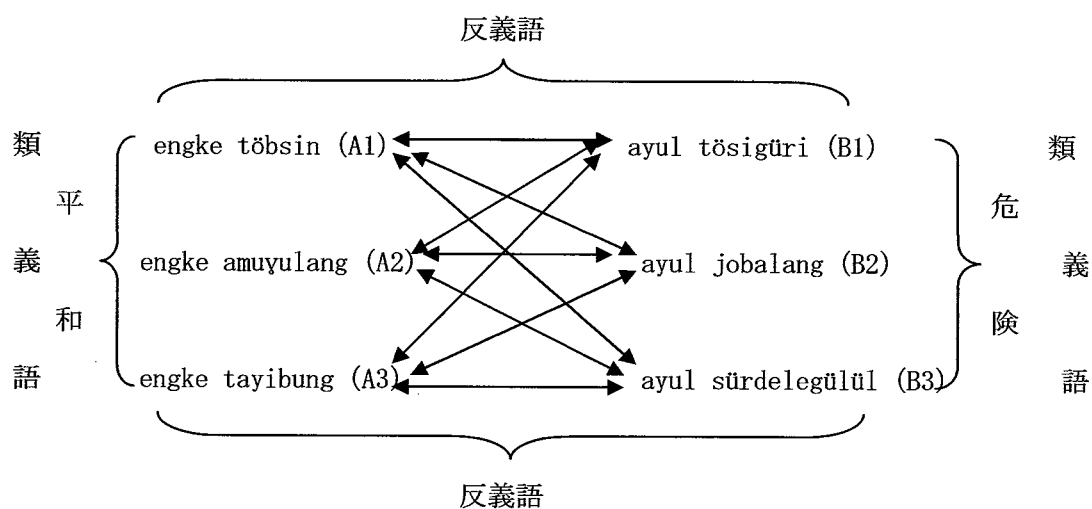
上記の分析によると、taryun という単語は合わせて三つのペアの反義語を形成している。つまり、 $A1 \rightleftharpoons B$, $A2 \rightleftharpoons B$, $A3 \rightleftharpoons B$ である。

3.1.5.2. 多数の語における多数の反義語

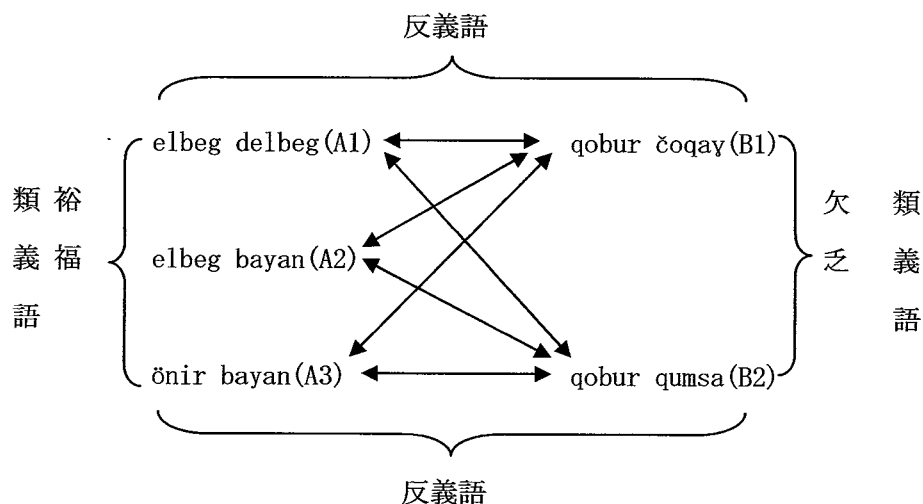
これは、多く語に多く反義語が対応するということである。当然のことながら、多数の語は相互に類義語である。例えば、



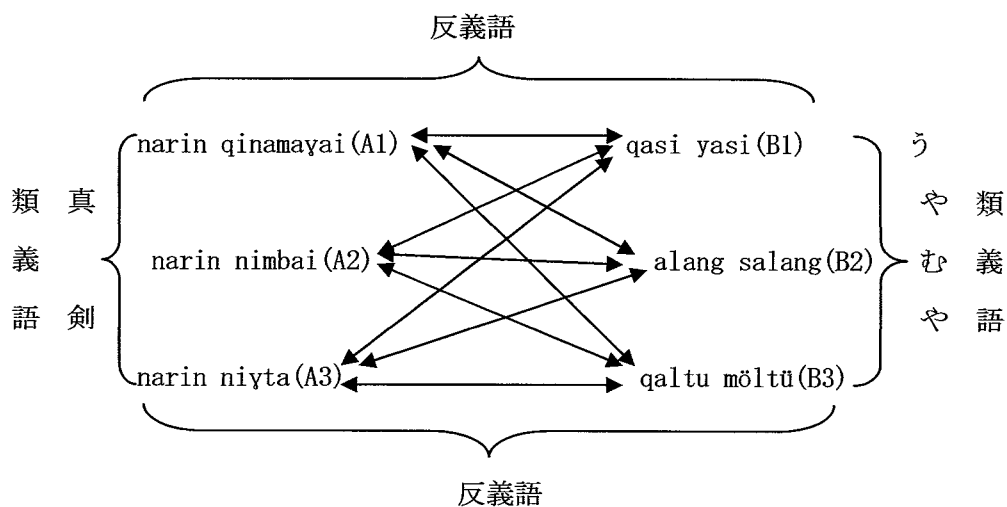
上記の分析によると、 $A1 \rightleftharpoons B1$, $A1 \rightleftharpoons B2$, $A2 \rightleftharpoons B1$, $A2 \rightleftharpoons B2$, $A3 \rightleftharpoons B1$, $A3 \rightleftharpoons B2$ など 6 ペアの反義語が形成されている。



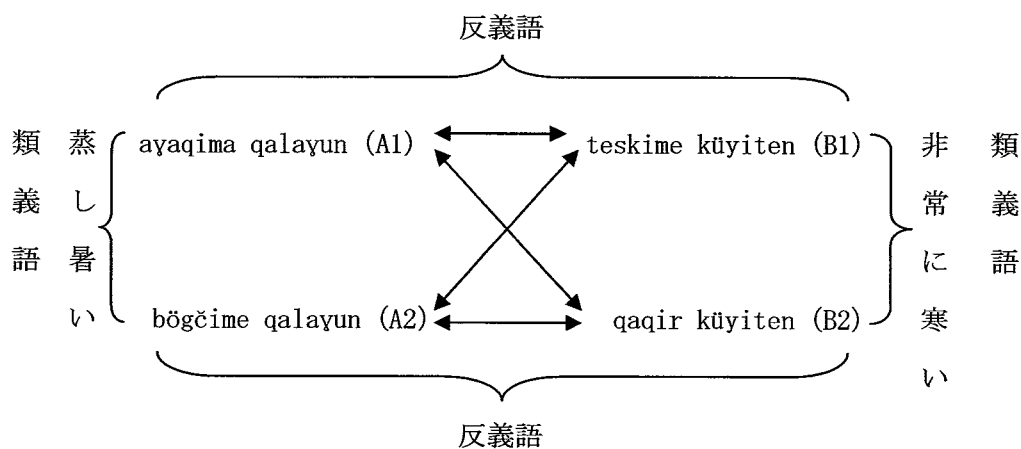
上記の分析によると、九つのペアの反義語が形成している。つまり、 $A1 \rightleftharpoons B1$ 、 $A1 \rightleftharpoons B2$ 、 $A1 \rightleftharpoons B3$ 、 $A2 \rightleftharpoons B1$ 、 $A2 \rightleftharpoons B2$ 、 $A2 \rightleftharpoons B3$ 、 $A3 \rightleftharpoons B1$ 、 $A3 \rightleftharpoons B2$ 、 $A3 \rightleftharpoons B3$ である。



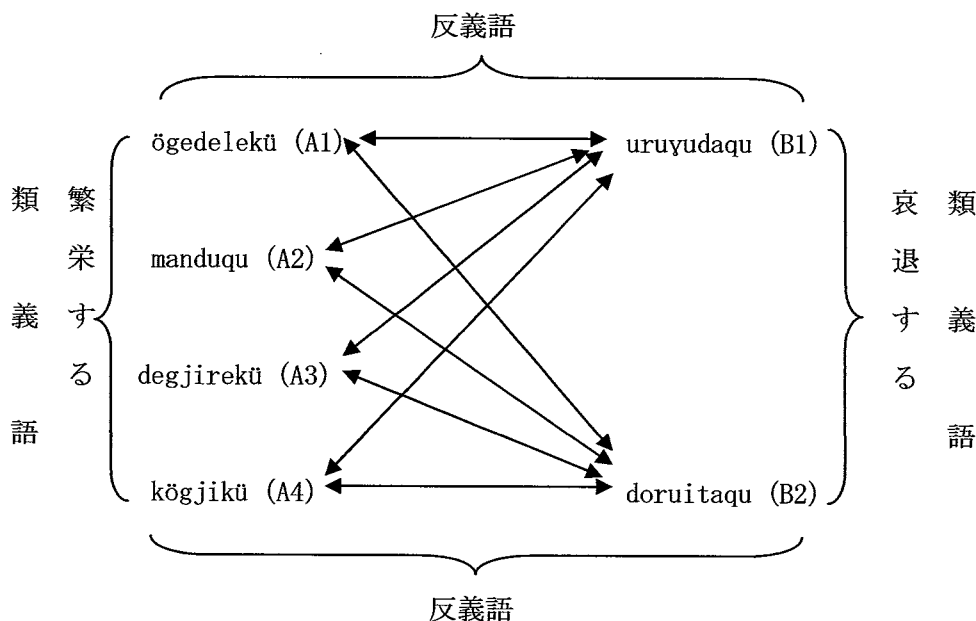
上記の分析によると、六つのペアの反義語が形成されている。つまり、 $A1 \rightleftharpoons B1$ 、 $A1 \rightleftharpoons B2$ 、 $A2 \rightleftharpoons B1$ 、 $A2 \rightleftharpoons B2$ 、 $A3 \rightleftharpoons B1$ 、 $A3 \rightleftharpoons B2$ である。



上記の分析によると、これらの語は合わせて九つのペアの反義語を形成している。つまり、 $A1 \rightleftharpoons B1$ 、 $A1 \rightleftharpoons B2$ 、 $A1 \rightleftharpoons B3$ 、 $A2 \rightleftharpoons B1$ 、 $A2 \rightleftharpoons B2$ 、 $A2 \rightleftharpoons B3$ 、 $A3 \rightleftharpoons B1$ 、 $A3 \rightleftharpoons B2$ 、 $A3 \rightleftharpoons B3$ などの九つのペアの反義語である。



上記の分析によると、これらの語は合わせて四つのペアの反義語を形成している。つまり、 $A1 \rightleftharpoons B1$ 、 $A1 \rightleftharpoons B2$ 、 $A2 \rightleftharpoons B1$ 、 $A2 \rightleftharpoons B2$ である。

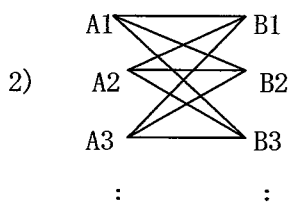
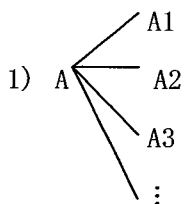


上記の分析によると、これらの語は合せて八つのペアの反義語を形成している。つまり、 $A1 \rightleftharpoons B1$ 、 $A1 \rightleftharpoons B2$ 、 $A2 \rightleftharpoons B1$ 、 $A2 \rightleftharpoons B2$ 、 $A3 \rightleftharpoons B1$ 、 $A3 \rightleftharpoons B2$ 、 $A4 \rightleftharpoons B1$ 、 $A4 \rightleftharpoons B2$ である。

上記の分析によって意義深いことが知られる。これは、反義語と類義語の相互関係によって形成された反義語の数について計算する公式ということである。つまり、対立している類義語の数を互いにかけて得た数である。例えば、「裕福」という意味を示している *elbeg delbeg*、*elbeg bayan*、*önir bayan* という 3 語と「欠乏」という意味を示している *qobur çuqay*、*qobur qomsa* という 2 語を互いにかける、つまり、 $3 \times 2 = 6$ である。そのように類推し計算できる。この公式を図式化すれば以下のようなものである。A はこの類義語の一方であり、B は他方の類義語であり、C は反義語の数である。

$$A \times B = C$$

上に述べた反義語と類義語の相互関係を図で示せば以下のようにになる。



3.1.6. 反義語の共通意味領域について

反義語は相互に対立する関係にあるが、同じ意味の領域で対立し反義語になっている。同じ意味の領域とは、反義語の対立するオトハラソを指している。実際、反義語の共通の

意味領域とは反義語の同一意義素である。「同一の意味範囲の語ではなければ反義語になることができないのである」¹⁷⁾。例えば、

反義語	意味の領域
urtu (長い) ≡ oqur (短い) —— urtu-yin kemjiye (長さによって)	
kündü (重い) ≡ könggen (軽い) —— kündü-yin kemjiye kündüče (重さによって)	
qoyina (北) ≡ emüne (南) —— jög čiglel (方向によって)	
oruqu (入る) ≡ yarqu (出る) —— urun bayiri-yin siljikü (移動の方向によって)	
qour (害) ≡ tusa (益) —— asiy tusa-yin qaričaya (利益によって)	
qalayumsuy (優しい) ≡ küyitem süg (冷たい) —— ubur bayidal (態度によって)	
qara (黒い) ≡ čayan (白い) —— öngge ilyal (色によって)	
erte (早い) ≡ orui (遅い) —— čay quyučaya (時間によって)	
eregtei(男性) ≡ emegtei(女性) —— küyisü-yin ilyal (性別によって)	
untaqu (寝る) ≡ serikü (目を覚める) —— nuyirmuy bayidal-ača-ban saluysan esekü (寝ることによって)	
ajillaqu (働く) ≡ amaraqu (休む) —— ajil kijü bayiqu esekü (休憩によって)	

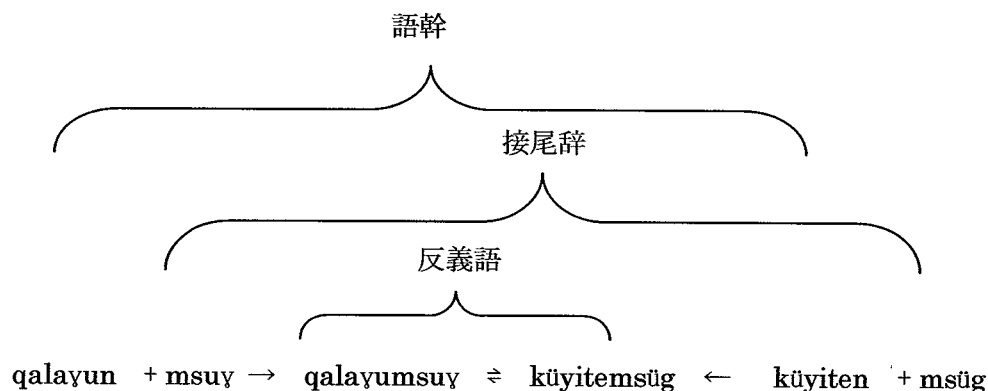
3.2. 構造的特徴

構造的特徴とは、モンゴル語の反義語がどのように形成する規則を明らかにする研究である。これまで、モンゴル語における反義語の構造的特徴について研究がなされていなかった。これは、語の構造的なことが形態論のみの範囲に研究されるという観点と関係がある。しかしながら、モンゴル語の構造的なことは意味論と密接な関係がある。モンゴル語の構造的な研究は意味をもとに分析されていることは明々白々である。それで、意味論から離れてモンゴル語の構造的な特徴を研究するのは不思議である。モンゴル語における反義語研究の対象は、単語と連語であるので、構造的な特徴は単語反義語の構造的な特徴と連語反義語の構造的な特徴という二種類に分けて分析すべきである。まず、単語反義語の構造的な特徴について分析する。

3.2.1. 単語反義語の構造的な特徴

モンゴル語における単語反義語の構造的な研究とは、語幹と接尾辞に関する研究である。モンゴル語は、語幹に接尾辞を接続して語を派生させるという膠着語であり、モンゴル語

における反義語の構造的特徴を明らかにするときに語幹、接尾辞の角度から研究しなければならない。例えば、küyitem süg（冷たい）— qalayum süy（優しい）という反義語は、語幹が反義語の küyiten（寒い）— qalayun（暑い）という語と接尾辞の -msüg と -msüy から構成されている。図式化すれば以下のようなものである。



モンゴル語における単語反義語の構造的特徴は、大きく二種類にわけてそれぞれ分析する。つまり、異同語幹反義語と同一語幹反義語である。

3.2.1.1. 異同語幹反義語

モンゴル語では異同語幹反義語は数量的に絶対多数で、全体の 93% を占めており、モンゴル語における反義語の中心となっている。また、異同語幹反義語の表現方法も様々である。詳しく説明するために更に二種類に分けて説明する。

3.2.1.1.1. 「語幹反義語＋接尾辞」形式の反義語

語幹が反義語になると同時に、その語幹の後ろに接尾辞を繋げて形成された新しい語も互いに反義語になるということである。この方法によって多数の反義語が形成され、モンゴル語の反義語が豊富になっている。体系的に分析するために、さらに二種類にわけて説明する。

3.2.1.1.1.1. 「異同語幹＋同一接尾辞」形式の反義語

語幹が異なる反義語の後ろに同じ接尾辞を連続することによって形成される反義語を指す。この方法によって形成された反義語は非常に多数である。換言すれば、モンゴル語における反義語を形成する主な方法である。これもさらに二種類にわけて分析する。

3.2.1.1.1.1.1. <一語＋一接尾辞>形式の反義語

反義語の後ろに一つの同じ接尾辞を連続することによって形成された新しい反義語を指

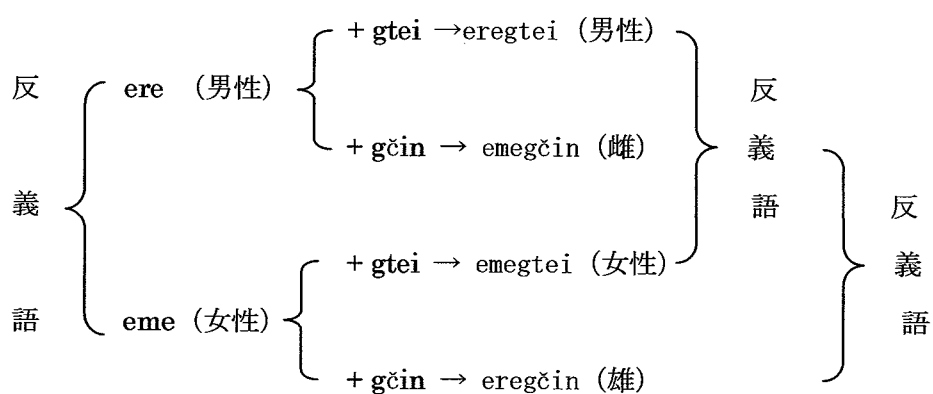
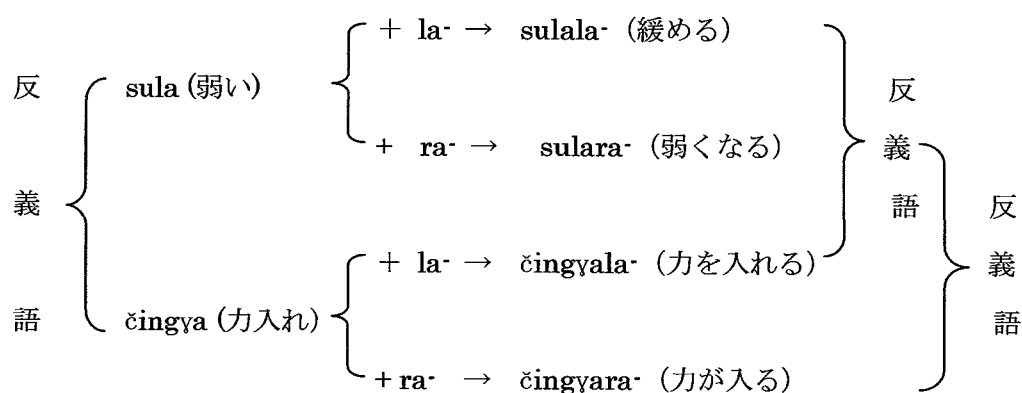
す。例えば、

反義語	{	ünen (本当) + çi → ünençi (真実)	}	反義語
		qudal (うそ) + çi → qudalçi (偽り)		
反義語	{	edür (昼) + jin → edürjin (一日中)	}	反義語
		söni (夜) + jin → sönijin (夜中)		
反義語	{	joysu (止まる) + ngvui → joysungvui (静止的)	}	反義語
		ködel (動く) + nggüi → ködelünggüi (運動的)		
反義語	{	jujayan (厚い) + ra- → jujayara- (厚くなる)	}	反義語
		nimken (薄い) + re- → nimkere- (薄くなる)		
反義語	{	abliya (賄賂) + çi → abliyaçi (賄賂を貪る)	}	反義語
		öglige (施し) + çi → ögligeçi (よく施をする)		

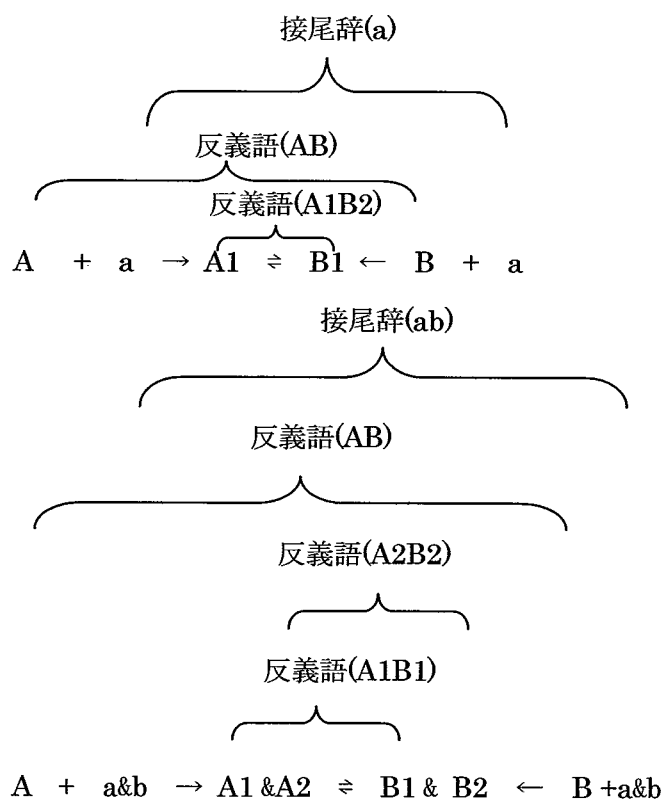
3.2.1.1.1.2. <一語 + 二接尾辞>形式の反義語

反義語の後ろに異なる二つの接尾辞を連続することによって形成された新しい反義語を指している。例えば、

反 義 語	{	jirya (幸せになる)	{	+ lang → jiryalang (幸せ)	{	反 義 語	
			+ l → jiryal (幸せ)				
	{	juba (悲しむ)	{	+ lang → jubalang (悲しみ)	{		反 義 語
			+ l → jubal (悲しみ)				



上記の点を図式化すれば以下になる。

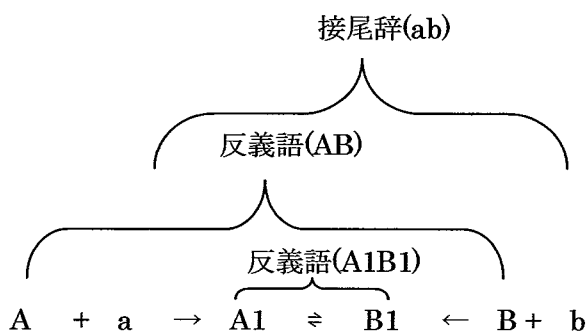


3.2.1.1.1.2. <異同語幹 + 異同接尾辞>形式の反義語

これは、語幹の異同反義語の後ろに異なる接尾辞を繋げることによって新しい反義語を形成するということである。このような反義語はモンゴル語における反義語の重要な部分であり、しかもその方法はモンゴル語における反義語を増えさせる重要なルートである。例えば、

反義語	{	sayin (良い) + qan → sayiqan (美しい)	}	反義語
		mayu (悪い) + qai → mayuqai (醜い)		
反義語	{	oru (入る) + yul → oruyul (入れる)	}	反義語
		yar (出る) + ya → yarya (出す)		
反義語	{	ögede (上り坂) + le- → ögedele- (坂を上がる)	}	反義語
		uruyu (下り坂) + da- → uruyuda- (坂を下がる)		
反義語	{	narin (細い) + s- → naris- (細くなる)	}	反義語
		büdügün (太い) + re- → büdügüre- (肥える)		
反義語	{	olan (多い) + sira- → olasira- (増える)	}	反義語
		çöken (少ない) + re- → çökere- (減る)		
反義語	{	čeber (きれい) + si- → čebersi- (きれいになる)	}	反義語
		bujar (きたない) + tu- → bujartu- (汚れる)		

上記の点を図式化すれば以下ようになる。



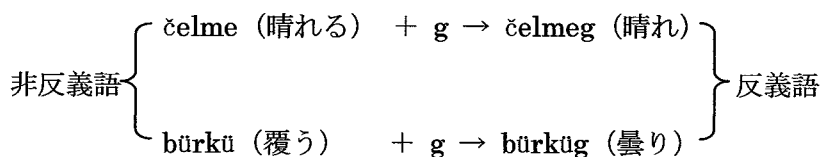
3.2.1.1.2. 「語幹非反義語 + 接尾辞」形式の反義語

反義語ではない語幹の後ろに接尾辞を繋げることによって形成された新しい二語は相互に反義語になるということである。当然のことながら、これらの語はその接尾辞の役割によって反義語になっているのである。接尾辞の機能は原語を変化させ、新しい語を形成することである¹⁶⁾。そういう反義語がモンゴル語の中では少なくないのである。わかりやすくするためにさらに二種類にわけて説明する。

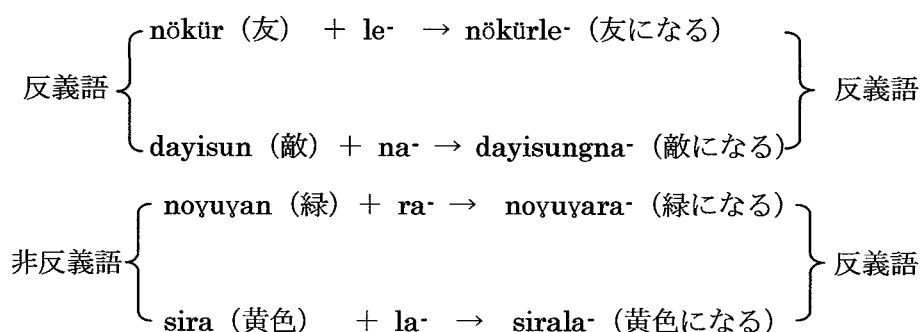
3.2.1.1.2.1. <異同語幹 + 同一接尾辞>形式の反義語

語幹が反義語ではない語の後ろに同じ接尾辞を繋げることによって形成された語は互いに対立して新しい反義語になるということである。例えば、

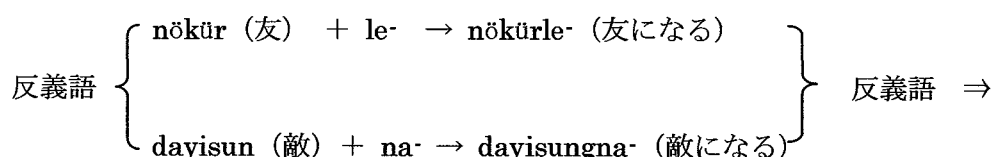
非反義語	$\left\{ \begin{array}{l} \text{usu (水)} + \text{da} \rightarrow \text{usuda- (水害になる)} \\ \text{yang (乾燥)} + \text{da} \rightarrow \text{yangda- (乾燥する)} \end{array} \right.$	反義語
非反義語	$\left\{ \begin{array}{l} \text{dulayan (暖かい)} + \text{ra} \rightarrow \text{dulayara- (暖かくなる)} \\ \text{küyiten (寒い)} + \text{re} \rightarrow \text{küyitere- (寒くなる)} \end{array} \right.$	反義語
非反義語	$\left\{ \begin{array}{l} \text{ol (得る)} + \text{ja} \rightarrow \text{olja (利益)} \\ \text{yar (出る)} + \text{ja} \rightarrow \text{yaruja (損害)} \end{array} \right.$	反義語
非反義語	$\left\{ \begin{array}{l} \text{dotunu (友好)} + \text{čila} \rightarrow \text{dotunučila- (友好になる)} \\ \text{yadayur (外)} + \text{čila} \rightarrow \text{yadayurčila- (いじめる)} \end{array} \right.$	反義語



特筆すべきことは、このような特徴を持った反義語に特別な例もある。形式から見れば「異同語幹 + 異同接尾辞」形式の反義語のようであるが、実際には、「異同語幹 + 同一接尾辞」形式の反義語である。理由は簡単であり、モンゴル語における音位の前後の影響によって形成したためである。例えば、



上記の分析によると、反義語の *nökürlekü* と *dayisungnaqu* という語は反義語の *nökür* と *dayisun* という語の後ろに接尾辞の *le* と *na* を連続して形成された動詞反義語ということである。ここで、その接尾辞である *le* と *na* の形式が異なるのは間違いない。しかし、詳しく分析すれば、その接尾辞の *le* と *na* は同じ接尾辞の *la*² である。これは、モンゴル語における音声調和規則の子音調和規則によって形成されたことである。モンゴル語の音声論では、音声調和規則は重要な研究対象であり、母音調和法則と子音調和法則の二つのジャンルにわけられる。母音調和法則とは、女性語の音節は相互に、男性語の音節は相互に組み合う関係である。子音調和法則とは、子音が相互に自由に組み合わさらないで、選択性がある。『現代モンゴル語の形態論』という著作の説明によると「*r* という子音付く語に *r* という子音付く接尾辞を連続すれば *r* は *l* となる。*m*、*n*、*ng* という子音終わりの語の後ろに *l* という子音始めの接尾辞を連続すれば *l* は *n* となる」¹⁷⁾。そのため、*n* という子音終わりの語に *la* という接尾辞を連続すれば、*la* という音節は *na* という音節になるのである。つまり、*dayisungna* という語は *dayisun* + *la* → *dayisungna* というように分析される。



$$\left. \begin{array}{l} \text{反義語} \left\{ \begin{array}{l} \text{nökür (友)} + \text{le}^- \rightarrow \text{nökürle}^- \text{ (友になる)} \\ \text{dayisun (敵)} + \text{la}^- \rightarrow \text{dayisungna}^- \text{ (敵になる)} \end{array} \right. \end{array} \right\} \text{反義語}$$

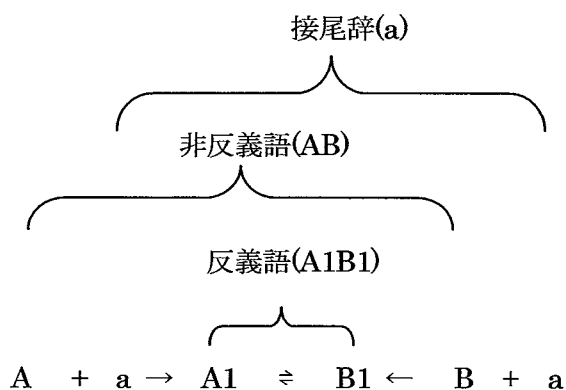
動詞反義語である *sirala*⁻ と *noyuyara*⁻ という語の構造を分析すれば以下のようなになる。

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{noyuyan (緑)} + \text{ra}^- \rightarrow \text{noyuyara}^- \text{ (緑になる)} \\ \text{sira (黄色)} + \text{la}^- \rightarrow \text{sirala}^- \text{ (黄色になる)} \end{array} \right.$$

分析によると、*sirala*⁻ と *noyuyara*⁻ という反義語は、非反義語異同語幹＋異同接尾辞→反義語という構造をもつ語である。しかし、モンゴル語の子音調和規則によると、その接尾辞は異同接尾辞ではなく、同一接尾辞である。モンゴル語の子音調和法則によると、*sira* という語の後ろに *ra* という音節を連続すれば、接尾辞 *ra* という音節は語幹 *sira* の *ra* の影響で、*la* という音節になる。それで、結論は以下のようなになる。

$$\begin{array}{l} \text{非反義語} \left\{ \begin{array}{l} \text{noyuyan (緑)} + \text{ra}^- \rightarrow \text{noyuyara}^- \text{ (緑になる)} \\ \text{sira (黄色)} + \text{la}^- \rightarrow \text{sirala}^- \text{ (黄色になる)} \end{array} \right. \end{array} \left. \vphantom{\begin{array}{l} \text{非反義語} \left\{ \begin{array}{l} \text{noyuyan (緑)} + \text{ra}^- \rightarrow \text{noyuyara}^- \text{ (緑になる)} \\ \text{sira (黄色)} + \text{la}^- \rightarrow \text{sirala}^- \text{ (黄色になる)} \end{array} \right.} \right\} \text{反義語} \Rightarrow \\ \\ \text{非反義語} \left\{ \begin{array}{l} \text{noyuyan (緑)} + \text{ra}^- \rightarrow \text{noyuyara}^- \text{ (緑になる)} \\ \text{sira (黄色)} + \text{ra}^- \rightarrow \text{sirala}^- \text{ (黄色になる)} \end{array} \right. \end{array} \left. \vphantom{\begin{array}{l} \text{非反義語} \left\{ \begin{array}{l} \text{noyuyan (緑)} + \text{ra}^- \rightarrow \text{noyuyara}^- \text{ (緑になる)} \\ \text{sira (黄色)} + \text{ra}^- \rightarrow \text{sirala}^- \text{ (黄色になる)} \end{array} \right.} \right\} \text{反義語}$$

上記の点を図式化すれば以下のようなになる。

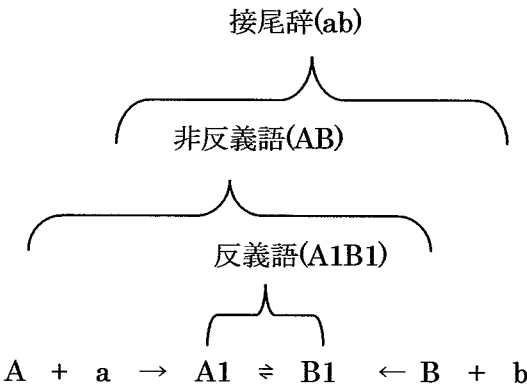


3.2.1.1.2.2. 「異同語幹 + 異同接尾辞」形式の反義語

語幹が異なる非反義語の後ろに異なる接尾辞を繋げることによって構造された語は相互に対立して新しい反義語になるということである。このような反義語はかなり多いのである。

非反義語	{	qurdu (スピード) + n → qurdun (速い)	}	反義語
		uda (遅れる) + yan → udayan (遅い)		
非反義語	{	taryu (肉付き) + n → taryun (太い)	}	反義語
		tura (痩せる) + ngqai → turangqai (細い)		
非反義語	{	küü (力) + rkeg → küürkeg (強い)	}	反義語
		bayu (降りる) + rai → bayurai (弱い)		
非反義語	{	ükü (死ぬ) + mel → ükümel (まぬけな)	}	反義語
		amidu (生きる) + liy → amiduliy (すばしこい)		
非反義語	{	qara (黒い) + ngyui → qarangyui (暗い)	}	反義語
		gege (明るい) + n → gegen (明るい)		

上記の点を図式化すれば以下のようなになる。



3.2.2.1. 同一語幹反義語

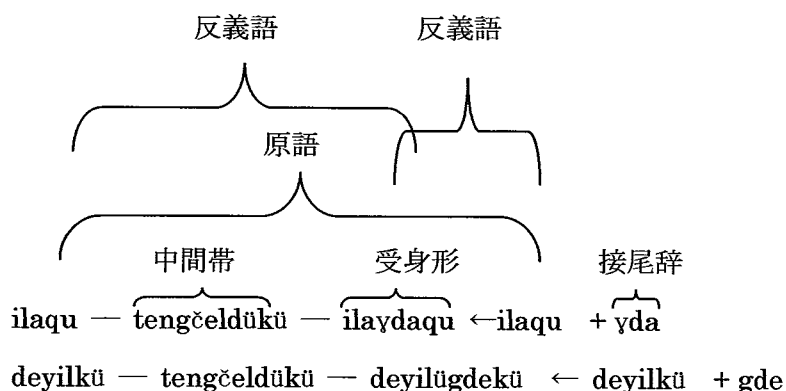
モンゴル語では、語幹が同じ反義語は少ないが、特有な特徴を持っており、語幹が異なる反義語とはっきり区別されている。詳しく説明するため、さらに二種類にわけて分析する。

3.2.2.1.1. 受身形の反義語

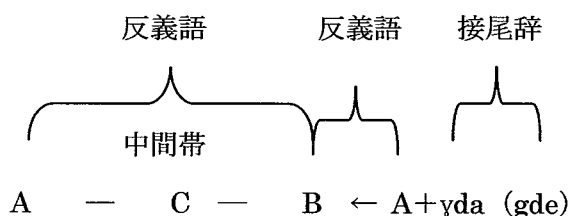
モンゴル語の受身形とその原語に対立して同じ語幹の反義語を形成するということがある。モンゴル語の中では、受身形の反義語は非常に少数である。ここで、特に強調することは、モンゴル語の全ての受身形とその原語は反義語になることができないのである。例えば、sonusqu (聞く) — sonusuydaqu (聞こえる)、čoqiqu (殴る) — čoqiydaqu (殴られる)、alaqu (殺す) — alaydaqu (殺される)、ūjekū (見る) — ūjegdekū (見える)、kelekū (言う) — kelegdekū (言われる) などの例は原語と受身形であるが互いに反義語になることができないのである。

3.2.2.1.1.1. 動詞受身形の反義語

モンゴル語における動詞受身形の反義語は ilaqu (勝つ) — ilaydaqu (負ける)、deyilkū (勝つ) — deyilūgdekū (負ける) などである。それらの反義語の特徴は受身形と受身形、原語と原語は相互に類義語であり、しかも tengčeldükū (引き分ける) という中間帯がある両極反義語である。図式化すれば以下になる。

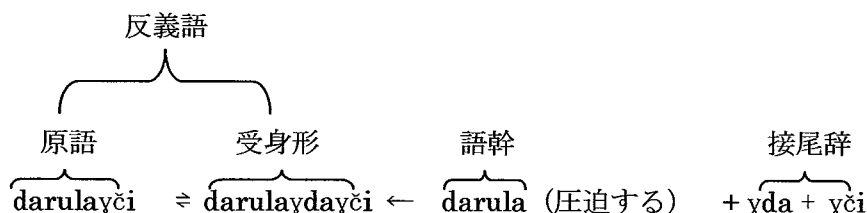


上記の点を図式化すれば以下になる。Cは中間帯(または移動的意味)である。



3.2.2.1.1.2. 名詞受身形の反義語

モンゴル語における名詞受身形の反義語は **darulayčī** (圧迫者) ⇨ **darulaydayčī** (被圧迫者)、**möljigčī** (圧迫者) ⇨ **möljigdegčī** (被圧迫者)、**noyarqayčī** (圧迫者) ⇨ **noyarqaydayčī** (被圧迫者)、**ilayčī** (勝利者) ⇨ **ilaydayčī** (失敗者)、**jayalduyčī** (原告) ⇨ **jayalduydayčī** (被告) などである。これらの反義語は中間帯がない相補反義語である。



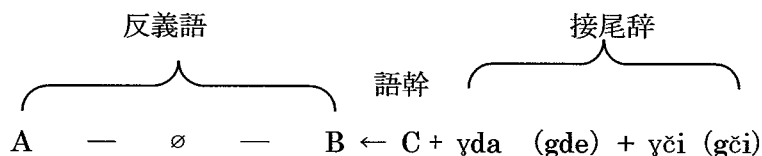
möljigčī ⇨ **möljigdegčī** ← **mölji** (搾取する) + **gde+gčī**

noyarqayčī ⇨ **noyarqaydayčī** ← **noyarqa** (圧迫する) + **yda + yčī**

ilayčī ⇨ **ilaydayčī** ← **ilaqu** (勝利する) + **yda + yčī**

jayalduyčī ⇨ **jayalduydayčī** ← **jayaldu** (起訴する) + **yda + yčī**

上記の点を図式化すれば以下になる。



同一語幹の反義語に関して、**küsel** (希望) ⇨ **küserdel** (失望)、**küsekü** (希望する) ⇨ **küserdekü** (失望する) という二つの反義語も存在していることを注意しよう。

3.2.2.2. 二語幹反義語

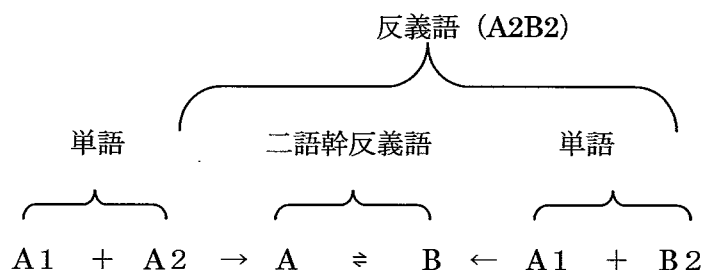
モンゴル語では、ほとんどの単語が一語幹の語であるが、非常に少数の単語が二語幹より形成されている。「モンゴル語では多数の語は語幹が一つであるのに対して、時折二つの

語幹から構成される語もある。これは二語幹の語である」¹⁸⁾。つまり、異なる二つの単語が一つの単語として使用される時、いくつかの音声脱落して形成される語である。例えば、*duuyarqu* (*dayu* + *yarqu*) <声が出る>、*yaiyui* (*yai* + *ügei*) <大丈夫>、*büsegüi* (*büse* + *ügei*) <妻>、*örübedkü* (*örü* + *ebedkü*) <同情する>、*önüdür* (*önü* + *edür*) <今日>などである。このうち、一つの語は反義語になる。構造は《動詞+動詞 → 複合動詞》のような形式である。

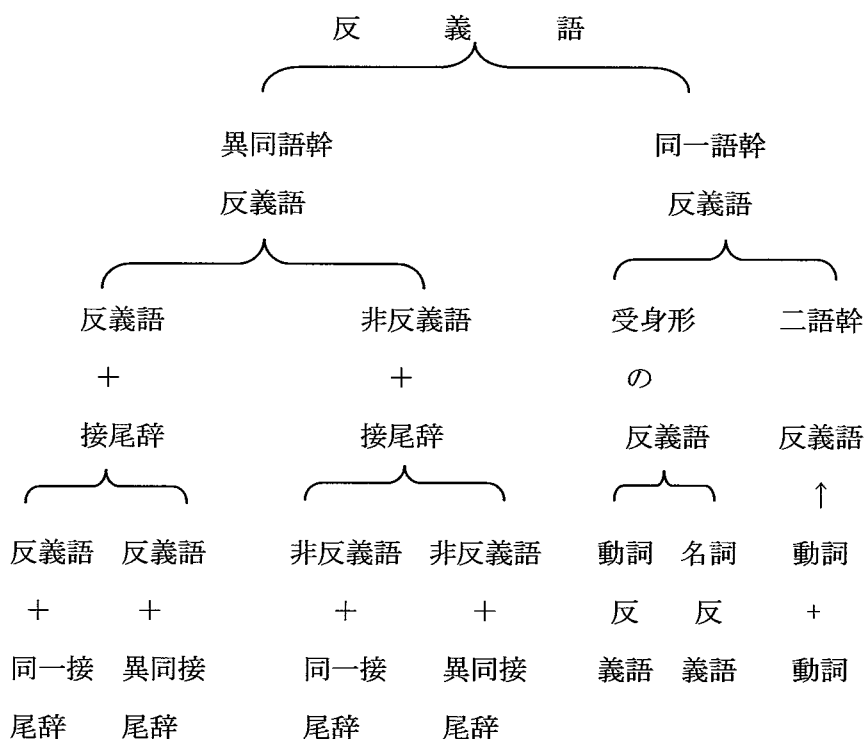
abču (持つ) + *irekü* (来る) → *abčiraqu* (持ってくる) ⇐ *abačiqu* (持っていく)
 ← *abču* (持つ) + *očiqu* (行く)

これはモンゴル語における語の構造的特徴の特殊な現象である。

上記の点を図式化すれば以下になる。



以上の事柄を要約すれば、モンゴル語における単語反義語の構造のモデルは以下の通りである。



以上、構成分析方法を使用してモンゴル語における単語反義語の構造的特徴について詳しく分析して、さらにモンゴル語における反義語の構造的モデルを明らかにした。このことは、モンゴル語における反義語の研究を進めることができるだろうと思われる。

3.2.2. 連語反義語の構造的特徴

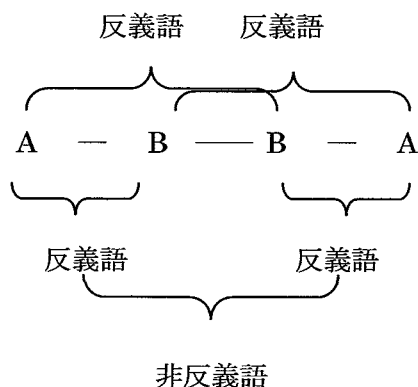
モンゴル語の反義語研究の中で、研究されていないことは多数あり、連語反義語はその一つである。これまで、モンゴル語における反義語の研究対象は単語のみに限られてきた。例えば、sayin (良い) ⇨ mayu (悪い)、yeke (大きい) ⇨ baya (小さい)、nökür (友) ⇨ dayisun (敵)、irekü (来る) ⇨ očiqu (行く) などである。これは、モンゴル語の反義語研究の対象となる語の一部分を研究したにすぎない。つまり、もう一つの重要な研究対象である連語反義語の研究を見落としてきた。そのことによって、モンゴル語の反義語とは単語だけの反義語であるというイメージを残してきた。しかしながら、モンゴル語の反義語の研究対象は単語だけではなく、連語の反義語も存在している。例えば、erkim degedü (上品) ⇨ egeḷ douradu (下品)、ünenči siduryu (誠実) ⇨ jisur jaliqai (狡猾)、aburyu yeke (膨大) ⇨ öcüken baya (微小)、yang qayurai (干ばつ) ⇨ čigig noyitan (湿気)、ajilči ködelmüriči (働き者) ⇨ jalqayu qoyiryu (怠け者) などである。意味の点について「単語より連語のほうが意味をもっと強調する役割がある」¹⁹⁾。単語反義語と連語反義語の数量について、単語反義語の数が連語反義語の数よりはるかに多いのである。具体的に言えば、単語反義語は合わせて540組であり、連語反義語は120組である。それで、連語反義語もモンゴル語における反義語の研究対象として、無視してはならない研究課題である。

3.2.2.1. 連語反義語の概念について

連語反義語という概念を説明する前にまず連語について説明する必要があるだろう。連語の概念について学者達によって説明が異なるので、意見が一致していないのである。内モンゴルにおけるモンゴル語学者達の研究成果である『現代モンゴル語』という著作では、連語について「二つあるいは二つ以上の語が組み合わせ使用されており、慣用句の概念を表す複合語である」と説明している²⁰⁾。この説明によると、モンゴル語の連語は複合語一つのジャンルで、複合語は上位概念であり、連語は下位概念の関係であると説明している²¹⁾。この二つの概念は、属する関係と属される関係である。また、構造の数量について、

二つあるいは二つ以上の語から構成されていると説明している。モンゴル国の学者達の研究成果である『現代モンゴル語の意味論の基礎』という著作では、連語の概念について「二つの語から構成され、単語より抽象的な意味を表す語彙論の研究対象である」と説明している²¹⁾。この説明によると、連語は二つの単語から構成され、しかも語彙論の研究対象であるということである。しかし、この二つの著作は、連語は語彙論の研究対象であるという点で意見は一致している。連語の構造の数量について、『現代モンゴル語』では二つあるいは二つ以上の単語から構成されていると説明しているのに対して、『現代モンゴル語の意味論の基礎』では連語が二つの単語から構成されていると説明している。しかし、『現代モンゴル語』に説明している連語の例の中では、二つ以上の単語から構成された例はまったく現れていなかった。その他、『現代モンゴル語』に、名詞連語、動詞連語、その他の連語という三つの種類にわけて、さらに他の連語の中では、形容詞連語と副詞連語とわけて説明している²²⁾。『現代モンゴル語の意味論の基礎』という著作でもモンゴル語の連語は主に名詞、動詞、形容詞から構成されると記述している²³⁾。『モンゴル語の連語辞典』によると、名詞連語、動詞連語、形容詞連語が多いのである²⁴⁾。総じて、モンゴル語の連語は、二つの単語から構成されている語彙論の研究対象であり、名詞連語、動詞連語、形容詞連語は多数であるという特徴を持っている。その中では、二つの単語から構成され、語彙論の研究対象ということが基本的な特徴であり、この二つの条件はどちらも欠くことができないのである。連語についての説明を理解することによって連語反義語という用語の概念が明らかになるだろう。連語反義語とは、対立関係がある連語である。構造の数量の点で、それぞれ二つの単語から構成されており、すなわち合わせて四つの単語である。また、連語の使用頻度について研究したこともある。「連語反義語の使用頻度について、第一番目は名詞の連語反義語、第二番目は、副詞の連語反義語、第三目は形容詞の連語反義語、第四目は動詞の連語反義語である」²⁵⁾。また、モンゴル語の連語は様々な方法によって形成されるが、非常に重要な二つの方法を説明しなければならない。一つの方法は、二つの類義語による形成である。例えば、*jiryal čenggel* (幸福)、*ösiye qorusul* (憎み)、*sečen sergüleg* (賢い)、*qayiralaju sanaqu* (愛する)、*ögedelen dabsiqu* (繁栄) など多数ある。もう一つの方法は二つの反義語による形成である。『モンゴル語における連語の構造と範囲』という研究論文によると、「モンゴル語における連語は五つの方法によって形成され、その中で一番目の方法は反義語から構成されている」と述べている²⁶⁾。例えば、*asiy qour* (益一害)、*sayin mayu* (良い一悪い) *tölkikü tataqu* (押す一引く)、*ögede uruyu*

(上り坂—下り坂) など多数ある。しかし、連語反義語の研究対象は全ての連語ではなく、つまり反義語から構成されている連語を除く他の連語を研究対象として研究する。なぜならば、反義語から構成されている連語に反義語がなく、原語が反義語からである。例えば、A と B は反義語であり、A—B は反義語から構成された連語である。A—B 連語が対応する反義語があると考えれば、その反義語は B—A になるしかないのである。つまり A という単語の反義語が B という単語であると、当然のことながら B という単語の反義語が A という単語である。



上記の分析によると、A—B 連語と B—A 連語は異なる二つの単語から構成されているということである。これは、連語反義語は三つの異なる単語 (ögede çirai ≡ uruyu çirai,usun yamsiy ≡ yang yamsiy) あるいは四つの異なる単語 (erelkeg bayatur ≡ ögençe dorui, uçaran jolyaqu ≡ qayačan salqu) から構成される (このことについて後説明する) という特徴と矛盾する。つまり、反義語になることができないということを証明している。「反義語から構成された連語に対応する反義語がないのである」²⁷⁾。具体的な実例を分析しよう。sayin (良い) — mayu (悪い) という反義語から構成された sayin mayu という連語に反義語があると思うと mayu sayin ということになるしかない。実際、sayin mayu という連語と mayu sayin という連語は反義語になることができないだろう。意味の点で、sayin mayu という連語は、益があるか否かをわからない (sayin mayu-yi ilyaqu ügei) という意味であるが、mayu sayin という連語は価値がないもの (edeger mayu sayin amitad-i itegejü bolqu ügei) という軽減する意味である。なお、反義語から構成された全ての連語は、位置が交換することができるとは限らない。つまり、A—B 連語は B—A 連語になることができない場合もある。このことについて第六章に説明する。反義語から構成された連語は主に「時間、空間、数量、性質、変化、状態、過程、人間関係、行為関係、感情態度、地位順番」などの意味について表している²⁸⁾。

モンゴル語における連語の構造の主な特徴は反義語から構成されることと類義語から構成されるということである。「モンゴル語における連語の構造の最も重要な特徴は類義語より形成されることと反義語より構成されることである」²⁹⁾。

モンゴル語の連語反義語の構造的特徴について詳細に説明するために、連語反義語の構造形式、連語反義語の意味関係、連語反義語の対立関係などの三つの角度から分析する。

3.2.2.2. 連語反義語の構造形式

モンゴル語における連語反義語は四つの単語から構成されている。この四つの単語が全て異なっている場合と、二つの単語は異なっている場合と二種類ある。引き続き、それぞれ説明する。

3.2.2.2.1. 全部異同連語反義語

連語反義語を形成している四つの語は全て異なるということである。このような反義語は、モンゴル語における連語反義語の中で多数あり、合わせて105組ある。全体の88%を占めており、連語反義語のトップである。例えば、

dotuyadu jasay (内政) ⇨ yadayadu qarilčaya (外交)

darulal mōljil (圧迫) ⇨ esergüčel temečel (反抗)

alus qola (はるかに遠い) ⇨ oyira orčim (近所)

elbeg delbeg (余裕) ⇨ qobur čuqay (稀少)

jirvaju čenggekü (喜ぶ) ⇨ yuniju yuturaqu (苦しむ)、

qairalaju sanaqu (愛する) ⇨ qorusun januqu (憎む)、

arbilan yamnaqu (儉約) ⇨ bōrilgen süyidgekü (贅沢する)、

sula jadayai (いい加減な) ⇨ narin kinamayai (しっかり)

上記の点を図式化すれば以下のようになる。

A — B ⇨ C — D

3.2.2.2.2. 二語異同連語反義語

連語反義語の二語は同じであるが、あとの二語は異なる反義語を指している。このような反義語は少数であり、合わせて15組で、連語反義語の12%を占めている。このような反義語は異なる三つの単語から構成されている。例えば、

bayartu jüčüge (喜劇) ≡ yuniytu jüčüge (悲劇)、
 qorwa tokirayululta (マクロ的なコントロール) ≡ qumaki tokirayululta (ミクロ
 的コントロール)、
 ayadar boruyan (大雨) ≡ jüser boruyan (小雨)
 čengken usu (塩水) ≡ surbuy usu (淡水)
 öberminče ončaliy (個性) ≡ neyitelig ončaliy (共通性)、
 tegsi toya (偶数) ≡ sondayai toya (奇数)
 jöb tala (右側) ≡ boruyu tala (左側)

上記の点を図式化すれば以下のようになる。

$$A - B \equiv C - B$$

上述したことをまとめると、モンゴル語における連語反義語の構造形式は異なる三つの
 単語あるいは四つの異なる単語から構成されていることである。つまり、一番目の全部異
 同連語反義語は四つの異なる単語から構成されており、二番目の二語異同連語反義語は三
 つの異なる単語から構成されている。

3.2.2.3. 連語反義語の意味関係

モンゴル語における連語反義語は、前後の語の意味関係に基づき、対等関係の反義語と
 支配関係の反義語の二種類にわけられる。これが、モンゴル語の形態論に分析している并
 列関係の構造 (jergečegsen qaričaya) や修飾関係の構造 (totudvaysan qaričaya) と理
 屈は同じである。

3.2.2.3.1. 並列関係の反義語

これは、連語反義語の前後の二語が横関係 (kündelen qaričaya) であり、つまり相
 互に並列関係の連語反義語である。このような連語反義語の特徴はそのそれぞれ連語が
 類義語から構成されている。モンゴル語における列関係の連語反義語は合わせて 88 組
 あり、全体の 73% を占めている。例えば、

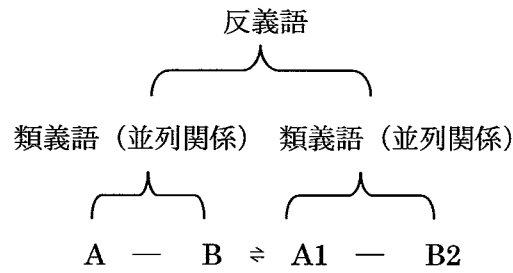
bujar burtay (汚い) ≡ ariyun čeber (きれい)
 ügegüü yadayu (貧乏) ≡ bayan činegelig (余裕)
 eregül бүтүн (健全な) ≡ jemdeg dutayu (欠けていること)
 uyidqar bokinidul (苦しみ) ≡ bayar jiryal (幸福)

sečen sergüleg (賢い) ≡ bidayü mongqay (愚か)

qobur čuqay (少ない) ≡ elbeg bayaliy (多い)

yabiya jidkül (貢献) ≡ yala nigül (罪惡)

上記の点を図式化すれば以下になる。



3.2.2.3.2. 支配関係の反義語

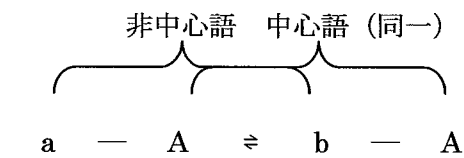
連語反義語の前後の二語は横関係ではなく、逆に縦関係 (yoldu qaričaya) であり、支配する関係と支配される関係の反義語を支配関係の反義語と称する。さらに連語反義語のそれぞれ二語は中心語と非中心語にはっきり区別され、中心語は非中心語を支配し、非中心語は中心語に支配される関係である。支配関係の連語反義語は合わせて32組あり、全体の27%を占めている。このような連語反義語もさらに二種類にわけて分析する。

3.2.2.3.2.1. 支配する中心語は同一反義語

これは、連語反義語の中で、支配する中心語は同じであるが、支配されている非中心語は異なる反義語である。このような連語反義語は異なる三つの単語から構成されている。例えば、

bayartu jüčüge (喜劇) ≡ yuniytu jüčüge (悲劇)、
siyun qaričayatu (正比率) ≡ urbayu qaričayatu (反比率)
dabayuliy tala (長所) ≡ bayurai tala (欠点)
neyitelig ončaliy (共性) ≡ öbermiče ončaliy (個性)

上記の点を図式化すれば以下になる。



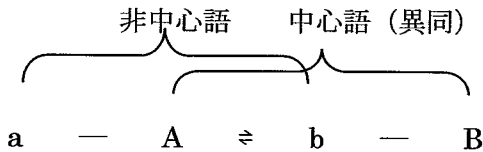
3.2.2.3.2.2. 中心語と非中心語は異同反義語

連語反義語の中で、支配する中心語と支配される非中心語は全て異なる反義語を指す。

このタイプの反義語は異なる四つの単語から構成されている。例えば、

labai čayan (真っ白い) ≡ kö qara (真っ黒い)
ayagima qalayun (蒸し暑い) ≡ qakir küyiten (非常に寒い)
eres ondoo (まったく異なる) ≡ egege adali (まったく同じ)
oki silideg (最も良い) ≡ aday mayu (最も悪い)

上記の点を図式化すれば以下のようなになる。

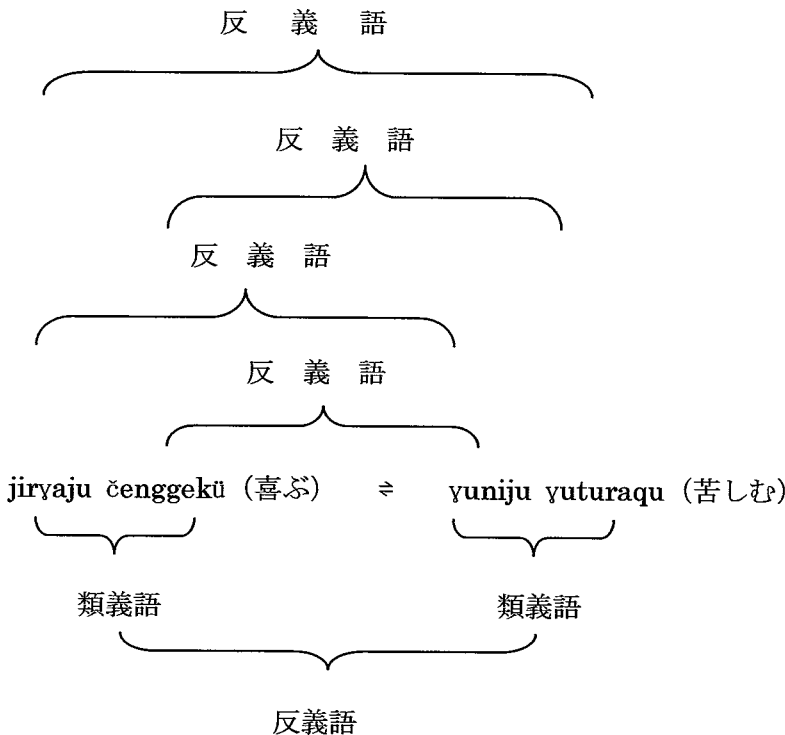


3.2.2.4. 連語反義語の対立関係

モンゴル語における連語反義語の対立関係の種類は多く、しかも構造は複雑である。モンゴル語における連語反義語の対立関係をまとめると六種類にわけられる。この六つのジャンルの対立関係の詳しい分析がモンゴル語における連語反義語研究のポイントである。

3.2.2.4.1. 全部対立関係の反義語

連語反義語のそれぞれ連語は相互に対立しながら四つの単語反義語を形成するというこ
とである。このような連語反義語の特徴はその連語は二つの類義語から構成されていると
いうことである。例えば、



そのほか、別の例もある。

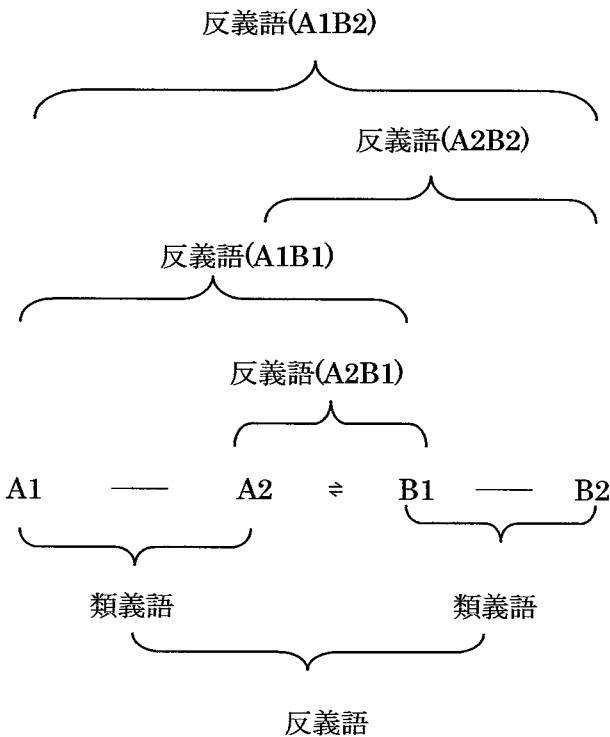
ači tusa(利益) ≡ qour kōnūgel (損害)

kōgjiū manduqu (繁栄する) ≡ iljaran doruyitaqu (衰退する)

nomuqan siduryu (おとなしい) ≡ jerlig balmad (野蛮な)

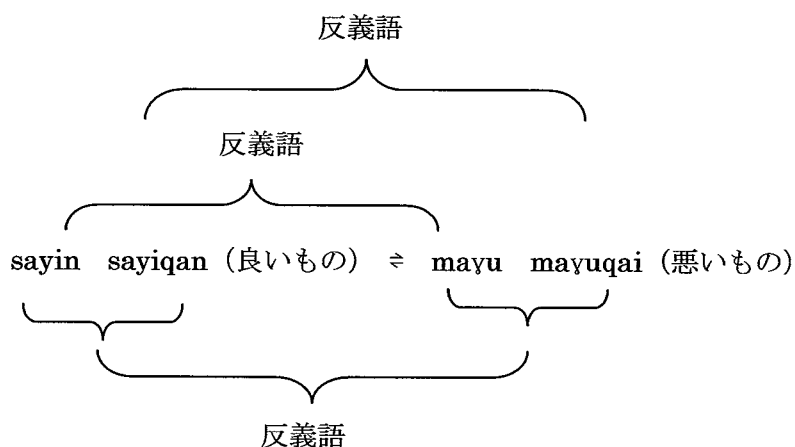
ayujiyu talbiyu (ゆっくり) ≡ yayarau sandarau (忙しい)

上記の点を図式化すれば以下のようなになる。



3.2.2.4.2. 対等対立関係の反義語

連語反義語のそれぞれ連語の前語は互いに対立し、後語は互いに対立して対等対立の反義語を形成するということである。このような連語反義語の連語は二つの単語反義語を形成することができる。例えば、

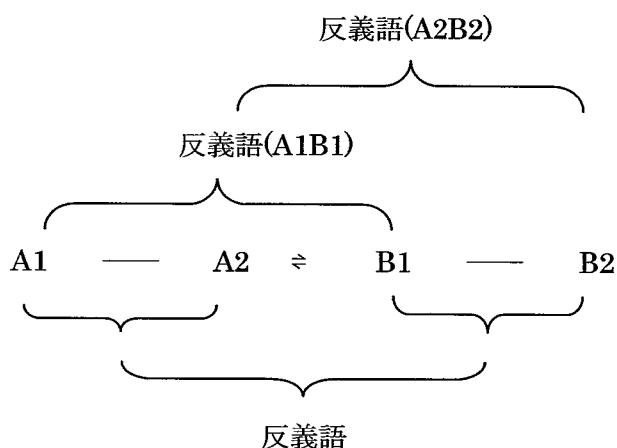


そのほか別の例もある。

egel douradu (下品) ≡ erkim degedü (上品)

qudal qayurmay (偽物) ≡ ünen bodatu (本物)、

上記の点を図式化すれば以下のようなになる。

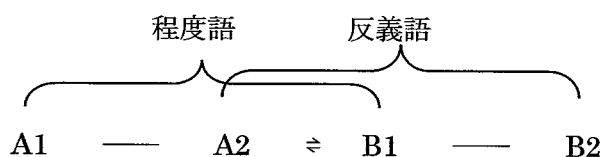


3.2.2.4.3. 後語対立の反義語

連語反義語のそれぞれ連語の後者の単語は互いに反義語になるが、前者の単語は互いに反義語になれない連語反義語を指す。その連語の前後語は中心語と非中心語とわけられており、非中心語は中心語の程度状態を表し、中心語は反義語になっていることである。このような連語反義語は一つの単語反義語を形成するしかない。例えば、

程度語 反義語

sal ondoo (まったく異なる) ≡ egege adali (まったく同じ)、
 そのほかまた別の例もある。
 labai čayan (真っ白い) ≡ pad qara (真っ黒い)、
 qakir küyiten (非常に寒い) ≡ ayagima qalayun (蒸し暑い)、
 tesgime küyiten (とても寒い) ≡ bügčim qalayun (とても暑い)
 上記の点を図形式すれば以下のようなようである。

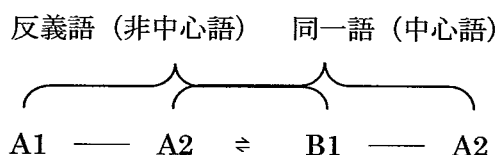


3.2.2.4.4. 前語対立関係の反義語

連語反義語における連語のそれぞれ前者の単語は互いに反義語であるが、後者の単語は相互に反義語ではない連語反義語を指す。その連語の二つの単語も中心語と非中心語にわけられており、中心語が同じであり、非中心語が対立して反義語になっていることである。このような連語反義語は一つの単語反義語を形成するしかない。例えば、

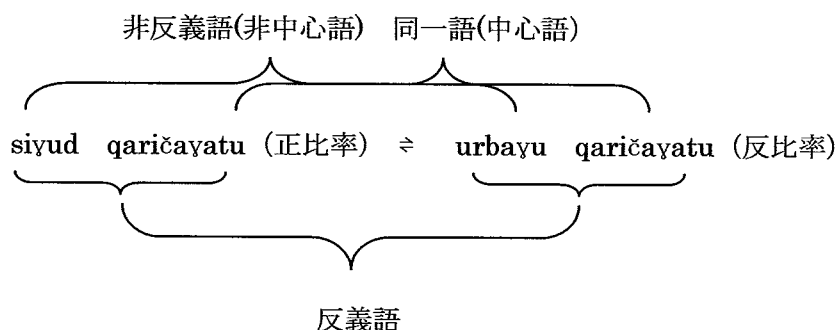
反義語（非中心語） 同一語（中心語）

bayartu jüčüge (喜劇) ≡ yuniytu jüčüge (悲劇)、
 そのほか、別の例もある。
 šorbuy usu (塩水) ≡ čenggeg usu (淡水)
 qorwa tokirayululta (マクロ的なコントロール) ≡ qumaki tokirayululta (ミクロ的
 コントロール)
 öbermiče ončaliy (個性) ≡ neitelig ončaliy (共通性)
 上記の点を図式化すれば以下のようなになる。



3.2.2.4.5. 整体対立関係の反義語 I

連語反義語の連語それぞれ前語は相互に異なるが、反義語にならず、後語は相互に同じである連語反義語を称する。具体的に言えば、A という単語と B という単語は単語として反義語になることができないが、C という単語と組み合わせて用いられると、つまり A—C という連語と B—C という連語が反義語になるということである。このような連語反義語の四つの単語は単語反義語を一つも形成することはできない。しかし、連語の整体として連語反義語になる。例えば、



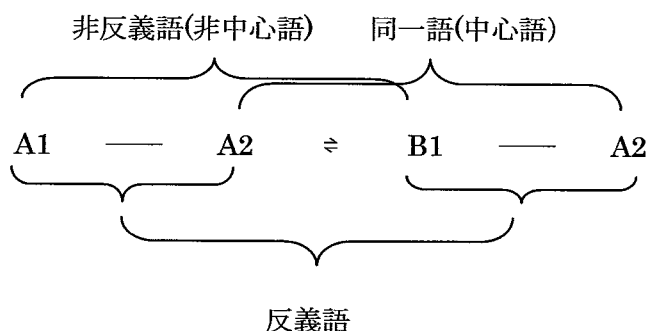
そのほか、別の例もある。

qara miqa (赤身の肉) ≡ taryun miqa (肉の脂身)、

youl urusqal (主流) ≡ salburi urusqal (支流)、

tegsi toya (偶数) ≡ sondayai toya (奇数)

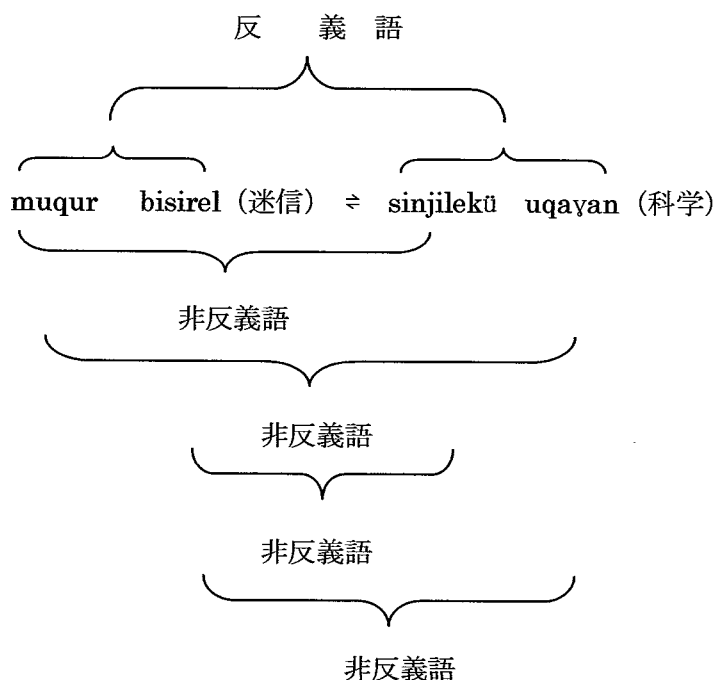
上記の点を図式化すれば以下のようなになる。



3.2.2.4.6. 整体対立関係の反義語 II

連語反義語の四つの単語は全て異なり、しかもその四つの単語は互いに対立して単語反義語をまったく形成することはできない連語反義語である。具体的に言えば、A という単語と B という単語から構成された A — B という連語は、C という単語と D という単語から構成された C — D という連語と反義語になるが、A という単語が C という単語あるいは

D という単語と反義語になることができないであり、B という単語は C という単語あるいは D という単語にも反義語になることができない。つまり、連語の整体として連語反義語になる。例えば、



その他、別の例である。

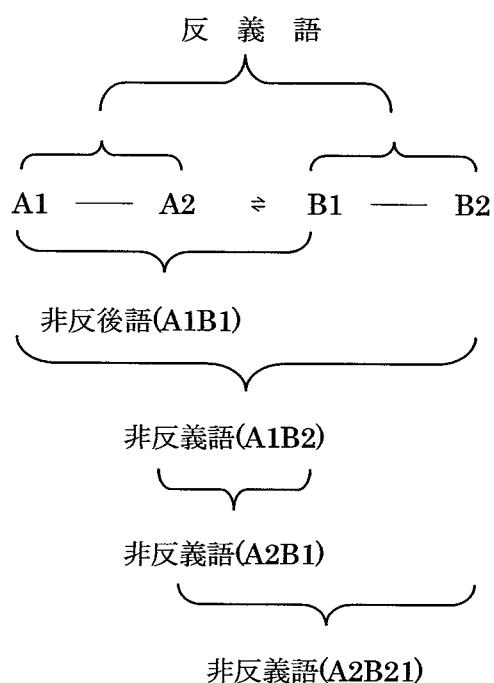
sula jadayai (いいかげん) ≡ narin kinamayai (しっかり)

degem degegür (いいかげん) ≡ narin niyta (しっかり)

qasi yasi (うやむや) ≡ narin nimbai (真剣)

könggen qayumayai (うやむや) ≡ niyta nimbai (慎重)

上記の点を図式化すれば以下のようなになる。



上記のように、モンゴル語における連語反義語の六種類の意味関係をまとめれば以下のようになる。

連 の	{	全部対立関係の反義語
語 対		対等対立関係の反義語
反 立		後語対立関係の反義語
義 関		前語対立関係の反義語
語 係		整体対立関係の反義語 I
		整体対立関係の反義語 II

モンゴル語における反義語の研究対象は単語と連語の二種類がある。これが現実であるということをモンゴル語の実態は証明している。「モンゴル語では連語で構成された反義語の存在を否定することはできない」という言い分は理屈に合っている^{3°)}。単語のみを対象として反義語を研究すると、モンゴル語における反義語の特徴と性質を全面的に明らかにすることができない。更に、モンゴル語における反義語の構造のモデルについて全面的に明らかにすることができない。したがって、モンゴル語の反義語研究は単語反義語と連語反

義語を共通に研究しなければならない。それによって、モンゴル語の反義語研究を深めるのに役立つだろう。モンゴル語における反義語の研究対象の範囲を広げて研究することは、モンゴル語の反義語研究の進歩であることは間違いない。

3.3. 民族的特徴

3.3.1. 言語は社会現象である。「言語は社会から離れることができないし、社会も言語から離れることができない」³¹⁾。同じ意味を異なる言語に異なる発音で示す。例えば、自己を生んだ女性をモンゴル語では eji、eke などの語で表現するが、日本語でお母さん、母、中国語で妈妈、母亲、英語で mother、mummy などの語で表現している。また、同じ発音でも異なる言語では異なる意味を表す。例えば、モンゴル語の ci という二人称の代名詞は、中国語では数字の七などの意味を示す。

3.3.2. 人間のコミュニケーションの手段として、異なる民族の語にその民族の生活と文化の特別な特徴が反映されている。「言語は文化の担体である。その民族の文化についての概念はその民族の言語に反映される」³²⁾。敬語は日本語の重要な特徴である。このことは、特に外国人にとって難しい点であると同時に興味深い点である。「日本語の大きな特色の一つとして「敬語」が採り上げられることも多く、日本語の教師や学習者にはく日本語を本当に習得するためには敬語は欠かすことのできないものだ」という認識も強いのだろうと思います³³⁾。また、日本は島国であることから、日本人の生活の中で、魚は欠かすことができない食品である。そして、魚についての語も様々である。『図解日本語』という本はこう述べている。「同じ魚でも、「鱸」が、「ワカシ、イナダ、ワラサ、ブリ」というように、成長階段に応じて異なる名前と呼ばれるものもある」³⁴⁾。やっぱりその通りである。ラクダは砂漠に暮らしている動物である。ラクダは、モンゴル人の五畜 (tabun qusiγu mal) の一つであり、現在、主に内モンゴルの西部のアルシャン盟に集中している。アルシャンには、砂漠が多いからである。ラクダについて、モンゴル語には様々な言い方がある。一歳のラクダは botuyu と称し、tayiluy は二歳から五歳の雄ラクダを称し、ingge とは語は5歳以降の雌ラクダを称し、buura とは成年雄ラクダをそれぞれ称している。アラビア語では、ラクダの役割によって名前は異なる。アラビア民族では、ラクダは交通工具として使用されている。「言葉というものは、生活と深いかわりを持っている。動物のラクダは、日本語では「ラクダ」という単語しかない。ところが、アラビア語には、同じラクダを押すのにも、「人が乗るためのラクダ」「荷物を運ぶためのラクダ」など、それぞれ違う単語

がある。砂漠に生きる人々にとってラクダが生活に欠かすことのできないものだから、それだけ言葉も細かく使い分けるようになったらしい」³⁵⁾。モンゴル人は昔から牧畜業に頼って暮らしてきた遊牧民族である。したがって、モンゴル語の中では、牧畜業についての語が豊かであるのは言うまでもない。例えば、牛は年歳によって呼称がまったく異なる。

「*tuyul* (一歳牛)、*birayu* (二歳牛)、*sidüleng* (三歳牛)、*qijalang* (四歳牛)、*suyulang* (五歳牛) それぞれである」³⁶⁾。その他、*üker* に関する語は *üniye* (乳牛) と *buqa* (種牛) という二つの言い方がある。B. リンチンは「語の意味について」という著作の中で、「地球の北方で暮らしている *lapun* (ラッパー) という民族の語には、氷を表す語は 20 ほどあり、寒さについての語は 11 あり、雪について語は 41 ある」と述べている³⁷⁾。また、『文化意味論』という本に、色を表した語についてこう述べている。「ハンガリー語には英語の *red* という語と対応する単語はないし、フランス語には英語の *brown* という語ときちんと対応する単語はないし、スペイン語とイタリア語には、英語の *blue* という単語と対応する単語はないのである」³⁸⁾。諺にも民族的特徴が反映されている。例えば、「鶏口となるとも牛後となるなかれ」という中国の諺は、国々によって、いろいろな言い方がなされている。日本：小鳥の頭—大鳥の尾、イギリス：ろばの頭—馬の尾、フランス：かますの頭—鮫の尾、イタリア：猫の頭—ライオンの尾、スペイン：極楽の下部—地獄の王」³⁹⁾。これは、言語が民族性あることをはっきり示している。

3.3.3. 言語は民族の特徴であるので反義語も当然民族の特徴を持っている。これは、国家、または地域の社会、文化、生活、習慣、歴史、環境の差異によって形成されたことである。こうしたことは反義語の民族特徴の基礎である。「異同の民族言語における反義語はまったく同一ということは限らないのである。これは、反義語の民族の特徴を形成した」⁴⁰⁾。

反義語は言語によって異なる。つまり、全ての言語の反義語が同じということではない。「反義語は語彙論においての分布は均衡ではないのである」⁴¹⁾。ある言語に存在している反義語は他方の言語に存在しているとは限らない。「異なる民族の言語においての反義語は異なるのは当然のことである」⁴²⁾。これは、反義語の民族特徴の一つの点である。具体的な例によって分析しよう。

日本語における「買う」—「売る」という反義語は中国語 (买—卖)、英語 (*buy*—*sell*) などにきちんと対応する反義語あるのに対して、モンゴル語で対応する反義語はないのである。この反義語をモンゴル語では *qudaldugu* — *qudaldun abqu* という語で示すが、当

然、反義語にならない。単語と複合語の対立関係からである。その他、中国語の「娶 — 嫁」という反義語はモンゴル語にはないのである。また、深さを示した反義語はモンゴル語 (gūn ⇨ gūyūken)、日本語(深い⇨ 浅い)、中国語 (深 ⇨ 浅)、英語(deep ⇨ shallow)には存在している。しかし、意味論の学者である石安石はこう述べている。「英語には天と地は反義語にならない。フランス語とスペイン語では浅いと深いという反義語がない。フランス語とスペイン語では、深いという意味を表した profond(フランス語)と profundo(スペイン語)のみあるが、浅いという意味を示す語がない。ロシア語の больше(より多い)⇨ меньше(より少ない)という反義語、英語の best⇨ worst という反義語は中国語にはないのである」⁴³⁾。ロシア語の больше(より多い) ⇨ меньше(より少ない)や英語の best⇨ worst という反義語が、モンゴル語と中国語で反義語になることができないのである。日本語では、「山—川」という反義語あるが、モンゴル語と中国語では反義語になることができないのである。また、「アフリカ、アメリカ州のインディアン及びオセアニアの多数の言語では、悪いという単語がないのであり、よくないという語で悪いという単語の意味を表す。Hausa という語では、狭いという単語がないのである。広いという意味を広さという語で表し、狭いという意味を広さは不足するという語で表す」と述べている⁴⁴⁾。これは、反義語についての意義深い民族の特徴である。

なお、反義語から構成された語の位置の順番は言語によって異なる場合もある。実例は以下のようなものである⁴⁵⁾。

中国語	英語	中国語	ロシア語
貧富	rich and poor	水火	огонь и вода
左右	right and left	甘苦	горе и радость
新旧	old and new	貧富	богатый и бедный

モンゴル語では、emüskü (着る、穿く) — tayilqu (脱ぐ) という反義語がある。中国語ではきれいに対応する反義語「穿—脱」がある。それでは、日本語の場合はどうなるか。モンゴル語では emüskü という語が服、シャツ、ズボン、靴などの場合は全部通じるが、日本語の場合は異なる。日本語では、服、シャツなどの場合は着るという語で表しが、ズボン、靴などは穿くという異なる語で表す。したがって、「着る—脱ぐ、穿く—脱ぐ」という二つの反義語が形成されてきた。これは、日本語における反義語の特別な特徴である。『日本語新辞典』で以下のように説明している。「着る」は、上半身、または、上半身と下半身を覆う衣類について使う。「パンツ・ズボン・スカート・靴下・ストッキング・靴・げた」

など、下半身を覆うものについては「はく」を使う」⁴⁶⁾。

モンゴル人は遊牧民族である。ラクダ、牛、馬、羊、山羊などの家畜を五畜 (tabun qusiγu mal) と言う。体の大きさによって、boda mal と boy mal の二種類にわけている。大きなものを boda mal というのに対して、小さなものを boy mal と言う。この五畜は、モンゴル人の生活や社会と密接な関係を持っている。したがって、モンゴル人は家畜の体の大きさに基づき、大型のものを boda mal という呼称で表現し、小型のものを boy mal という呼称で表現指す習慣は昔から伝えられてきた。「モンゴル人はこの五つの家畜の大きさによって boda mal (大型のやつ) と boy mal (小型のやつ) とわけて、その boda mal であるラクダ、牛、馬で大きなものを比喩的意味として転用し、boy mal である羊、山羊というもので小さなものを比喩的意味として転用することになった」⁴⁷⁾。これは、モンゴル語の反義語の顕著な特徴である。例えば、

morin siralji (高い、大きいクリンジン) ⇨ qonin siralji (低い、小さいクリンジン)

morin γonuy (高い 大きい) ⇨ qonin γonuy (低い 小さい)

temegen qarayana (大きい杏の木) ⇨ imayan qarayana (小さい杏の木)

üker puu (大きい銃) ⇨ γar puu (小さい銃)

uquna isige (一歳の大きい山羊) ⇨ kenje isige (一歳の小さい山羊)

üker būriye (大きいラッパ) ⇨ imayan būriye (小さいラッパ)

üker čilayu (大きい石) ⇨ öndegen čilayu (小さい石)

üker čoočali (大きいしぎ) ⇨ qonin čoočali (小さいしぎ)

üker qariyačai (大きいツバメ) ⇨ qonin qariyačai (小さいツバメ)

injaγan buruyan (小雨) ⇨ ajirγan buruyan (大雨)

モンゴル語の反義語の中では、モンゴル人の社会及び生活に関する語もある。これは、モンゴル語の反義語のもう一つの重要な民族特徴である。言語は文化の担体である。これは、言語の語彙を通しその民族の文化、歴史、生活についてある程度に知る可能性があるということが反映されている。実際、これは言語の重要な役割の一つである。「モンゴル人の特別な生活の環境、心理、思惟に関する反義語は様々であり、それらの反義語を研究すべきである。例えば、jōb tala (右手の側、馬などの左側、乗り側) ⇨ buruyu tala (左手の側、馬などの右側、乗れない側)、nara jōb (時計回り) ⇨ nara buruyu (反時計回り)、degürekü (馬乗っている人は他人を前に乗せる) ⇨ sondalqu (馬乗っている人の後

ろに人を乗れる)、qanan ger (家) ⇨ qadan ger (葬させる所)、 totuyu (ドアの上側) ⇨ bosuyu (ドアの下側) , ere nousu (雄カシミヤ) ⇨ eme nousu (雌カシミヤ)、erkei (親指) ⇨ sigeji (小指) などである」⁴⁸⁾。

「語の意味の民族的特徴は社会、思惟、言語によって決まられる」⁴⁹⁾。反義語の民族的特徴の研究は、様々な分野の研究と関係がある非常に複雑な事項である。その特徴を分析することは、母国語の語彙の特徴及びシステムの研究に大きく寄与するであろう。

[注]

- 1) Boyču 2003 p. 67
- 2) 王立廷 1986 p. 62
- 3) 李丽君 1989 p. 9
- 4) 许威汉 2002 p. 452
- 5) 傅朝阳 1980 p. 46
- 6) Sečen Delgerma 2000
- 7) Lobsangwangdan 1961 p. 507
- 8) 马学良等 1997 p. 178
- 9) 陈满华 1994 p. 35
- 10) Norjin-nar 1997 p. 4
- 11) Rinčin 1962 p. 18
- 12) 张庆云 1996 p. 5
- 13) 杨晓安 1987 p. 80
- 14) 叶蜚声 2000 p. 142
- 15) 甘为生 1984 p. 25
- 16) Öbür mongγul-un yeke surγayuli-yin mongγul kele bičig sudulqu yajar 2005 p. 355
- 17) čenggeltai 1999 p. 131
- 18) Öbür mongγul-un yeke surγayuli-yin mongγul kele bičig sudulqu yajar 2005p. 353
- 19) Badmadorji 1997 p. 136
- 20) Öbür mongγul-un yeke surγayuli-yin mongγul kele bičig sudulqu yajar 2005 p. 814
- 21) Badmadorji 1997 p. 63
- 22) Öbür mongγul-un yeke surγayuli-yin mongγul kele bičig sudulqu yajar 2005p. 815

- 23) Badmadorji 1997 p. 65
- 24) Batuiregedüi 2008
- 25) 郭定泰 1989 p. 48-51
- 26) Osur 1985 p. 231
- 27) 谭达人 1989 p. 29
- 28) 兰玉英 1998 p. 16
- 29) Batuiregedüi 2008 p. 3
- 30) Tulɣayuri 1993 p. 38
- 31) 于根元等 1981 p. 27
- 32) 黄晓苑 2000 p. 60
- 33) 滝浦真人 2005 p. 2
- 34) 冲森卓也他 2006 p. 90
- 35) 人民教育出版社编写组 1992 p. 157
- 36) Öbür mongɣul-un yeke surɣayuli-yin mongɣul kele bičig sudulqu yajar 1999 p. 308
- 37) Rinčin 1962 p. 36
- 38) 马清华 1997 p. 129
- 39) 森岡健二 1987 pp. 172-173
- 40) 倪宝元 1957 p. 43
- 41) 顾明华 1985 p. 36
- 42) 谢文庆 1983 p. 141
- 43) 石安石 1998 p. 67
- 44) 张晰 1990 p. 79
- 45) 张志毅等 2001 p. 202
- 46) 松井荣一 2001 pp. 461-462
- 47) Sengge 1997 p. 43
- 48) Badmadorji 1997 p. 113
- 49) 张志毅等 2001 p. 189

第四章 モンゴル語における反義語の分類

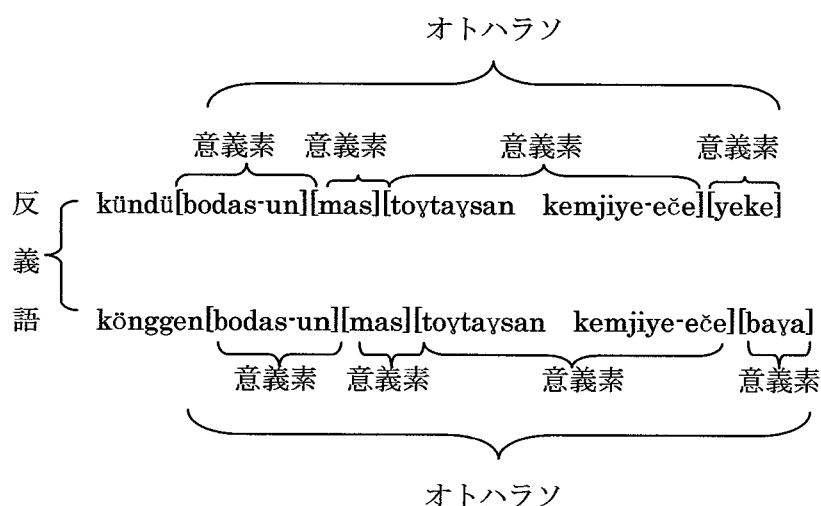
モンゴル語における反義語の分類は、学者達に重要され、主に概念の角度から分類して、分析してきた。例えば、人間の動作についての反義語（*ükükü* <死ぬ> ⇨ *törükü* <生まれる>、*itegel* <信用> ⇨ *sejiglel* <疑い>、*nökür* <友> ⇨ *dayisun* <敵>）、自然のことについての反義語（*qalayun* <暑い> ⇨ *küyiten* <寒い>、*čečeglekü* <咲く> ⇨ *julyaraqu* <>、*ebülsikü* <冬になる> ⇨ *junsiqu* <夏になる>）、時間についての反義語（*örlüge* <朝> ⇨ *üdesi* <夜>、*ebül* <冬> ⇨ *jun* <夏>、*edür* <昼> ⇨ *söni* <夜>）、位置についての反義語（*degere* <上> ⇨ *doura* <下>、*dotuna* <中> ⇨ *yadana* <外>、*ende* <こっち> ⇨ *tende* <そっち>）、特徴についての反義語（*sayin* <よい> ⇨ *mayu* <悪い>、*qatayu* <硬い> ⇨ *jögelen* <柔らかい>、*kündü* <重い> ⇨ *köngken* <軽い>）、方向についての反義語（*jegün* <東> ⇨ *barayun* <西>、*emüne* <南> ⇨ *qoyina* <北>）などである。

分類の研究は、モンゴル語における反義語の重要な研究対象であり、分類の種類が細かければ細かいほど、よりよい深くなることができるものとする。「合理的な、科学的な分類は反義語の特徴や役割について理解するに役立を果たす¹⁾」。本論では、モンゴル語の反義語の分類についてオトハラソ（*udqalasu*）による分類、品詞による分類、移動的意味による分類というような三種類にわけて分析する。

4.1. オトハラソによる分類

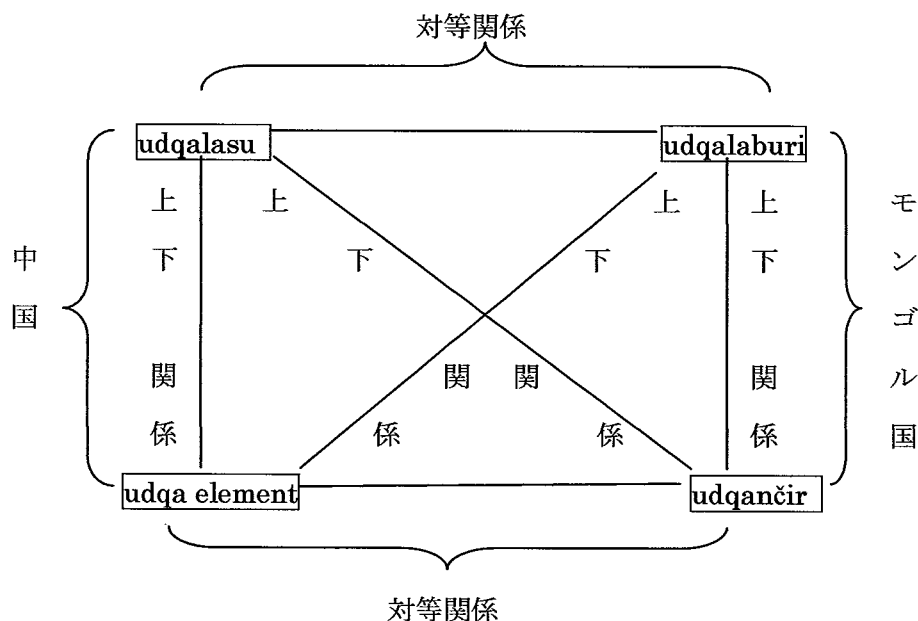
4.1.1. オトハラソについて

モンゴル語におけるオトハラソとは何を指しているか。新しい用語のため、広く知られておらずなじみのない用語である。この用語はまず『意味論』という著作に現れた。この著作の説明によると、オトハラソとは、語の個々の意味を指すと説明している²⁾。つまり、一つの意味がある語は一つのオトハラソから構成され語であり、二つの意味がある語は二つのオトハラソから構成される語であるということである。総じて、いくつの意味がある語はいくつのオトハラソから構成された語であるということである。オトハラソと意義素は、オトハラソは意義素から構成され、意義素はオトハラソを構成する要素であるという関係にある。つまり、オトハラソ は意義素より上の意味単位であり、意義素は オトハラソより下の意味単位である。*kündü*（重たい）— *könggen*（軽い）という反義語の実例を挙げて説明しよう。



上記の分析によると、kündü — könggen という反義語はそれぞれ四つの意義素より構成され、その四つの意義素は kündü — könggen という反義語を形成しているということである。当然のことであるが、意義素は同一の意義素と異同意義素の二ジャンルにわけられる。意義素とオトハラソの数のことについて、オトハラソが少なくとも二つの意義素より構成される。

説明することは、同じ概念の用語であるが、中国における内モンゴルとモンゴル国ではまったく異なるということである。内モンゴルでは、udqa element と udqalasus という用語を用いるのに対して、モンゴル国では、udqancir と udqalaburi という用語を用いている。換言すれば、udqalasus と udqalaburi という二つの用語が対等関係であり、udqa element と udqancir という二つの用語は対等関係である。また、udqalasus は udqa element と udqancir という二つの用語と上下関係であり、udqalaburi は udqancir と udqa element という二つの用語と上下関係である。同じ言語の間で、同じ概念を異なる用語で示すことは、用語の混乱を生じさせ、研究の発展に悪い影響を与える恐れがあるので、統一する方が望ましい。わかりやすくするため上に述の用語について、図式化すれば以下のようなものである。



モンゴル語では、一つのオトハラソを持つ語よりも、複数のオトハラソを持つ語が多いのである。「モンゴル語の多数の語は複数の意味を持つ」とモンゴル語の多義語の研究者である何連喜は述べている³⁾。モンゴル語における反義語の分類をオトハラソに基づき、以下のように大きく二項目に分けて様々に分析する。また、体系的に分析するために更に小さい項目に分けて分析する。

4.1.2. 一つのオトハラソにおける反義語

モンゴル語の一部の反義語は、一つのオトハラソで対立して反義語になっている。しかし、このような反義語は一つのオトハラソの語であるとは限らない。詳しく説明するためにこの種類の反義語を更に二つの種類に分けてそれぞれ分析する。

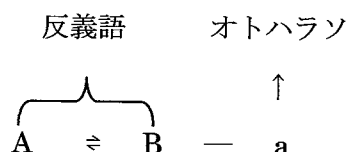
4.1.2.1. 一つのオトハラソにおける一つの反義語

これは、一つのオトハラソにおいて一つの反義語が対応するものである。従来のモンゴル語における反義語の研究では、主にこのタイプの反義語が研究されてきた。以下は実例である。

反義語	オトハラソ
itegel (信頼) ⇔ sejiglel (疑い)	nayidaburitai esekü (信頼度)
yal (火) ⇔ usu (水)	qarsilduqu qaričaya (対立する関係)

čelmeg (晴れ) ≡ бүркүг (曇り) ayur amisqul-un qubiral (天気の変化)
 ebül (冬) ≡ jun (夏) ularil (季節)

上述のことを図式化すれば (A と B は反義語、a、a1、a2、a3…はオトハラソを示す)



4.1.2.2. 一つのオトハラソにおける複数の反義語

ここで、一つのオトハラソにおいて、複数の反義語が対応する例を挙げる。この複数の反義語は相互に類義語になる。「ある語は他の語と反義語になると同時に、その語の類義語とも反義語になる」⁴⁾。これは、モンゴル語における反義語の重要な、同時に複雑な特徴である。反義語と類義語は意味論の異なる研究対象ではあるが、相互に密接な関係を持っている。例えば、

$$\text{doruyitaqu (A1)} \equiv \left\{ \begin{array}{l} \text{manduqu (B1)} \\ \text{kögjikü (B2)} \\ \text{degjirekü (B3)} \\ \text{ögedelekü (B4)} \end{array} \right\} \text{ — } \begin{array}{l} \text{neyigem aqui-yin kögjilte} \\ \text{ögsüjü uruyudaqu(a)} \end{array}$$

doruyitaqu という単語は manduqu、kögjikü、degjirekü、ögedelekü という四つの単語と反義語になり、manduqu、kögjikü、degjirekü、ögedelekü という四つの単語は、相互に類義語になるということである。

A1 衰弱する・ B1、B2、B3、B4 繁栄する・ a 栄枯盛衰

$$\text{mayuqai (A1)} \equiv \left\{ \begin{array}{l} \text{sayiqan (B1)} \\ \text{üjesküleng (B2)} \\ \text{yoyu (B3)} \\ \text{yuwa (B4)} \\ \text{kegenčir (B5)} \end{array} \right\} \text{ — } \begin{array}{l} \text{bodas-un dürsü bayidal-un} \\ \text{toyuydaqu kemjiye (a)} \end{array}$$

mayuqai という単語は sayiqan、üjesküleng、yoyu、yuwa、kegenčir という五つの単語と反義語になり、sayiqan、üjesgüleng、yoyu、yuwa、kegenčir という五語は、相互に類義語になるということである。

A1 醜い・B1、B2、B3、B4、B5 美しい・a 外観の美しさ

上記のことを図式化すれば以下なようである。

$$A1 \ni \left\{ \begin{array}{c} B1 \\ B2 \\ B3 \\ \vdots \end{array} \right\} \quad \text{---} \quad a1$$

4.1.3. 複数のオトハラソにおける反義語

これは、二つあるいは二つ以上のオトハラソにおいて対立しながら反義語になるということである。これは反義語が形成される方法の一つである。「少なからぬ語は二つあるいは二つの以上の語と反義語になり、それらの反義語は反義語群を生じさせる」⁵⁾。この反義語群を生じさせている直接の原因はその語が複数の対立関係のオトハラソを持つからである。このタイプの反義語をさらに二種類に分けて分析する。

4.1.3.1. 一つの語の複数オトハラソにおける反義語

一つの語はその異なるオトハラソによって異なる反義語を形成するということである。しかし、この場合の異なる反義語は相互に類義語にならないのである。例えば、

$$\text{negegekü (A1)} \ni \left\{ \begin{array}{l} \text{qayaqu (B1) — egüde čongqu jerge-yi ongyuyilyaqu (a1)} \\ \text{tarqaqu (B2) — qural čuylayan-u ekilekü (a2)} \\ \text{aniqu (B3) — anisqa-ban ese qamkiqu (a3)} \\ \text{onisulaqu (B4) — onisu čooji-yi aldarayaqu (a4)} \end{array} \right.$$

A1 開ける・B1 閉める、B2 終わる、B3 閉じる、B4 鍵をする・a1 扉や窓を開ける、
a2 会議、集会を行う、a3 目を開ける、a4 鍵を開ける

$$\text{jiryaqu (A1)} \ni \left\{ \begin{array}{l} \text{jobaqu (B1)} - \text{amidural-un qabu čenggel -i} \\ \text{edlekü (a1)} \\ \text{manduqu (B2)} - \text{naran-u unaju singgekü (a2)} \end{array} \right.$$

A 1 幸せになる・B1 苦しむ、B2 出る・a1 生活の快楽を享受する、a2 太陽の出る
 上述したことを図式化すれば以下になる。

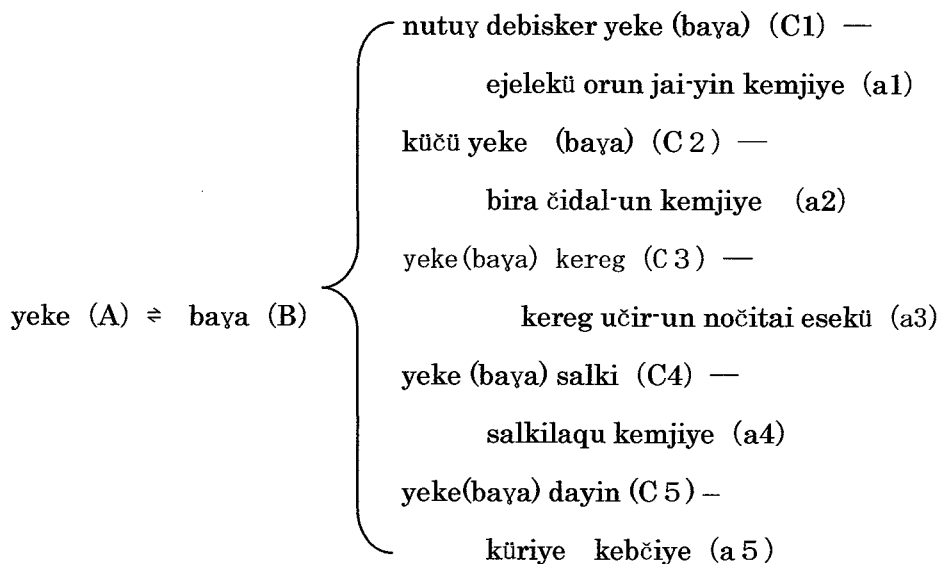
$$\text{A1} \ni \left\{ \begin{array}{l} \text{B1} - \text{a1} \\ \text{B2} - \text{a2} \\ \text{B3} - \text{a3} \\ \vdots \quad \quad \quad \vdots \end{array} \right\} \text{オトハラソ}$$

4.1.3.2. 反義語の複数のオトハラソにおける反義語

モンゴル語の反義語の中に、同じ反義語が異なるオトハラソによって様々な意味の反義語を生じさせるという現象が存在している。これは、モンゴル語の反義語の従来研究されていない特有な特徴であり、同時にモンゴル語の意味論の豊かさを反映していることである。このような反義語の特徴は、形式は変化していないが、内容が変化しているという点である。例えば、

$$\text{qatayu (A)} \ni \text{jögelen (B)} \left\{ \begin{array}{l} \text{qatayu(jögelen) modu (C1)} - \\ \text{bodas-un qatayuča-yin kemjiye (a1)} \\ \text{qatayu (jögelen) sedkil(C2)} - \\ \text{sedkil sanaya-yin eneringgüi esekü (a2)} \\ \text{qatayu(jögelen) ariki(C3)} - \\ \text{ariki-yin gradüs-ün kemjiye(a3)} \\ \text{qatayu(jögelen) üge(C4)} - \\ \text{üge yariya-yin obur sinji(a4)} \end{array} \right.$$

A 硬い、B 柔らかい・C1 硬い (柔らかい) 木、C2 冷たい (温かい) 心、C3 強い (弱い) 酒、C4 厳しい言葉、優しい言葉・a1 物体の硬さ、a2 心の優しさ、a3 酒の強さ、a4 相手に対する態度



A 大きい、B 小さい・C1 面積が広い (狭い)、C2 力は強い (弱い)、C3 深刻な事件と深刻ではない事件 C4 大 (小) 風、C5 大 (小) 戦争・a1 空間の広さ、a2 力の強さ、a3 事件の深刻さ、a4 風の強さ、a5 規模の大きさ

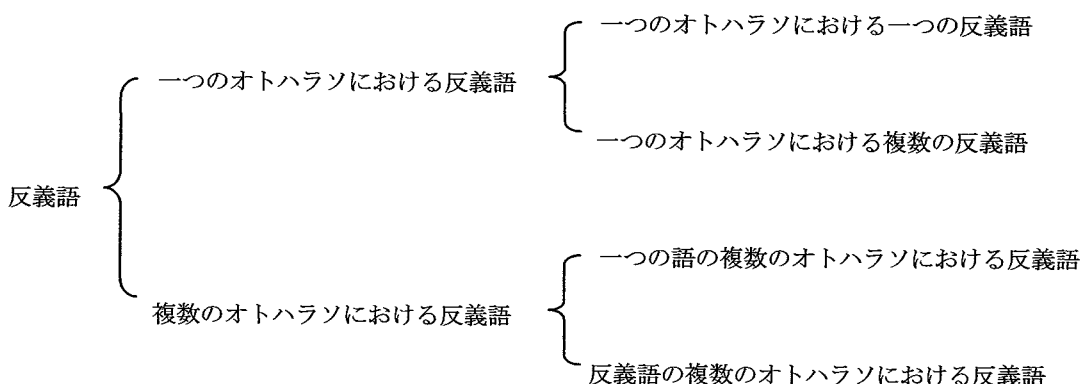
上述のことを図で示せば以下である。

$$A \rightleftharpoons B \quad \left\{ \begin{array}{cc} C1 & \text{—} \quad a1 \\ C2 & \text{—} \quad a2 \\ C3 & \text{—} \quad a3 \\ \vdots & \quad \quad \vdots \end{array} \right\} \text{オトハラソ}$$

4.1.4. 特筆すべきことは、このような種類の反義語は、全てのオトハラソで対立して反義語になるとは限らないということである。具体的に言えば、būdügün と narin という反義語に関して、būdügün という語は bayan činegelig (豊富) <būdügün amidural (豊かな生活)> と tomu bujayai (大きな、巨大な) <būdügün asar (大きなビル)> という二つのオトハラソで、narin という単語と反義語になることはできない。逆に narin という単語は、qaramči (けちな) < amidural-du narin (生活にけち)> と todurqai (明確な) <narin tayiburilaqu (詳しく説明する)> という二つのオトハラソで、būdügün という単語と反義語になることはできない。čingya — sula という反義語の čingya という単語は、

ed mönggü-dü masi yamtai (金銭などを非常に儉約する) <yar čingya (儉約な) > と küčütei (力強い) <čingya adququ (強く握る) > という二つのオトハラソで、sula という単語と反義語になることができない。逆に sula という単語は、nidün qaraya mayu (目が悪い) <sula qaraya (近視) > と selegü jab (暇) <sula čay (暇な時) > というオトハラソで、čingya という単語と反義語になることができない。また、qatayu—jögelen という反義語の qatayu という単語は sonustaqu kemjiye mayu (あまり聞こえない) <čiki qatayu (耳が悪い) > というオトハラソで、jögelen という単語と反義語になることはできない。逆に jögelen という単語は nam dölügen (穏やか、弱い) <jögelen yal(弱い火) > というオトハラソで qatayu という単語と反義語になることができない。以上の分析を通して明らかになることは、モンゴル語の反義語のオトハラソは選択性があるということである。この選択性とは、反義語を形成するオトハラソは選ばれ、反義語を形成できないオトハラソは廃棄されることである。反義語は必ずしも一つのオトハラソに対立しながら反義語になっているとは限らない。逆に、全てのオトハラソの対立によって反義語になっているとは限らない。なぜならば、反義語にオトハラソの選択性があるからである。北原保雄は「ある語の反対語は、一つとは限らない。基準が変わると、いくつも存在することになる」と述べている⁶⁾。ここで述べている基準とはオトハラソを指している。

上記したモンゴル語における反義語のオトハラソによる分類をまとめると次のようになる。



4.2. 品詞による分類

モンゴル語の品詞の研究は形態論の基本的な研究課題であると同時に複雑な研究課題である。どのように分類するかということについて意見が合意していないのである。モンゴル語の品詞分類について『ハルハ方言の派生接尾辞の研究』⁷⁾と『現代モンゴル語の形態論』⁸⁾という二つの著作では、興味深い分け方を提示した。つまり、名詞類、動詞類と不変化詞類の三種類である。名詞類には名詞、形容詞、数詞、代名詞、時間空間詞などの品詞を含めており、不変化詞類の中には接続詞、副詞、助詞、感嘆詞、後置詞、待遇詞などの品詞が含まれている。動詞類には動詞しかないのである。その中で、主に名詞類と動詞類における反義語について研究され、不変化詞類における反義語は研究されなかった。これは、モンゴル語の反義語研究のもう一つの欠点である。品詞における反義語の数について、モンゴル語の名詞類と動詞類における反義語は極めて多数であり、全体の95%を占めており、不変化詞類における反義語は非常に少数であり、全体の5%を占めている。反義語における研究対象として、不変化詞類における反義語も研究しなければならない。それでは、形態論の研究対象である品詞研究は、意味論の研究対象である反義語とどのような関係にあるか。モンゴル語の品詞の分類は、語の意味、文法の特徴、文に使用されることなど三原則によって分けられてきた。つまり、この三原則の一つは意味論を基に分類したことである。実際、品詞の分類だけではなく、全ての形態論の研究対象は意味論から離れることができない。引き続き、名詞類詞、動詞類詞及び不変化類詞についてそれぞれ説明する。

4.2.1. 名詞類の反義語

モンゴル語の名詞類における反義語に名詞反義語、形容詞反義語、空間時間詞反義語、代名詞反義語が含まれている。

4.2.1.1. 名詞反義語

モンゴル語における名詞反義語は重要な研究対象であるが、これまでモンゴル語の名詞反義語について分析されていないのである。モンゴル語の名詞反義語の数量が合計93個あり、全体の17%を占めており、品詞の中で、数量は三番目である。モンゴル語における名詞反義語の特徴は以下のようである。

4.2.1.1.1. 抽象的反義語と具体的反義語について

モンゴル語の名詞反義語の中では、抽象的反義語は多数であり、合計59個あり、名詞

反義語の63%を占めている。例えば、itegel (信用) ⇨ sejiglel (疑い)、qour (害) ⇨ tusa (益)、sayisiyal (褒め) ⇨ mayusiya (悪口)、esergücel (反抗) ⇨ darulal (圧迫)、jiryal (幸せ) ⇨ jobal (苦しみ) などである。具体的な反義語は34個あり、名詞反義語の37%を占めている。例えば、köl (足) ⇨ yar (手)、nökür (友) ⇨ dayisun (敵)、tengri (天) ⇨ yajar (地)、yabiyatan (功労者) ⇨ ösiyeten (報復者) などである。

4.2.1.1.2. 派生反義語について

モンゴル語の名詞反義語の中では、派生反義語は70個あり、名詞反義語の75%を占めている。例えば、bülkümdel (団結) ⇨ qayaçal (分離)、nemelte (付加) ⇨ qasulta (減少)、yabiyatan (功労者) ⇨ yalatan (犯人)、orulya (収入) ⇨ yarulya (支出)、eregtei (男性) ⇨ emegtei (女性) などである。語根反義語は17個あり、名詞反義語の18%を占めている。例えば、ere (男) ⇨ eme (女)、tusa (益) ⇨ qour (害)、nigül (罪) ⇨ buyan (善) などである。「語根—派生」反義語はもっとも少なく、6個あり、名詞反義語の7%を占めている。例えば、qayira <語根> (愛) ⇨ qorusul <派生: qour+ s+l> (憎み)、dayin <語根> (戦争) ⇨ nayiramdal <派生: nayir + mda+l> (平和)、nökür <語根> (友) ⇨ dayisun <派生: dayin + sun> (敵)、onul <語根> (理論) ⇨ üyiledülge <派生: üyile + dü + lge> (実践) などである。

4.2.1.1.1.3. 表現する意味について

人についての反義語:

yabiyatan (功労者) ⇨ yalatan (犯人)、nökür (友) ⇨ dayisun (敵)、barayuntan (右翼) ⇨ jegünten (左翼)

性別についての反義語:

ere (男) ⇨ eme (女)、eregčün (雄) ⇨ emegčün (雌)、eregtei (男性) ⇨ emegtei (女性)

精神的な物についての反義語:

qayira (愛) ⇨ qorusul (憎み)、itegel (信用) ⇨ sejiglel (疑い)、küsel (希望) ⇨ küserdel (失望)

結果についての反義語:

maytayal (褒め) ⇨ jimelel (叱り)、sangnal (賞与) ⇨ sidgel (処罰)、kökigülül (奨励) ⇨ torıyuyali (処分)

生活についての反義語:

bayajil (豊富) ⇨ yadayural (貧乏)、jiryal (幸せ) ⇨ jobal (苦しみ)、jiryalang (幸福) ⇨ jobalang (苦しみ)

政治についての反義語：

aradčılal (民主) ⇨ ejerkeglel (専制)、jegunten (左翼) ⇨ baraguntan (右翼)、darulayči (圧迫者) ⇨ darulaydayči (被圧迫者)

戦争についての反義語：

dayin (戦争) ⇨ nayiramdal (平和)、büselelte (包囲) ⇨ sibtululta (突撃)、dayarilta (突撃) ⇨ qoriylalta (防御)

用語についての反義語：

onul (理論) ⇨ üyiledülge (実践)、ayulya (内容) ⇨ kelberi (形式)、arya (陽) ⇨ bilig (陰)

収入についての反義語：

orulya (収入) ⇨ yarulya (支出)、olja (収獲) ⇨ yaruja (損害)、aldaburi (損) ⇨ qunjiburi (利)

他の反義語：eki (始め) ⇨ aday (終わり)、yal (火) ⇨ usu (水)、tengri (天) ⇨ yajar (地)。

4.2.1.2. 形容詞反義語

モンゴル語の形容詞反義語は 139 個あり、動詞反義語の数より少ないが、名詞反義語の数より多いのである。形容詞は物事の区別特徴を顕著に表せるので、例として反義語についての説明した研究論文や著作の中に挙げる頻度も多いのである。特に、sayin (良い) ⇨ mayu (悪い)、qara (黒い) ⇨ čayan (白い)、yeke (大きい) ⇨ baya (小さい)、sine (新しい) ⇨ qayučin (古い) などの形容詞反義語を例として挙げて反義語を分析している。以下、モンゴル語の形容詞反義語の特徴について分析しよう。

4.1.2.1.1. 形容詞反義語の数量について

モンゴル語における反義語の研究の中で、品詞の角度から研究され、解説されたものは多数ある。特に形容詞反義語の研究については数量が最も多くと強調し、語例も他の品詞の語例より多く出されていることは複数見られる。具体的に言えば、次のようである。

研究成果	著者	形容詞の例	動詞の例	名詞の例
Mongyul kelen-ü üge-yin sang-un sudulul	Temürčerin	15	11	2
Orčin čay-un Mongyul kele	Lubsangwangdan	7	5	0
Mongyul kelen-ü esergü udqa-tai üge- yin ončaliy sinji ba ilerekü bayidal	Engkemendü	12	5	4
Mongyul kelen-ü esergü udqa бүкүй üges- ün tuqai	Rinčin	12	6	0
Mongyul kelen-ü esergü udqa-tai üge-yin tuqai	Bao zhi hong	40	16	13
Mongyul kelen-ü udqa esergü üge-yin ončaliy-i sinjikü ni	Tulyayuri	11	6	5

この図表を見ると、モンゴル語における形容詞反義語は、「反義語」という用語に最も深い関係にあり、まさに、反義語の中核を成していると言える。また、モンゴル語の形容詞反義語は比較的多いということをモンゴル語の学者達も主張している。「モンゴル語において形容詞の反義語は最も多い、次に動詞と名詞である」と述べている⁹⁾。「形容詞は対比概念を示しているから対応する反義語の数は最も多いのである。その次に動詞であり、三番目は名詞である」¹⁰⁾。さらに、形容詞反義語の多い理由を分析したものもある。「モンゴル語の形容詞の反義語は、他の品詞の語数より多い。なぜならば、全てのものは対義性

があり、しかもそのものを単語で示した形容詞はそれらの特徴を指したものとして、よく使われるからである」¹¹⁾。実際本当にそうだろうか。私はこの見方に賛成してはいない。なぜならば、モンゴル語における反義語の中で、数量が最も多いのは形容詞ではなく、動詞反義語だからである。このことを数字で証明しよう。『モンゴル語反義語辞典』（筆者の編集した提出予定、博士論文の辞典篇）では、動詞反義語は合わせて243出現し、全体の45%を占めているが、形容詞反義語は139出現し、全体の26%を占めており、二番目である。名詞反義語は93出現し、全体の17%を占めており、三番目である。つまり、モンゴル語の反義語の中では、形容詞反義語は最も多いとは言えない。モンゴル語の反義語の中で形容詞反義語が最も多いという結論は事実ではなく、動詞反義語が最も多いのは明白である。総じて、モンゴル語において、形容詞反義語が最も多いという従来の見解は誤っていると思う。しかし、全ての言語の中で、形容詞反義語は最も多いとは限らないのである。例えば、「中国語には、形容詞の反義語が一番多いし、次に動詞の反義語、名詞の反義語、副詞の反義語という順番である」¹²⁾。「形容詞は事物の特徴、状態、性質などをはっきり表現し、そのため対応する反義語は最も多くて、他の品詞にも対応する反義語あるが形容詞ほど多くないのである」¹³⁾。「品詞の角度から見ると、形容詞の反義語は最も多いのである」¹⁴⁾。以下は、モンゴル語における動詞反義語、形容詞反義語、名詞反義語の数量について比較した表である。

反義語	動詞反義語	形容詞反義語	名詞反義語
数量	243	139	93
比率	45%	26%	17%

4.2.2.2. 相補反義語と両極反義語について

モンゴル語における形容詞反義語の中では、*ünen*（真実）— *qudal*（偽り）、*jöb*（正しい）— *buruyu*（間違い）、*jingkini*（本物の）— *qayurmay*（偽物の）、*ünençi*（誠実な）— *qudalçi*（嘘つき）など15相補反義語あるのに対して、両極反義語は124ある。つまり、

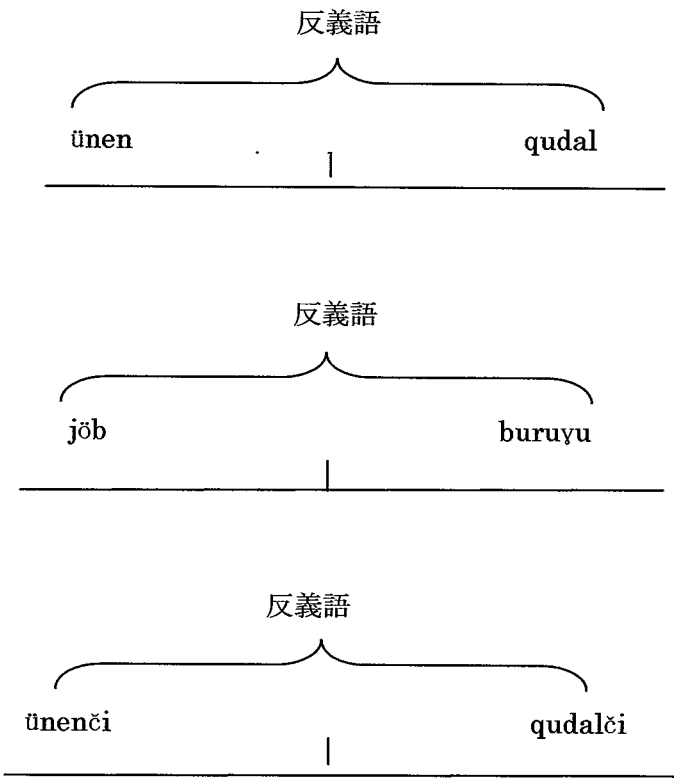
それぞれ比率は 11%と 89%である。表で示せば以下のようなものである。

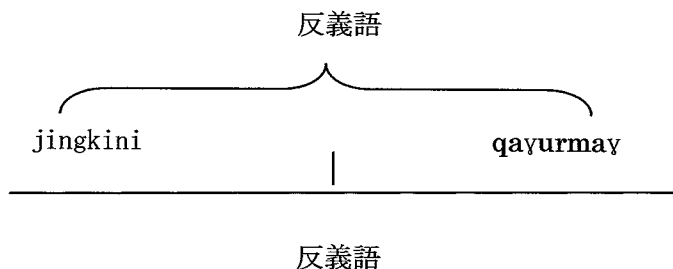
反義語	数量	比例
両極反義語	124	89%
相補反義語	15	11%

更に、両極反義語の過渡的意味の語は相互に対立して、両極反義語になる。これらの現象を図示し説明すれば、一層わかりやすくなる。

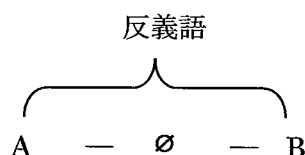
4.2.2.2.1. 相補反義語の分析図

相補反義語の特徴は、事物の特徴が二つの状態でしか分かれておらず、その間に三番目の概念は存在することができない。つまり、ある意味の中で、概念の領域を二分し、一方が肯定されれば、他方が否定される関係にあるということである。例えば、*ünen*（真実）— *qudal*（偽り）という反義語で、*ünen* ではなくれば必ず *qudal*、逆に *qudal* でなければ必ず *ünen* である。*ünen* と *qudal* の間に過渡的な意味はないのである。だからこそ、実際の会話で、*ünen –cü bisi qudal–cü bisi*(真実でもないし、偽りでもない)という話は存在していないであろう。*ünen bisi bol labtai qudal,qudal bisi bol labtai unen*（真実でなければ確実に偽り、偽りでなければ確実に真実）である。以下は例である。



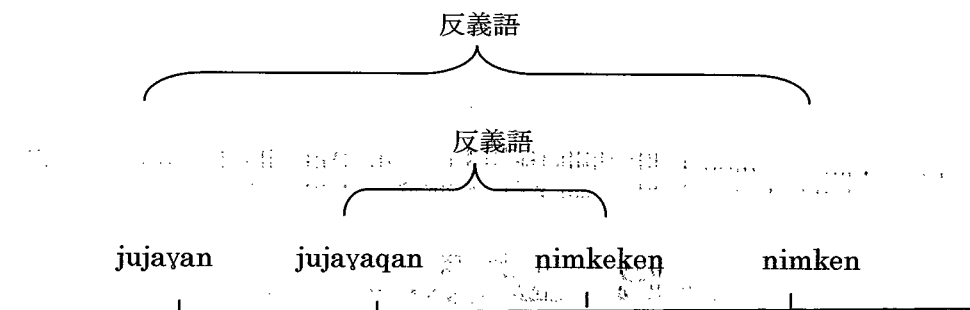


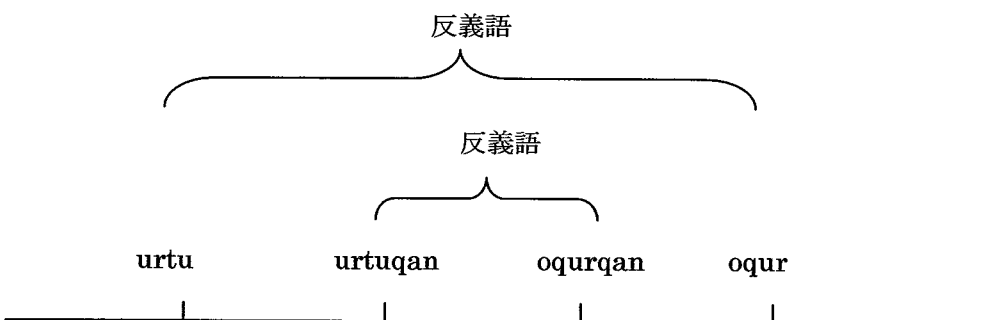
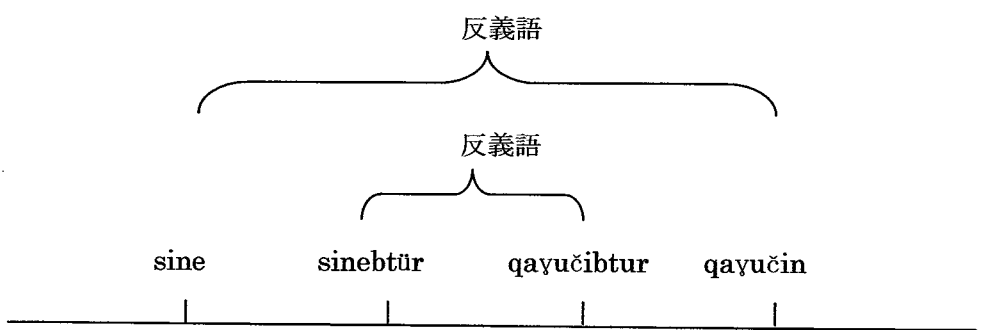
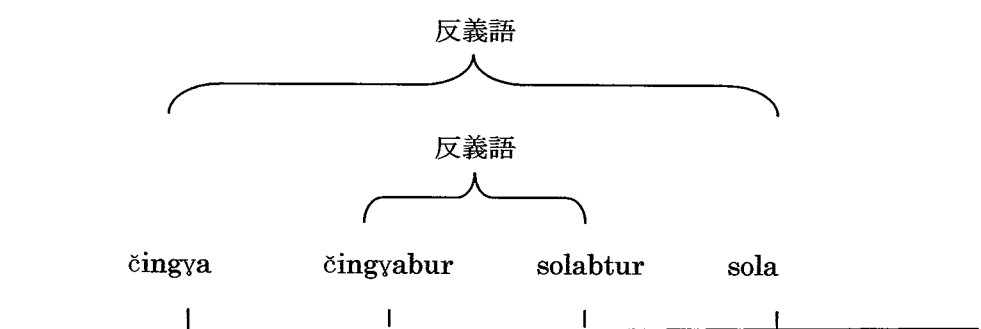
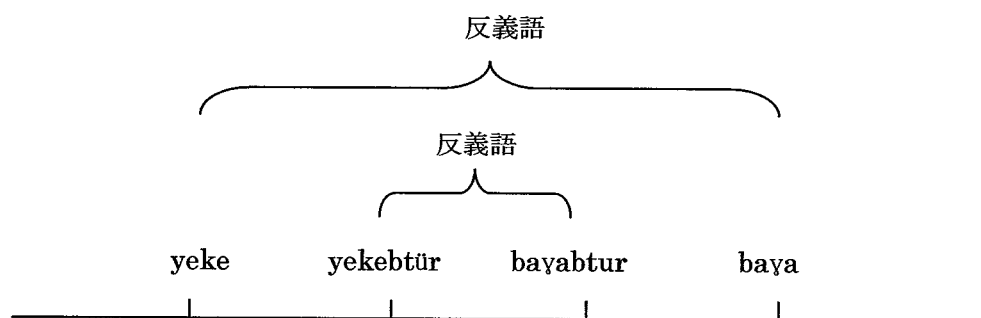
以下は相補反義語のパターンである。A と B は反義語を示す。



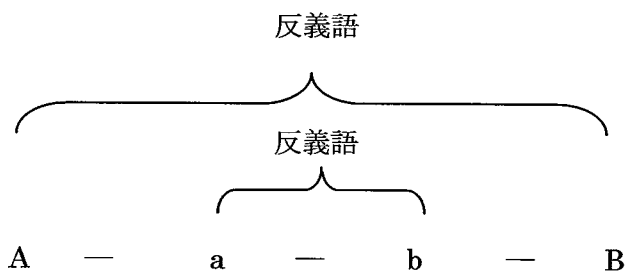
4.2.2.2.2. 両極反義語の分析図

モンゴル語において形容詞の両極反義語はが多数である。両極反義語の顕著な特徴は意味の連続性があるということである。例えば、A と B は形容詞反義語の意味の連続性の両極であり、その中間に a1,a2,a3 … — b1,b2,b3…という過渡的な意味の語が存在している。このことについて国廣哲弥はこう述べている。「一对の反義語によって示される両端の間に無限段階があり得る」¹⁵⁾。そして意義深いことに、この過渡的な意味の語がさらに相互に反義語になるのである。言い換えれば、反義語の中に反義語があるということである。例えば、ene nom juḡayan-ču bisi nimḡen-ču bisi juḡayabtur nom bayina.(この本は厚くもなく、薄くもなく、厚めの本である)と言うような例である。また、qamtu surulyatan-u dotura kiri bütümji ni sayin ba kiri bütümji ni mayu ni čöken, kiri bütümji ni jüger ni olan.(クラスメートの中では、成績がよいのと悪いのが少なく、成績が普通なのが多い)などである。以下は語例である。





A と B は反義語、a と b は過渡的な語を示す。



以上の図を通して、モンゴル語における相補反義語と両極反義語の区別及び基本特徴を理解できるだろう。

4.2.2.3. 形容詞反義語の間での動詞反義語の形成について

モンゴル語の接尾辞は機能によって派生接尾辞（接尾辞）と屈折接尾辞（語尾）と二種類にわけられている。前者は新しい単語を形成させるのに対し、後者は新しい単語を形成せず、文法形式を変えるだけである。それで、形容詞反義語の後に、同じ派生接尾辞あるいは異なる派生接尾辞を接続すると動詞反義語が生じさせる場合が比較的多く見られる。つまり、形容詞語幹動詞の反義語が形成される。例えば、

形容詞反義語 { $\begin{cases} \text{jögel} \text{en} \text{ (柔らかい)} + \text{re} \cdot \rightarrow \text{jögelere} \cdot \text{ (柔らかくなる)} \\ \text{qatay} \text{u} \text{ (硬い)} + \text{ra} \cdot \rightarrow \text{qatayura} \cdot \text{ (硬くなる)} \end{cases} \right\}$ 動詞反義語

形容詞反義語 { $\begin{cases} \text{jujaya} \text{n} \text{ (厚い)} + \text{ra} \cdot \rightarrow \text{jujayara} \cdot \text{ (厚くなる)} \\ \text{nimken} \text{ (薄い)} + \text{re} \cdot \rightarrow \text{nimkere} \cdot \text{ (薄くなる)} \end{cases} \right\}$ 動詞反義語

形容詞反義語 { $\begin{cases} \text{yeke} \text{ (大きい)} + \text{s} \cdot \rightarrow \text{yebes} \cdot \text{ (大きくなる)} \\ \text{baya} \text{ (小さい)} + \text{s} \cdot \rightarrow \text{bayas} \cdot \text{ (小さくなる)} \end{cases} \right\}$ 動詞反義語

形容詞反義語 { $\begin{cases} \text{börküg} \text{ (曇り)} + \text{si} \cdot \rightarrow \text{börkügsi} \cdot \text{ (曇る)} \\ \text{čelmeg} \text{ (晴れ)} + \text{si} \cdot \rightarrow \text{čelmegsi} \cdot \text{ (晴れる)} \end{cases} \right\}$ 動詞反義語

形容詞反義語 { $\begin{cases} \text{büdügün(太い)} + \text{re-} \rightarrow \text{büdügüre-}(太くなる) \\ \text{narin(細い)} + \text{s-} \rightarrow \text{naris-}(細くなる) \end{cases} \}$ 動詞反義語

形容詞反義語 { $\begin{cases} \text{olan(多い)} + \text{sira-} \rightarrow \text{olasira-}(多くなる) \\ \text{öökön(少ない)} + \text{re-} \rightarrow \text{öökere-}(少なくなる) \end{cases} \}$ 動詞反義語

形容詞反義語 { $\begin{cases} \text{yadayu (貧乏)} + \text{ra-} \rightarrow \text{yadayura-} (貧乏になる) \\ \text{bayan (豊か)} + \text{ji-} \rightarrow \text{bayaji-} (裕福になる) \end{cases} \}$ 動詞反義語

形容詞反義語 { $\begin{cases} \text{qola (遠い)} + \text{da-} \rightarrow \text{qolada-} (遠くなる) \\ \text{oyira (近い)} + \text{tu-} \rightarrow \text{oyiratu-} (近くなる) \end{cases} \}$ 動詞反義語

モンゴル語においての形容詞反義語の中で、28%の反義語に接尾辞を接続し動詞反義語が形成することはできる。この形容詞語幹である動詞反義語は動詞反義語の17%を占めている。この比率は少なくないのである。そのほか、「形容詞反義語 + 接尾辞→形容詞反義語」と「形容詞反義語 + 接尾辞→名詞反義語」という構成の反義語の数は以下のようである。

構造の形式	数量	比率
形容詞反義語 → 動詞反義語	40	28%
形容詞反義語 → 形容詞反義語	5	4%
形容詞反義語 → 名詞反義語	0	0

また、形容詞反義語とその形容詞語幹である動詞反義語の意味関係は「そういう特徴を持ち状態の変化を表す」ということである。これは、形容詞反義語とその形容詞語幹動詞反義語を解釈する意味公式である。そのため、形容詞語幹動詞反義語の意味を理解する場合、まずその形容詞反義語の意味を理解する必要があり、形容詞反義語の意味を理解するとその動詞反義語の意味を理解するはずである。例えば、oladaqu (増える) — *čökerekü* (減る) という形容詞語幹動詞反義語に、形容詞語幹反義語である olan (多い) — *čöken* (少ない) の意味、つまり「toya kemjiye ni baya (数量が少ない)、toya kemjiye ni arbin (数量が多い)」という意味を理解すればその動詞反義語である olada- (多くなる)—*čökere-* (少なくなる) という反義語の意味を理解するはずである。

特筆することは、形容詞反義語の後に接尾辞を繋げても形容詞語幹の動詞反義語が必ずしも形成されないということである。例えば、qalayun (暑い) と küyiten (寒い) 形容詞反義語の後ろに接尾辞である *-ra²* が接続する時形成される単語は互いに反義語になることができない。

$$\left. \begin{array}{l} \text{反義語} \left\{ \begin{array}{l} \text{qalayun (暑い)} + \text{ra}^- \rightarrow \text{qalayura}^- \text{ (熱が出る)} \\ \text{küyiten (寒い)} + \text{re}^- \rightarrow \text{küyitere}^- \text{ (寒くなる)} \end{array} \right\} \text{非反義語} \Rightarrow \\ \text{dulayara}^- \text{ (暖かくなる)} \neq \text{küyitere}^- \text{ (寒くなる)} \end{array} \right.$$

このように、新しく形成された語である qalayura- と küyitere- は反義語になることができない。qalayura- という語は人の体温が普通より高くなり、病気になるという意味であるが、küyitere- は気温が下がるという意味である。qalayura- という語に対応する反義語はないが、küyitere- という語には対応する反義語があり、その語は dulayara- (気温が上がる) である。また、ある形容詞反義語の後に動詞形成する接尾辞を繋げると、片方に繋げることはできても、他方に繋げることができない場合もある。例えば、ünen (真実) と qudal (偽り) という形容詞反義語の後ろに *msi* 接尾辞を繋げると ünemsikü という語形になるが、qudal という単語に連続することができない。つまり、

$$\left. \begin{array}{l} \text{反義語} \left\{ \begin{array}{l} \text{ünen (真実)} + \text{msi}^- \rightarrow \text{ünemsikü} \text{ (信じる)} \neq \text{sejiglekü} \text{ (疑う)} \\ \text{qudal (偽り)} + \text{msi}^- \rightarrow \emptyset \end{array} \right\} \end{array} \right.$$

上述したことに关することは、モンゴル語の形容詞反義語の中で、<動詞 + 接尾辞 →

形容詞反義語>という形式の反義語は合わせて17あり、全体の13%を占めている。

4.2.2.4. 表現する意味について

形容詞は物事、動作の特徴と性質についての意味を示す。モンゴル語の学者チンゲルタイは「モンゴル語の形容詞は主に物事の性質と特徴について示し、さらに、動作や状態の性質と特徴を示す」と述べている¹⁶⁾。モンゴル語の意味論の学者バダマドルジはモンゴル語における形容詞反義語の表現する意味について「性質、距離、色彩、性状、大きさを表現する」と説明している¹⁷⁾。先行学者の成果に基づき、もっと詳細にわけて分析しよう思っている。これはモンゴル語の形容詞反義語についての認識を深めることに役立つであろう。

性格について：

qalayumsuy (優しい) ⇨ köyitemsüg (冷たい)、 abliyaqi (欲張り) ⇨ ögligeçi (施し)、 ajilçi (働き者) ⇨ jalqayu (怠け者)

人間の能力について：

sergüleg (賢い) ⇨ bidayu (愚か)、 mergen (頭がいい) ⇨ mongqay (頭がわるい)、 uran (器用な) ⇨ oldui (不器用な)

外観について：

sayiqan (美しい) ⇨ mayuqai (醜い)、 boruyjiyun (質素な) ⇨ kekençir (贅沢な)、 üjesgüleg (かわいい) ⇨ mayuqai (醜い)

限度について：

yeke (大きい) ⇨ baya (小さい)、 tomu (大きい) ⇨ jijig (小さい)、 aburyu (大きな) ⇨ öcüken (小さいな)

数量について：

olan (多い) ⇨ ööken (少ない)、 öökengki (少数の) ⇨ yekengki (多数の)、 elbeg (多い) ⇨ öoqay (少ない)

地形について：

ögede (上り坂になった) ⇨ uruyu (下り坂になった) qotuyur (凹型になった) ⇨ yuduyur (凸型になった)

天気について：

qalayun (暑い) ⇨ köiten (寒い)、 dulayan (暖かい) ⇨ serigün (涼しい)

物の性質について：

sine (新しい) ≡ qayučin (古い)、böke (壊れにくい) ≡ kebereg (壊れやすい)、
qayurmay (偽りの) ≡ jingkini (本物の)

距離について：

qola (遠い) ≡ uira (近い)、urtu (長い) ≡ oqur (短い)、öndür (高い) ≡ nam
(低い)

色彩について：

qara (黒い) ≡ čayan(白い)、

光度について：

qarangyui (暗い) ≡ gegen(明るい)、

匂いについて：

angyiluma (いいにおい) ≡ ömükei(臭い)

気候について：

čelmeg (晴れ) ≡ börküg (曇り)

4.2.2.5.表現する相対概念について

モンゴル語の形容詞反義語のもう一つの顕著の特徴は、比較を通じて存在しているということである。事物の特徴は比較によって認識される。そのことは形容詞反義語にはっきり反映されている。モンゴル語における形容詞反義語は、A (A ≡ B) 語の存在が B 語の存在の前提となり、逆に B 語の存在が A 語の存在の前提となる。つまり互いに前提となって存在している。片方の語がなければもう一方の語は存在できないし、もう一方の語がなければ片方の語が存在できないということが言える。例えば、kündü (重い) — könggen (軽い) という反義語では、kündü という語は könggen という語、あるいは könggen という語は kündü という語と対比を通じて存在している。kündü という語はなければ könggen という語は存在できないし、その逆もまたしかりである。könggen がなければ kündü の重さを知ることができないし、逆に kündü がなければ köngken の重さを知ることができない。必ず比較を通して、kündü と könggen の重さが表現される。つまり、両語は比較を通して共存し、いずれも欠くことができない。形容詞反義語は一つの事物の対立している二つの特徴を示している。

4.2.3. 時間空間名詞反義語

モンゴル語では時間と空間の名詞を合わせて空間時間名詞と名付けている。以下、時間名詞と空間名詞とわけてそれぞれ述べる。

4.2.3.1. 時間名詞

時間名詞とは、期間についての名詞である。例えば、

erte (早い) ⇨ orui (遅い)、örlüge (朝) ⇨ üdesi (晩)、ebül (冬) ⇨ jun (夏)、
edür (昼) ⇨ söni (夜)

4.2.3.2. 空間名詞

空間名詞とは、位置や方向についての名詞である。そして、空間名詞もさらに位置名詞と方向名詞という二種類に分けられる。

4.2.3.2.1. 方向名詞

jegün (左) ⇨ barayun (右)、emüne (南) ⇨ qoyina (北)
örüne (東) ⇨ doruna (西)、emünetü (南方) ⇨ qoyitu (北方)、emünesi (南へ) ⇨
qoyisi (北へ)、emünegür (南方へ) ⇨ qoyiyur (北方へ)、jegünsi (東方へ) ⇨ barayunsi
(西方へ)

4.2.3.2.2. 位置名詞

degere (上) ⇨ दौरа (下)、degegsi (上へ) ⇨ доугси (下へ)、degedü (上) ⇨ दौरаду
(下)、degegür (上に) ⇨ доугур (下に)、degereki (上の) ⇨ दौरаки (下の)、yadana
(外) ⇨ dotuna (中)、dotuysi (中へ) ⇨ yadaysi (外へ)、dotuyur (中に) ⇨ yadayur
(外に)、nayana (こちら) ⇨ чайана (そちら)、nasi (ここに) ⇨ casi (そこに)、nayayur
(ここに) ⇨ чайайур (そこに)、nayatai (この辺) ⇨ чайатай (その辺)、nayadaki (こ
ちらに) ⇨ чийадаки (そちらに)、inadu (こちら) ⇨ чинаду (そちら)、inaysi
(こちらへ) ⇨ чинаysi (そちらへ)

『モンゴル語の形態論』という著作では、モンゴル語の時間空間の名詞は合計110ほ
どであると述べている¹⁸⁾。以上述べた例によると、時間空間の名詞の中で、半分以上の語は
反義語になることができる。これは、時間空間の名詞が反義語になる比率は非常に高いと
いうことを明らかに示している。つまり、二つの語の中で一つの語に対応する反義語があ
るということである。また、時間空間の名詞反義語の構造に注意すれば、語尾は「na²、ra²、
da²、tai²、tu⁴、yur⁴、ysi²、si、ki、daki²」という形式である。モンゴル語の学者
チンゲルタイは、「モンゴル語の期間位置の名詞は<na²、ra²、da²、tai²、tu⁴、yur⁴、ysi

²、si、ki、daki²>という語尾で表現する」と述べている¹⁹⁾。そのため、その語尾に基づき、モンゴル語における時間空間の名詞における反義語を以下のように分けて分析する。

語尾が na²である反義語:

nayana(ここ) ⇨ čayana(そこ)、emüne(南) ⇨ qoyina(北)

語尾が ra²である反義語:

degere(上) ⇨ दौरa(下)

語尾が si である反義語:

jegünsi(東へ) ⇨ barayunsi(西へ)、nasi(こちら) ⇨ časi(そちら)

語尾が tai²である反義語:

barayuntai(西) ⇨ jegünitei(東)、nayatai(ここ) ⇨ čayatai(そこ)

語尾が yur⁴である反義語:

degegür(上に) ⇨ douyur(下に)、yadayur(外) ⇨ dotuyur(中)

語尾が ysi²である反義語:

degegsi(上) ⇨ doyuysi(下)、inaysi(こちらへ) ⇨ činaysi(そちらへ)

語尾が ki である反義語:

degereki(上) ⇨ दौरaki(下)、emüneki(南) ⇨ qoyinaki(北)

語尾が du⁴である反義語:

yadayadu(外) ⇨ dotuyadu(中)、emünedü(南) ⇨ qoyidu(北)

語尾が da²である反義語:

urida(前) ⇨ qoyisida(あと)

語尾が daki²である反義語:

jegündeki(東) ⇨ barayundaki(西)、nayadaki(こちらに) ⇨ čayadaki(そちらに)

もう一つの特徴は、時間空間の名詞における反義語の語根は非独立語根(beye-ben dayaqu ügei ijayur)である。モンゴル語の語根は独立語根(beye-ben dayaqu ijayur)と非独立語根(beye-ben dayaqu ügei ijayur)という二つの種類にわけられている。独立語根とはその語根は独立語として使用される語根であり、非独立語根とはその語根は独立語として使用されない語根である。例えば、

degere ← dege + re、emüne ← emü + ne、yadayur ← yada + yur

doura ← doyu + ra、qoyina ← qoyi + na、dotuyur ← dotu + yur

「dege - doyu、qoyi - emü、yada - dotu」は非独立語根である。

4.2.4. 代名詞反義語

代名詞とは事物、期間、位置、数量、人称などを代替して示す語である。代名詞の中で、beye-yin tölügen-u nere (人称代名詞) の ene (これ) ≡ tere (それ)、ede (これら) ≡ tede (それら)、öber-ün tölügen-ü nere (再帰代名詞) の öber (自分) ≡ busud (他人)、jiyaqu tölügen-ü nere (指示代名詞) の egün (これ) ≡ tegün (それ) eyimü (この) ≡ teyimü (その)、edüi (こんな) ≡ tedüi (そんな)、edüyičinen (これほど) ≡ tedüyičinen (それほど)、ende (こちら) ≡ tende (そちら) などは反義語になることができる。その他、代名詞反義語を大きくて物事を表す反義語と位置を表す反義語という二種類にわけて分析してもいい。前者は、例えば、ene (これ) ≡ tere (それ)、edeger (これら) ≡ tedeger (それら)、egün (これ) ≡ tegün (それ) であり、後者は、例えば、ende (ここ) ≡ tende (そこ)、endeki (この) ≡ tendeki (その)、enegür (この辺) ≡ tenegür (その辺)、esi (こちらへ) ≡ tesi (そちらへ) などである。代名詞の反義語をしっかりと観察すれば興味深い特徴を発見できる。つまり、「e」と「te」という語頭の反義語は多いのである。「<e>語頭の語は近いものや所を指すのに対して、<te>語頭の語は遠いものや所を指す」²⁰⁾。

4.4.2. 動詞類の反義語

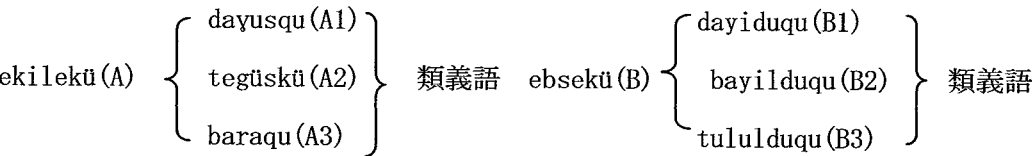
動詞類反義語には、動詞反義語のみ含まれている。

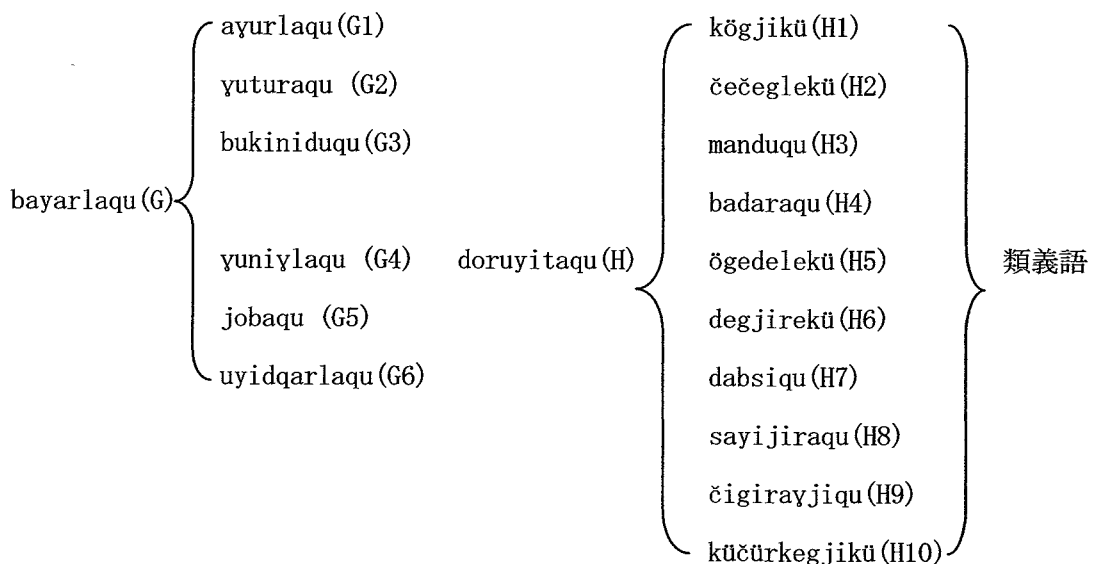
モンゴル語における動詞反義語の研究について、研究者は主にその概念の視点からモンゴル語の動詞反義語を分類してきた。具体的に言えば、『現代モンゴル語の意味論基礎』という著作では、モンゴル語の動詞反義語については、反方向反義語 (egekü esergü udqatu uge) という種類の反義語を提出して分析した。つまり、相互に逆の方向であり、対立すると同時に補足する関係の反義語である。例えば、ögkü (あげる) ≡ abqu (もらう)、bosqu (立つ) ≡ sayuqu (座る)、asayuqu (尋ねる) ≡ qariyulqu (答える)、abariqu (昇る) ≡ bayuqu (下りる) などである」と注釈した²¹⁾。『現代モンゴル語の語彙論の基礎』という著作では、モンゴル語の動詞反義語について、動作についての反義語と動作の特徴についての反義語とにわけて分析した。例えば、yabuqu (行く) ≡ irekü (来る)、tataqu (引く) ≡ tülkikü (押す)、unaqu (転ぶ) ≡ bosqu (立つ)、untaqu (寝る) ≡ serikü (目を覚める)、okilaqu (泣く) ≡ iniyekü (笑う)、yadaraqu (疲れる) ≡ tengkerekü (元気になる) などである²²⁾。『モンゴル語の語彙論』という著作では、動詞反義語は主

に、色々な動作及び変化の意味を示すと説明している。例えば、uruqu (入る) ⇨ yaruqu (出る)、sanaqu (思い出す) ⇨ martaqu (忘れる)、emüskü (着る) ⇨ tayilqu (脱ぐ)、degegsilekü (上がる) ⇨ doruysilaqu (下がる) などである²³⁾。モンゴル語の品詞の中で、反義語の数量が最も多いのは動詞であり、反義語の45%を占めている。モンゴル語における反義語の特徴は以下になる。

4.2.2.1 動詞反義語の数量について

モンゴル語の品詞の中で、動詞反義語がなぜ最も多いと思われるだろう。これは、動詞反義語の中に、一つの語に複数の反義語が対応する場合が、比較的多いということと関係がある。モンゴル語の動詞反義語の中では、51個の語に141個の反義語が対応しており、さらに一つの語に10個の反義語が対応する場合もある。例えば、





G— 喜ぶ、G1—怒る、G2, G3, G4, G5, G6— H—衰退する、H1, H2, H3, H4, H5, H6, H7, H8, H9, H10— 繁栄する

4.2.2.2 自動詞反義語の数について

モンゴル語の動詞は、目的語が要るかそうでないかに基づいて、自動詞と他動詞の二種類にわけられる。目的語が要る語が他動詞であるのに対して、前に目的語が要らない語が自動詞である。「モンゴル語の自動詞と他動詞について、主に目的語が要るかどうかによって区別している」²⁴⁾。モンゴル語の動詞反義語の中では、自動詞反義語は合計170個あり、全体の70%を占めている。例えば、kөdelkü(動く) ⇨ joysuqu(止まる)、kүйiterekü(冷える) ⇨ dulayaraqu(暖める)、qatayuraqu(硬くなる) ⇨ jögelerekү(柔らかくなる)、kөkerekү(青ばむ) ⇨ siralaqu(黄色くなる)、norqu(濡れる) ⇨ qataqu(干す)、nөkürlekү(友になる) ⇨ dayisungnaqu(対立する)などである。他動詞反義語は合計で72個であり、全体の29%を占めている。例えば、tasulqu(切る) ⇨ jalyaqu(つなぐ)、tataqu(引く) ⇨ tülkikү(押す)、yoluqu(嫌う) ⇨ toyuqu(相手にする)、qayaqu(捨てる) ⇨ tegükү(拾う)、negegekү(開ける) ⇨ qayaqu(閉める)、čiqulčilaqu(重要にする) ⇨ umdayayilaqu(軽視にする)、čingyaqu(強める) ⇨ suladyaqu(緩む)などである。自動詞—他動詞形式の反義語は、三つあり、動詞反義語の1%を占めている。例えば、ilaqu(勝利する) ⇨ ilaydaq(失敗する)、deyilkү(負かす) ⇨ deyilügdekү(負ける)、küsekү(希望する) ⇨ köserdekү(失望する)などである。

4.2.2.3. 動詞反義語の構造について

モンゴル語における動詞反義語の構成については、＜動詞 → 動詞＞形式の反義語、＜形容詞 → 動詞＞形式の反義語、＜名詞 → 動詞＞形式の反義語は重要な位置を占めている。その中で、「動詞 → 動詞⇒反義語」形式の反義語、つまり、動詞の後ろに接尾辞を連続することによって形成された新しい動詞反義語は最も多く、合計で105個あり、全体の43%を占めている。例えば、abqu（もらう）⇔ögbü（あげる）、köbbükü（浮く）⇔jibbükü（沈む）、qayilqu（溶ける）⇔ köldekü（凍る）、bariqu（持つ）⇔ talbiqu（放つ）、amiduraqu（生きる）⇔ ükükü（死ぬ）などである。次に、「形容詞 → 動詞⇒反義語」形式の反義語、つまり形容詞の後ろに接尾辞を連続して形成された新しい動詞反義語であり、合計41個あり、全体の17%を占めている。例えば、sularaqu（緩む）⇔ čingyaraqu（強まる）、mayujiraqu（悪くなる）⇔ sayijiraqu（よくなる）、könggerekü（軽くなる）⇔ köndürekü（重くなる）、bayajiqu（金持ちになる）⇔ yadayuraqu（貧乏になる）、bürküksikü（曇る）⇔ čelmegsikü（晴れる）などである。その次に、「名詞 → 動詞⇒反義語」形式の反義語、つまり、名詞の後ろに接尾辞を連続して形成された新しい動詞反義語であり、合計21個あり、全体の9%を占めている。例えば、nökürlekü（友になる）⇔ dayisungnaqu（敵対する）、bayarlaqu（喜ぶ）⇔ ayurlaqu（怒る）、usudaqu（洪水にみまわれる）⇔ yangdaqu（干ばつになる）、qayiralaqu（愛する ⇔ qorusqu（憎む）、nayiramdaqu（和解する）⇔ dayiduqu（戦う）などである。上記の図表で示せば、以下のようになる。

構成の形式	例	数	比率
動詞＋接尾辞 → 動詞反義語	bariqu ⇔ talbiqu jibbükü ⇔ köbbükü abqu ⇔ ögbü	105	43%
形容詞＋接尾辞→動詞反義語	sularaqu ⇔ čingyaraqu yadayuraqu ⇔ bayajiqu bürküksikü ⇔ čelmegsikü	41	17%
名詞＋接尾辞→ 動詞反義語	usudaqu ⇔ yangdaqu nökürlekü ⇔ dayisungnaqu qayiralaqu ⇔ qorusqu	21	9%

4.2.2.4. 動詞反義語の表現する意味について

モンゴル語における動詞は、種類が豊富であり、その上数量が多い品詞である。「モンゴル語の動詞は、他の品詞から大量に生み出されるので、種類が多く、しかも数量も多いのである」²⁵⁾。詳細に観察すれば、モンゴル語の動詞反義語の中で、人間や動物の動作及び変化を示す反義語は優位を占めている。当然のことであるが、その他の意味も示す。具体的に言えば、

人間に関する反義語：

asayuqu(尋ねる) ⇨ qariyulqu(答える) emüskü(着る) ⇨ tayilqu(脱ぐ) bayajiqu(金持ちになる) ⇨ yadayuraqu(貧乏になる) abqu(もらう) ⇨ ögkü(あげる) mayusiyaqu(非難する) ⇨ sayisiyaqu(褒める)

人間と動物に関する反義語：

öluskü(腹が減る) ⇨ čadqu(満腹する)、 turaqu(痩せる) ⇨ taryulaqu(肥える) irekü(来る) ⇨ očiqu(行く)、 untaqu(寝る) ⇨ serikü(目覚める)、 ükükü(死ぬ) ⇨ amiduraqu(生きる)

人間、動物及び無生命の物に関する反義語：

ködelkü(動く) ⇨ joysuqu(止まる) nayasilaqu(近づく) ⇨ čayasilaqu(遠ざかる) norqu(濡れる) ⇨ qataqu(乾く)

草、植物に関する反義語：

kökerekü(青ばむ) ⇨ qubaqayiraqu(干からびる)、 noyuyaraqu(緑になる) ⇨ siralaqu(黄色くなる) čečeglekü(咲く) ⇨ siralaqu(黄色くなる)

社会のことに関する反義語：

manduqu(繁栄する) ⇨ doruyitaqu(衰退する)、 kögjikü(栄える) ⇨ uruyutaqu(衰える) manduqu(興る) ⇨ mökükü(滅びる)

自然のことに関する反義語：

köldekü(凍る) ⇨ qayilqu(溶ける)、 yangtaqu(干ばつ) ⇨ usudaqu(水害になる)、 egülesikü(曇る) ⇨ tungyalaysiqu(晴れる)

その他の反義語：

delgeregülkü(大する) ⇨ quriyangyuyilaqu(要約する) keyisbürilekü(抽象化する) ⇨ bodatayičilaqu(具体化する)

以上、名詞類と動詞類において反義語を分析した。引き続き、不変化詞類の反義語につ

いて分析する。

4.2.3. 不変化詞類における反義語

モンゴル語の不変化詞類における品詞とは、dayiburi üge (副詞)、ayalya üge (間投詞)、qandulya üge (待遇詞)、dayaburi üge (後置詞)、sula üge (助詞)、qolbuqu üge (連続詞) など六種類の品詞が含まれている。その中では、副詞、待遇詞、助詞に対応する反義語がある。つまり「品詞の全ての分類に対応する反義語があるわけではない」²⁶⁾。不変化詞類の反義語は名詞類と動詞類の反義語よりはるかに少数である。つまり、名詞類と動詞類の反義語はモンゴル語の品詞の中で、絶対多数を占めている。これまで、モンゴル語の不変化詞類における反義語について研究されていない。これは、モンゴル語における反義語研究のもう一つの欠点である。以下、不変化詞類の反義語についてそれぞれ説明する。

4.2.3.1. 副詞反義語

モンゴル語の副詞とは、行動、状態、性質の特徴を示す語である。副詞の中で、対応する反義語があるのは čay orun-u dayiburi üge(時間副詞) しかないのである。例えば、genedte(急に) ≡ imayta(いつも)、ürgülji(常に) ≡ qaya(たまに)、mödtü(すぐ) ≡ ayar(あと)、kedüini(すでに) ≡ sayi(さっき)、bayingyu(常に) ≡ qaya(時折)、ödker(すぐ) ≡ ayar(あと)などである。

4.2.3.2. 助詞反義語

モンゴル語の助詞とは、人が物事に対する態度の意味を示す語である。助詞の中で、肯定助詞 と否定助詞 は相互に対立して反義語になる。つまり、肯定助詞 の mön という語と否定助詞 の bisi という語であり、mön (である) ≡ bisi (ではない) である。

4.2.3.3. 待遇詞反義語

モンゴル語の待遇詞 (qndulya üge) 詞とは、物事及びその関係に対する人の態度を示している言葉である。例えば、mayad (かもしれない)、erkebisi (必ず)、üneker (本当に)、ilangyuya (とりわけ)、jabal (必ず)、labtai (きっと)、jöbken (単に)、bolultai (たぶん)、yariyan ügei (言うまでもない)、sejiglesi ügei (疑いなく)、yerüni (一般に) などである。その中で、bolultai (かもしれない) ≡ labtai(必ず) という一つの反義語し

かないのである。

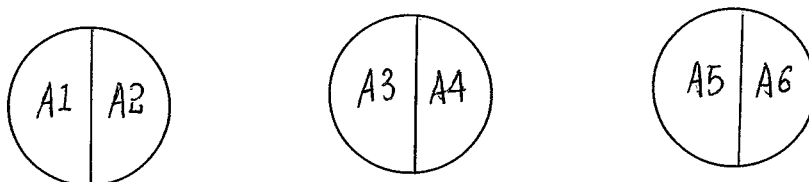
品詞研究はモンゴル語の形態論の重要な研究対象であり、同時に「モンゴル言語学の中で、最も議論される問題の一つである²⁷⁾。品詞の角度からモンゴル語の反義語を分析することは、その様々な特徴について明らかにするに役立を果たすだろう。反義語について熱心に研究した学者である謝文慶が、「反義語について研究する際、品詞の角度から注意して研究すれば、その内部的な特徴を明らかにするときに非常に有効であろう」と述べている²⁸⁾。

4.3. 過渡的意味による分類

一般的に、反義語は両極反義語と相補反義語の二種類にわけて研究されている。過渡的意味のある (siljilte-yin činar-tai üge) 反義語が両極反義語であるのに対して、過渡的意味のない反義語が相補反義語である。このような分類法はモンゴル語、日本語、中国語のいずれも同じである²⁹⁾。

4.3.1. 相補反義語について

相補反義語とは、反義語の中には過渡的意味がない反義語である。相補反義語の特徴は事物を二つの状態にしか分けておらず、その間に三番目の概念を表す語が存在していないのである。つまり、概念の領域を二分し、一方が肯定されれば、他方が否定される関係にあるということである。例えば、joysuqu (真実) ≡ ködülkü (偽) という反義語に、joysuqu でなければ必ず ködülkü、逆に ködülkü でなければ必ず joysuqu である。joysuqu と ködülkü の間に中間帯、または過渡的な意味がまったくないのである。例えば、ere (男) <A1> ≡ eme (女) <A2>、jöb (正しい) <A3> ≡ buruyu (間違い) <A4>、köbbükü (浮く) <A5> ≡ jibbükü (沈む) <A6>。図形式すれば以下の通りである。

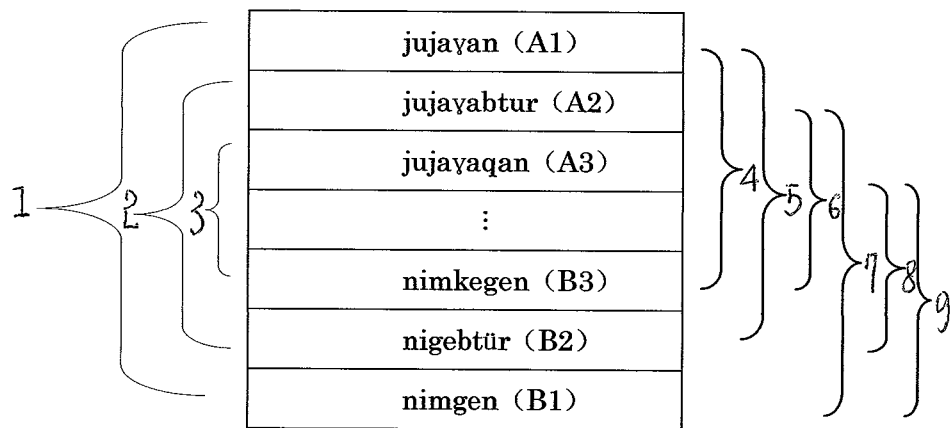


「男—女」という相補反義語について、ある笑い話が伝えられている。ある日、孫がおばあさんに「昨日先生に子供が生まれたんだって。当ててみて、女の子か。男の子か。」「女

の子。」「違う、もう一回当ててみて。」「男の子。」「あたり、あたり。おばあさんはすごいね、たった二回で当てるなんて…」実際、これは非常に普通なことである。人間にとって、性別は男と女の二種類にしかないからである。男性でなければ女性であり、逆に女性でなければ男性であるというのは当たり前のことである。

4.3.2. 両極反義語について

両極反義語の中間帯に意味の連続性である。説明されている反義語はその連続性の両極であり、中間の過渡的意味がその反義語の両極の連続性である。このことについて国広哲弥は「両端の間に無限の中間段階があり得る」と述べている³⁰⁾。例えば、qalayun (暑い) ⇨ küyiten (寒い) ⇒ qalayun—dulayan (暖かい) — serigün (涼しい) — küyiten、jujayan (厚い) ⇨ nimgen (薄い) ⇒ jujayan (厚い) — jujayabtur (厚め) — nimgibtür (薄め) — nimgen (薄い)。しかし、原語とその意味の連続性の語は相互に反義語になることはできなく、また意味の連続性の語も文法形式の異同場合、反義語になることはできない。図式化すると以下のようなものである。

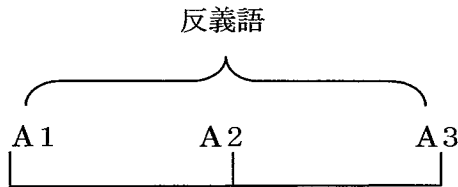


1 反義語 (A1 ⇨ B1)、2 意味の連続性=反義語 (A2 ⇨ B2)、3 意味の連続性=反義語 (A3 ⇨ B3)、4. 非反義語 (A1— B3)、5. 非反義語 (A1—B2)、6 非反義語 (A2—B3)、7 非反義語 (A2—B1)、8 非反義語(A3—B2)、9 非反義語 (A3—B1)

過渡的意味によって、両極反義語をさらに一つの移動的意味ある両極反義語と多数の移動的意味ある両極反義語の二種類にわけて分析する。

4.3.2.1. 一つの過渡的意味ある両極反義語

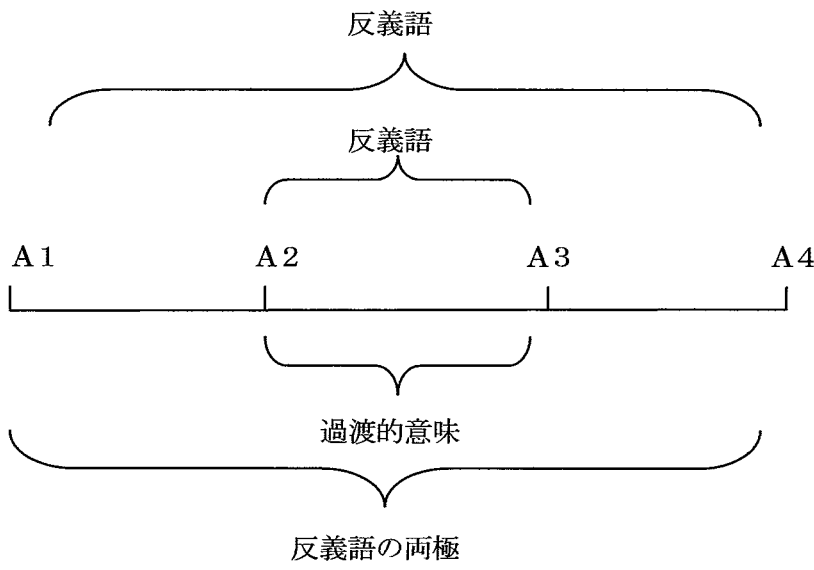
これは、過渡の意味が一つしかないの両極反義語を指す。例えば、*uruysilaqu* (前進する) — *joysuqu* (止まる) — *uquriqu* (後退する)、*ilaqu* (勝つ) — *tengčeldükü* (引き分ける) — *ilaydaqu* (負ける)、*degedü* (上) — *dumdadu* (中) — *douradu* (下) などである。図式化すれば、以下のようなものである。



4.3.2.2. 多数の過渡的意味ある両極反義語

これは、過渡的意味が多数ある両極反義語を指す。さらに、その過渡的意味は相互に対立して反義語になる場合もある。例えば、

yeke(大きい) — *yekeken* (大きめ) — *bayaqan* (小さめ) — *baya* (小さい)、*qola* (遠い) — *qolabtur* (幾分遠い) — *oyirabtur* (幾分近い) — *oyira* (近い)、*qara* (黒い) — *qarabtur* (黒めである) — *čayabtur* (白めである) — *čayan* (白い) 。図式化すれば以下のようなになる。



両極反義語は講演や日常会話に積極的に使用されている。例えば、アメリカ民主党のオバマ上院議員は主な外交政策では中国に対して、「中国は敵でもなく友もでもない。競争相

手」と言ったことがある。(日本経済新聞 2008・5・22・3面 「変革訴え 秋の本選へ」)。この講演の中では、両極反義語は敵— 競争相手—友がある。また、彼は太くないし細くないし、高くないし低くないし、黒くないし白くない人である。この文章の中では、両極反義語は太い—普通—細い、高い—普通—低い、黒い—普通—白いである。

[注]

- 1) 赵克勤 1986 p.35
- 2) Sečin Delgerma 1996 p.99
- 3) He lian xi 2002 p.1
- 4) Jambalsürüng nar 1990 p.153
- 5) 石安石 1998 p.87
- 6) 北原保雄 1988 p.2
- 7) 塩谷茂樹 2006 p.1
- 8) Čenggeltai 1999
- 9) Tulyayuri 1993 p.37
- 10) 张拱贵 1957 p.32
- 11) Jambalsürüng nar 1990 p.151
- 12) 许威汉 2002 p.452
- 13) 马学良等 1997 p.179
- 14) 武占坤 等 1983 p.138
- 15) Sečin Delgerma 1996 p.184
- 16) Čenggeltai 1999 p.182
- 17) Badmadorji 1997 p.113
- 18) Čenggeltai 1999 p.206-207
- 19) Čenggeltai 1999 p.206
- 20) Gereltü 1998 p.236
- 21) Badmadorji 1997 p.116
- 22) Jambalsürüng nar 1990 p.151
- 23) Temürčerin 2004 p.66
- 24) Čenggeltai 1999 p.297

25) Čenggeltai 1999 p. 235

26) D・bandi 1978 p. 9

27) Öbür mongyul-un yeke suryayuli-yin mongyul kele bičig sudulqu yajar 2005 p. 365

28) 谢文庆 1988 p. 27

29) Sečen Delgerma 1996 p. 184

工藤浩 1995 p89

贾彦德 1999 160-163

30) 国広哲弥 1987 p. 170

第五章 モンゴル語における反義語の意義深い問題について

モンゴル語における反義語研究には様々な意義深い問題が存在している。これは、モンゴル語の反義語研究において特別なことであり、同時に見落とすことのできない研究課題である。しかし、こうした課題については、これまで十分研究されていないのである。そのため、当部分では、この課題について分析することを目指した。これは、モンゴル語における反義語のことを全面的に研究するに役立つであろう。

5.1. 特別な反義語

反義語は密接な意味関係ある二つの語の対立であるが、非常に少数の二つの語は意味の点であまり関係がないのに反義語になることはできる場合もある。この例としては、*yal* (火) — *usu* (水)、*toluyai* (頭) — *segül* (尾)、*tengri* (天) — *yajar* (地) などがあげられる。これらの語がなぜ反義語になっているのか。まず、それらの語の間に間接的な対立関係あるいは隠されている対立関係が存在しているためである。*yal* と *usu* という語は、*usu* は *yal* を消す、つまり燃える—消えるという矛盾する関係を示し、*toluyai* と *segül* という語は動物の身体における最も前の部分と最も後ろの部分、つまり位置における前後の対立関係を示し、*tengri* と *yajar* という語は、上と下の両極の矛盾する関係を示している。次に、これらの対立関係はその民族の語に反映され、さらに対立概念を示し、使用過程中に反義語となってきた。つまり、その民族の思惟と語の使用習慣と関係している。この課題について、他の民族の語彙における反義語研究に反映されている。「言語の使用習慣は反義語であるかどうかを判断する一つの基準である」¹⁾。「反義語の形成は、言語の使用習慣の基礎も必要である」²⁾。「社会習慣によって反義語になる場合もある」³⁾。「反義語はその社会

の文化や習慣に多少が関係がある」⁴⁾。

総じて、上述した語が反義語になっているのは、言語原因と社会原因という二つの原因がある。言語原因とは、対立するあるいは矛盾する関係である。社会原因とは、その民族の思惟と語の使用習慣である。さらに、言語原因は反義語になる前提と基礎であり、社会原因は反義語になる反映と結果である。

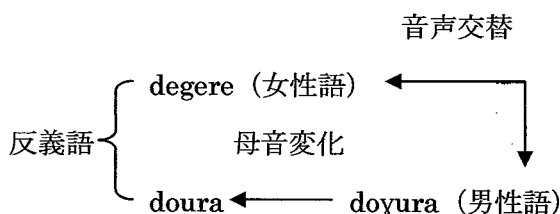
5.2. 反義語と同義語

単語として反義語であるが、他の語と組み合わせて使用される時、つまり文章の中で同義語の意味を示すということである。例えば、degere (上) ⇐ doura (下)、ögede (上り坂) ⇐ uruyu (下り坂)、irekü (来る) ⇐ očiqu (行く) などである。degere ⇐ doura、ögede ⇐ uruyu という二つの反義語は同義語の意味を示す代表的な例文である。

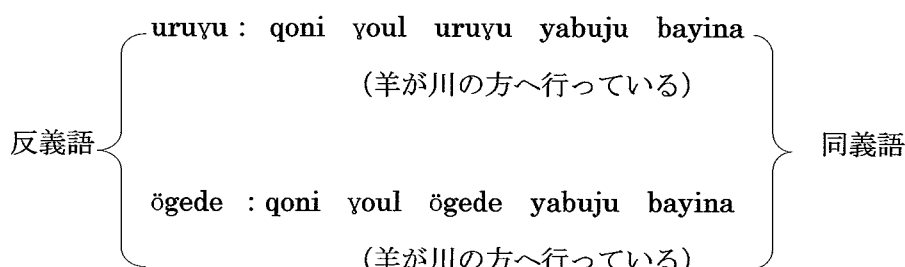
degere — doura

反義語 { degere : vajar degere unaba (地面に落ちた) } 同義語
 { doura : vajar doura unaba (地面に落ちた) }

degere — doura という反義語は語源の観点から見ると、音声の交替によって形成されていることは明らかである。つまり、degere ⇐ doura (← doyura) である。この音声交替から生み出された反義語を証明する証拠は degegsi — doyuysi という反義語の存在である。音声交替がモンゴル語の形成の一つの要因であると言える。モンゴル語では、音声交替によって形成された単語は多くある。例えば、dabsiqu (進歩する) — debsikü (進める)、yatulqu (川を渡る) — getülkü (川を渡る)、očiqu (行く) — ečikü (行く)、terigün (第一) — türügün (第一) などである。興味深いことは、鼻子音の *b* と *m* はモンゴル語と日本語に交替するという現象が存在している。例えば、モンゴル語では、<qabar (鼻) — qamar (鼻)> である。日本語では、<さびしい—さみしい> という例ある。degere ⇐ doura という反義語の語源を図案すれば以下のようなようである。



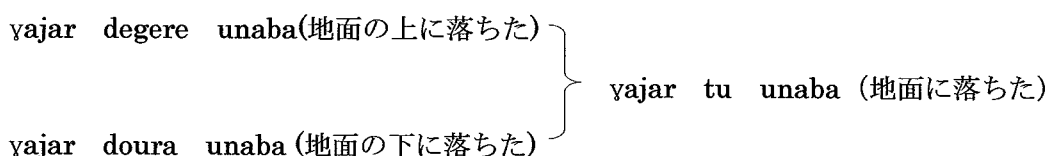
ögede — uruyu



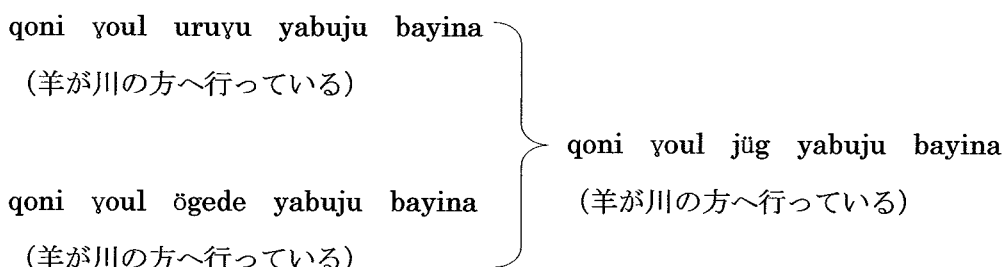
ögede — uruyu という反義語は地形の坂に関する反義語である。オルドス方言では、この反義語は独立語の意味を完全に失い、方向格としての意味を示すことになった。

これらの例から《degere ≡ दौरа, uruyu ≡ ögede》という反義語は本来の独立語の意味を消失し、抽象的意味を示すに至っている。つまり、ある独立語は使用過程において独立語としての意味を失い、抽象的な意味、さらに格としての役割で用いられることになる。具体的には、「degere ≡ दौरа」という反義語はモンゴル語の位置格の意味を示しており、「uruyu ≡ ögede」という反義語は方向格の意味を示しているということである。これを例文によって示すと下のようになる。

degere ≡ दौरа

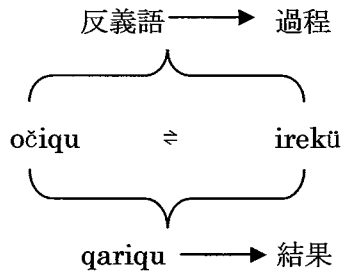


ögede ≡ uruyu



irekü (来る) ≡ очигу (行く) という反義語は位置の移動に関する反義語である。第一人称あるいは第一人称の存在する地点から離れていく動作は очигу という語であり、第

一人称あるいは第一人称の存在する地点に近づいていく動作は *irekü* という語である。この反義語は上述したように自立語の意味を失い抽象化してはいないが、本来の意味は変化し *qariqu* (帰る) という意味を示すことになった。この位置の移動を示す *očiqu* $\rightleftharpoons$ *irekü* という反義語は、反義語として用いる場合は移動の過程を強調し、類義語として用いる場合は移動の結果を強調している。この変化の現象を図で示せば以下のようなになる。



irekü $\rightleftharpoons$ *očiqu* という反義語を例文によって示すと下のようなになる。

irekü $\rightleftharpoons$ *očiqu*

ger·tegen ireged yayu kibe?

(家に来て何をしましたか)

ger·tegen očiyad yayu kibe?

(家に行って何をしたか)

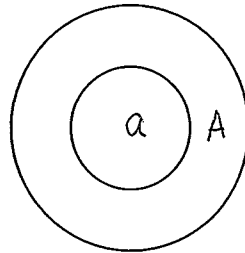
ger·tegen qariyad yayu kibe?

(家に帰って何をしたか。)

5.3. 反義語と反義関係

反義語と反義関係は相互に密接な関係がある意味論の研究対象であるが、同一のことではない。モンゴル語における反義語研究は、この二つの概念の差異に十分に留意しなければならない。反義語は反義関係を示しているが、反義関係を示している全ての語が反義語になるとは限らない。「対立している語全ては反義語になるとは限らないのである」⁵⁾。反義語が必ず対等性を保持するのに対し、反義関係はこの対等性とそれほど密接な関係にはないのである。反義関係は反義語より範囲が広く、反義語は反義関係の一部分である。つまり、反義語と反義関係は包括する側と包括される側の関係あるいは上位概念と下位概念の関係にあるのである。例えば、*qayiralaju sanaqu* (愛する) $\rightleftharpoons$ *qorusqu* (憎む) という言葉は反義関係を示しているが、反義語にはならない。単語と連語は相互に反義語になることはできない。しかし、*qayiralaju sanaqu* (愛する) $\rightleftharpoons$ *qorusču janqu* (憎む) あるいは *qayiralaqu* (愛する) $\rightleftharpoons$ *qorusqu* (憎む) 、 *qayiralaqu* (愛する) $\rightleftharpoons$ *janqu* (憎む) 、

sanaqu(恋しく思う) ⇨ qorusqu(憎む)、sanaqu(恋しく思う) ⇨ januqu(憎む)という語は反義語になると同時に反義関係である。意味の対立関係を示しているのに、反義語になることができない場合もある。これを図表で示すと、以下のようになる。Aは反義関係であり、aは反義語である。



5.4. 反義語と否定関係

モンゴル語における反義語と否定関係は異なる概念である。反義語は意味論の研究対象であるが、否定関係は形態論の研究対象である。「原語とその否定関係は反義語になることができない」⁶⁾。「ある語とその語の否定詞は対立しているが、反義語になることができないのである」⁷⁾。モンゴル国の研究者の中には、反義語と否定関係を混同して説明している場合が多い。一つの例を挙げよう。『モンゴル語の意味論の基礎』という本では「irekü (来る) ⇨ irekü ügei (来ない)、bolqu (よろしい) ⇨ bolqu ügei (いけない)、čidal-tai (力がある) ⇨ čidal ügei (力がない)、jab čilüge-tei (暇な) ⇨ jab čilüge ügei (暇がない)、yasu-tai (骨つきの) ⇨ yasu ügei (骨なしの)、ke-tei (模様のある) ⇨ ke ügei (模様のない)」という語は反義語であると述べている⁸⁾。しかし、これらの語は否定関係になるが、反義語にはなることはできないと思われる。その他、例えば、irekü (来る) — irekü ügei (来ない)、nemekü (加える) — nemekü ügei (加えない)、kilbar (易しい) — kilbar ügei (易しくない)、küyiten (寒い) — küyiten ügei (寒くない)、jujayan (厚い) ⇨ jujayan ügei (厚くない)、itegekü (信じる) ⇨ itegekü ügei (信じられない) という語が、原語とその原語の否定関係を示すものの相互に反義語とはなることはできないことは明らかである。nemekü (加える) ⇨ qasuqu (減らす)、küyiten (寒い) ⇨ qalayun (暑い)、jujayan (厚い) ⇨ nimgen (薄い)、itegekü (信じる) ⇨ sejiglekü (疑う) という関係が反義語なのである。仮に、モンゴル語において否定の語がその原語と反義語であるということになれば、ほとんどの語に対応する反義語が存在することになる。しかし、実際には、モンゴル語の中で、対応する反義語の語が少数ということは事実である。非常に少数の学

者は原語とその否定詞は反義語になると主張している。「一般的に、原語とその否定語は反義語になる」⁹⁾。しかし、原語とその否定詞は反義語ではないと主張している学者は多数である。「否定助詞をつけて形成された語は反義語になると説明することは、反義語についての認識が不足している」¹⁰⁾。モンゴル語では、原語とその否定関係は反義語になることができないが、ほかの言語では原語とその否定関係は反義語になる場合がある。例えば、日本語では、有名 ≡ 無名、便利 ≡ 不便という語は反義語になる。モンゴル語の場合は、原語とその原語の否定関係がまったく反義語になることができないのは疑問の余地がないのである。反義語になるか否かということは言語によって異なるのである。「反義語になるかどうかということはその言語の特徴によって決められる」¹¹⁾。

[注]

- 1) 武占坤 1983 p.141
- 2) 陈满华 1994 p. 35
- 3) 戴耀晶 1988 p.100
- 4) 加藤彰彦他 1989 p. 199
- 5) 曹炜 2001 p.112
- 6) 谢文庆 1986 p. 37
- 7) 广达 林玉 1990 p.39
- 8) Badmadorji 1997 117
- 9) 扬之舟 1981 p. 143
- 10) 许威汉 2002 p. 355
- 11) Tedke 1987 p.277

第六章 モンゴル語における反義語の役割

モンゴル語学者達は、モンゴル語の反義語の役割について重要な研究対象として分析して、説明してきたが、主に使用の役割についてかぎられてきた。本論では、モンゴル語の反義語の役割について四つの点から分析する。つまり、使用の役割、形成の役割、教育の役割、辞典編纂の役割ということである。

6.1. 使用の役割

反義語は言語の表現能力を高めることができる特別な役割があるので、古今東西人々の発表や作品などによく使用され、強い印象を残している。

6.1.1. モンゴル語の反義語の使用を通して、文章の意味をより一層強調し、人々の注意を引くことができる。例えば、*daruu kičiyenggüi kümün-i dabsiyulday*（謙遜した人を進歩させる）、*omurqay bardam kümüs-i qočuruyulday*（高慢な人を後退させる）という文では、高慢ではなく、謙遜していきなさいという意味を強調した。*daruu kičiyenggüi kümün-i dabsiyulday* という普通の表し方より *daruu kičiyenggüi kümüs-i dabsiyulday*, *omurqay bardam kümüs-i qočuruyulday* という反義語の表し方は意味をより一層強調している。そのほか、例えば、*onisuya bol udqa sanaya-yi ilel bisi dalda, siyud bisi dam iledkekü ončaliy-tai yum*（謎は意味をはっきりではなく、間接的に表す）という文章の *ilel bisi dalda*（はっきりではなく、秘かに）、*siyud bisi dam*（直接ではなく間接）という言い方は意味を非常に強調しているのは明らかである。

モンゴル語の反義語を対立して使用することは哲理的意義を示し、よりよい効果をもたらしており、記憶にとどめる役割がある。これは、反義語の興味深い役割である。例えば、ロシアの偉大な作家ゴーリキーは時間について「*delekei degere qamuy-un qurdun böged qamuy-un udayan, qamuy-un urtu böged qamuy-un oqur, kümüs-i qamuy-ača qaramsayulday böged qamuy-ača bayarlayulday yayuma bol čay mön*（世界で最も速いと同時に最も遅い、最も長いと同時に最も短い、人々を最も喜ばせると同時に最も苦しめるものは時間である）」という箴言を述べている。この文章では、対立して使用された反義語は *qurdun*（早い）≡ *udayan*（遅い）、*urtu*（長い）≡ *oqur*（短い）、*qaramsayulday*（苦しめる）≡ *bayarlayulday*（喜ばせる）である。これは、その三つのペアの反義語の対立使用によって箴言になったということは言うまでもない。モンゴル語では、*ükügsen amidu-yin quyurundu*（死に生の間）という一見矛盾したような表現がある。これが、修辞方法によって生み出された語であり、その意味は人の無能、何もできないことを風刺したことである。例えば、中国の偉大な作家である鲁迅はそういう名言を言ったことがある。ある人は死んでしまった。しかし、また生きている。ある人は生きている。しかし、もう死んでしまった。この名言は前後矛盾しているように感じられるが、しっかり考えれば、深い哲理の意味であることを理解する。鲁迅は、「死ぬ一生きる」という反義語をきれいに使用し、まったく異なる二種類の人に対しての態度を表明した。つまり、国家及び人間に悪いこと、損害なことばかりやっている人々を強く批判するのに対して、革命のため、

進歩のため、自分の貴重な生命を捧げた犠牲者に心をこめて尊重している態度を表明した。中国語では、半死不死, 九死一生, 死去活来, 死里逃生, 虽死犹生など *ükükü— amiduraqu* という反義語を対立し使用した熟語がある。日本語でも半死半生、九死に一生を得るなどの語がある。これらの語は、*ükükü* (死ぬ) と *amiduraqu* (生きる) という相補反義語の対立使用の例文である。その他、日本語に「うれしい悲鳴」という語がある。この語は、うれしい—悲しいという反義語を対立使用し、極めてうれしい、うれしくてたまらないという意味を表した慣用句である。その慣用句について『日・漢・英言語文化辞典』にこう述べている。「うれしい悲鳴」という一見矛盾したような表現は、直面している事態そのものは本来歓迎すべきことであるゆえに「うれしい」ということと、しかしそれが自分の対処・対応できるような状態であるということの両方を意味しているのであって、「うれしい」という感情がきわまって「悲鳴」をあげるということでもなければ、文字通りに叫び声を出すということでもない」¹⁾。そういう日本語の表現はモンゴル語では、*bayarlaju üküne* という語で、中国語では、高兴死了という表現で表す。

また、『俗世間 つもりちがい十ヶ条』という日本語の文章では、こう述べている。一 高いつもりで 低いのは教養 二 低いつもりで 高いのが気位 三 深いつもりで 浅いのは知識 四 浅いつもりで 深いのが欲 五 厚いつもりで 薄いのは人情 六 薄いつもりで 厚いのが面の皮 七 強いつもりで 弱いのは根性 八 弱いつもりで 強いのが我 九 多いつもりで 少ないのは分別 十 少ないいつもりで 多いのが無断。この文章は高い ≡ 低い、深い ≡ 浅い、厚い ≡ 薄い、強い ≡ 弱い、多い ≡ 少ないという五つのペアの反義語を自由に使用して哲理的意味が表すことができた。モンゴル語では「*ilaydal bul ilalta-yin eke mön* (失敗は成功の母である)」という助言がある。つまり、落ち込まないで一生懸命に努力していけば失敗しても成功できるという哲理意味を *ilaydal* (失敗) ≡ *ilalta* (勝利) という反義語を用いて表した。

そういう反義語は、意味の組み合わせ関係と矛盾して通じない文章のように感じられるが、深く考えれば、意義深い理屈を示しているすばらしい名言である。

6.1.2. 反義語は物事の矛盾する関係を鮮明に表しており、さらに意味をわかりやすく示して、物事を生き生きと描写することができるので、作家や指導者達は自分の作品の中で反義語の使用することを非常に重視している。こういう例文は多数である。例えば、

ögekün baylayatai kümüs ebül boluysan-ču qalayun , erüke ni çoyurqai
kümüs jun boluysan-ču küyiten, tosu uyuysan kümüs qabur boluysan-ču taryun

tuluma čirügsen kümüs namur boluysan-ču turangqai—Bürinbeki (金持ちの人は冬になっても冷えないが貧乏な人は夏になっても冷える、裕福な人は春になっても太いが貧しい人は秋になっても細い。—ブリンベキ) この文章に現れた反義語は以下のようなものである。

ebül (冬) ⇨ jun (夏)、 qalayun (暑い) ⇨ küyiten (寒い) 、
taryun (太い) ⇨ turangqai (細い)

ene jabsar Daydan-u ekener-ün taryulaysan ba Čirma-yin turaysan qoyar yay tengčene —Načuydorji (この間、タグダンの奥さんが肥えたことやチルマが細くなったことがちょうど等しい。—ナチグドルジ)

この文章に現れた反義語は以下のようなものである。

taryulaysan (肥えた) ⇨ turaysan (細くなった)

edür-ün kemjiye urtudču (昼は長くなって)

gerel-ün küčü nemegdejü (光は強くなって)

söni-yin kemjiye boyunisču (夜は短くなって)

qarangyui-yin küčü qomsadqu adali (暗やみが弱くなるごとし)

sine jil-un irügel — Damdinsürüng (新年祝詞—ダムデンスルン)

この文章に現れた反義語は以下のようなものである。

urdudqu (長くなる) ⇨ boyunisqu (短くなる)、 edür (昼) ⇨ söni (夜)、
nemegdekü (強くなる) ⇨ qomsadqu (弱くなる)

jöb yayuma bol yerü-eče buruğu yayuma-tai temečel kikü yabuča-du kögjideg. ünen sayin sayıqan yayuma bol yerüni qudal mayu mayuqai yayuma-tai adalidqal-tai -bar orusiju qarılčan temečeldün bayıju kögjideg. —Mao ze dong (正しいものはいつも間違いのものと対立する過程で発展する。真実、良い、美しいものはいつも偽り、悪い、醜いものと比較することで存在し、相互に対立して発展する。— 毛沢東)

この文章に現れた反義語は以下のようなものである。

jöb (正しい) ⇨ buruğu (間違い)、 ünen (真実) ⇨ qudal (偽り) 、
sayin (良い) ⇨ mayu (悪い)、 sayıqan (美しい) ⇨ mayuqai (醜い)

6.2. 形成の役割 :

6.2.1. Onisuya

Onisuya (謎) はモンゴル民族の文化の遺産として、人々の間に広く伝えられてきた。謎は、物事や現象などの似ている特徴を別の現象に反映する口承文芸のジャンルである。謎の特徴は、意味が隠され、聞きながら答える形式である。謎の役割が人々の連想力、思考能力を進め、語の表現力を高めるに大きな役割がある。謎とは *taniday yayuma mededeg yayuma, tariki ködelgejü tayaday yayuma, tayayad olbal bayarladay yayuma, tangsuy oyun-i nemegdegüldeg yayuma* (知っているものわかっているもの、考えて考えて当てるもの、当てることができればうれしいもの、人の知恵を高めるもの) である。モンゴル語の謎は反義語から構成される場合もある。換言すれば、反義語はモンゴル語の謎を形成する方法の一つであると言ってもいい。実例として以下のようなものである²⁾。

joysubal bandang sayubal yandung (noqai) (立てば椅子 座れば煙突 一犬)。

この謎においての反義語は以下のようなものである。

joysuqu (立つ) $\ni$ *sayuqu* (座る)

edür ni jobalang, söni ni jiryalang (sira sibayu) (昼は苦しみ 夜は幸せ一フクロウ)。

この謎においての反義語は以下のようなものである。

edür (昼) $\ni$ *söni* (夜)、*jobalang* (苦しみ) $\ni$ *jiryalang* (幸せ)

arba-yin degere nemebečü arba, arba-eče qasubaču arba (begelei)

(十個にたしても十個 十個に引いても十個 — 手袋)。

この謎においての反義語は以下のようなものである。

nemekü (足す) $\ni$ *qasuqu* (減る)

jun jögelen beye-tei ebül qatayu beye-tei(usu) (夏は柔らかい体、冬は硬い体 — 水)。この謎の反義語は以下のようなものである。

jun (夏) $\ni$ *edül* (冬)、*qatayu* (硬い) $\ni$ *jögelen* (柔らかい)

qota ni čayan, qoni ni qara(čayasu bičig) (院は白い、羊は黒い — 紙 文字)

この謎においての反義語は以下のようなものである。

qara (黒い) $\ni$ *čayan* (白い)

yadana-ban küyiten , dotuna-ban qalayun.— qalayun saba (外が寒い 中が熱い
—魔法ビン)。

この謎においての反義語は以下のようなものである。

yadana (外) ≡ dotuna (中) 、 qalayun (熱い) ≡ küyiten (寒い)

oruqu ni orui-bar-ıyan yarqu ni qajayu-bar-ıyan — dangqu (入るのは上で 出
るのは横で —やかん)

この謎においての反義語は以下のようなものである。

oruqu (入る) ≡ yarqu (出る)

niruyun degere-ben nuyusu-tai , nuyusun degre-ben taylaya-tai , böküyibel bögeljijü
gedeyibel kekerene — debüre (背中にちょうつがいり、ちょうつがいにふたあり、頭
を下げれば吐いて、頭を上げればげっぷをする —薬缶)

この謎においての反義語は以下のようなものである。

gedeyikü (頭を上げる) ≡ böküyikü (頭を下げる)

oçiqu- dayan moyai egürüne irekü- degen jaraya egürüne —tülege egürükü (行
く時蛇を背負う、来る時ハリネズミを背負う — 柴を背負う) .

この謎においての反義語は以下のようなものである。

oçiqu (行く) ≡ irekü (来る)

jegün-tei -eçe iregsen jigür- tei alay, barayun-tai - aça iregsen barkiraya alay,
qoyina -aça iregsen qobduy alay, emüne- eçe iregsen önggeljegür alay —
şayajayai (東から来た翼がある斑、西から来た鳴く斑、北から来た食欲な斑、南から
きたのぞく斑 —カササギ)

この謎においての反義語は以下のようなものである。

jegün (東) ≡ barayun (西)、 qoyina (北) ≡ emüne (南)

douyur-ıyan idejü, degegür-ıyen bayaday, tegsi busu-yi üjebel ,tengkege meden

tegsiledeg — qarayul (下から食べて、上から出す。平らでないことを見つければで
きるだけ平らとする一匏)。

この謎においての反義語が以下のようなものである。

douyur (下に) ≡ degegür (上に) ,

segül-ni ergi degere , toluyai ni dalai dotura— sinaya (尾が岸に 頭が海の中に
一じゃくし)。

この謎においての反義語は以下のようなものである。

segül (尾) ≡ toluyai (頭)

boyuni- aça boyuni imayan- aça boyuni , öndür- eçe öndür tengri tuluma öndür,
çayan-aça çayan , çasun-aça çayan , qara-aça qara, kö-eçe qara — utuya (低いより低
い山羊より低い、高いより高い空まで高い、白いより白い雪より白い、黒いより黒い煤
より黒い 一煙)。

この謎においての反義語は以下のようなものである。

boyuni (低い) ≡ öndür (高い)、 qara (黒い) ≡ çayan (白い)

örlüğe dörben köl-tei, öde-dü qoyar köl-tei, üdesi yurban köl-tei— kümün-ü ösçü
boyijiqu (朝は四つの足がある、昼は二つの足がある、夜は三つの足がある — 人間の成
長)

この謎においての反義語は以下のようなものである。

örlüğe (朝) ≡ üdesi (夜)

man-u noqai çadbal bosuna, ölüsbel kebtene.— uyuta (私の犬が満腹になれば立ち、
空腹になれば横になる 一袋)

この謎においての反義語は以下のようなものである。

çadqu (満腹である) ≡ ölüskü (空腹である)、

bosqu (立つ) ≡ kebtükü (横になる)

delgebel delekei-yin činege, qomibal quruyun činege — nidü (広げれば地球の大きさ、
たためば指のおおきさ 一目)

この謎においての反義語は以下のようである。

delgekü (広げる) ≡ qomiqu (たたむ)

aru-yin ayula-yin modud aburyu bolbaču kebereg , öbür ayula-yin modud bögtür
bolbaču bekilig — boyu-yin eber üker-ün eber (後ろの山の木が巨大なのにこわれや
すい、前の山の木が曲がっているのに丈夫 — 鹿の角、牛の角)

この謎においての反義語は以下のようである。

aru (後ろ) ≡ öbür (前) kebereg (壊れやすい) ≡ bekilig (壊れにくい)

6.2.2. 諺

モンゴル語の諺も豊富である。「モンゴル人は日常生活の中で、実に多くの諺を自由自在に用いている」³⁾。なぜならば、「モンゴル語の諺は、まさにモンゴル民族の知恵の結晶であり、それと同時にモンゴル口承文芸の様々なジャンルの中で、最小の表現形式で、最大の意味内容を表す芸術作品である」からである⁴⁾。モンゴル語における諺が反義語から構成されている場合が少なくない。つまり、反義語もモンゴル語の諺を形成する役立つを果たしている。反義語より構成されたモンゴル語の諺は、主に教育するや風刺するという意味を示している。例えば (これらの諺を『モンゴル語ことわざ用法辞典』より引用)、

6.2.2.1. 教育する意味の諺

gem ni emüne-ben(過ちは前に)

gemsil ni qoyina-ban(後悔は後に)

emüne (前) ≡ qoyina (後ろ)

kelekü-dü kilbar(言うは易い)

kikü-dü küčir(やるは難しい)

kilbar (易い) ≡ küčir (難しい)

mayu yabuqu-du nökür qola(悪いときは友人は遠い)

sayin yabuqu-du sadun oyira(良いときは親戚は近い)

mayu (悪い) ≡ sayin (良い)、qola (遠い) ≡ oyira (近い)

jöb-dü jöngdegen ejen-tei(正しいことに多くの主あり)

buruyu-du buçaqu ejen ügei(間違いに認める主なし)

jöb(正しい) ⇨ buruyu (間違い)

6.2.2.2. 風刺する意味の諺

edür aldayad(昼失い)

söni temterikü(夜探し)

edür (昼) ⇨ söni (夜)

abqu kümün böküyükü(もらう人は頭を下げる)

ögkü kümün gedeyikü(あげる人は頭をたげる)

abqu (もらう) ⇨ ögkü (あげる)

böküyükü (頭を下げる) ⇨ gedeyikü (頭をもたげる)

sečen-dü qoyar čiki öögedekü(賢い者に二つの耳が少なすぎる)

teneg -tü yayça kele oladaqu(愚か者に一つの舌は多すぎる)

sečen(賢い者) ⇨ teneg (愚か者)

öögedekü (少なすぎる) ⇨ oladaqu (多すぎる)

yadana-ban yılançay(外はピカピカ)

dotuna-ban pılançay(中はペラペラ)

yadana (外) ⇨ dotuna (中)

6.2.3. 箴言

モンゴル語では、同じ反義語は異なる箴言を多数形成する場合がある。《箴言集》(2007)によれば、ajilči(働き者) — aljayu(怠け者)という反義語は合わせて12箴言を形成し、qayira(愛) — qorusul(憎み)という反義語は合わせて7箴言を形成し、sayin(良い) — mayu(悪い)という反義語は合わせて20箴言を形成している⁵⁾。これらの箴言を並べれば以下のようなものである。

6.2.3.1. ajilçi (働き者) ÷ aljayı (怠け者)

ajilçi kümün-ü yar-tu arjayar çilayı yilaljana, aljayı kümün-ü yar-tu sijir alta jiberene. (働き者の手にでこぼこ石も輝き、怠け者の手に鈍金も錆びる)

ajilçi ködelmuriçi kümün-dü bilegüdegsen qadıyur muqur sanaydana, aljayı jalqayı kümün-dü ayaya-tai budaya qola bodydana. (働き者に磨いた鎌が鈍く感じられ、怠け者に茶碗の中のご飯が遠く感じられる)

aljayı kümün -ü nidü nuuqatuna, ajilçi kümün-ü yar ebersine (怠け者の目に目くそができ、働き者の手にたこができる)

ajilçi kümün-dü ajil olan, aljayı kümün-dü siltay olan. (働き者に仕事が多く、怠け者に言い訳が多い)

ajilçi arbiçi bayajıl-un temdeg, aljayı qoyırıy yadayural-un temdeg (働き者は豊かの印、怠け者は貧乏の印)

ajilçi kümün bayajina, aljayı kümün ügeyirene (働き者は豊かになり、怠け者は貧しくなる)

aljayı kümün-dü çag ügei, ajilçi kümün-dü siltay ügei (怠け者に時間はなく、働き者に言い訳はない)

ajilçi kümün-dü amjilta yeke bayıday, aljayı kümün-dü noyir yeke bayıday (働き者に成功は多く、怠け者に眠気は多い) .

ajilçi kümün amu quriyaday, aljayı kümün ebesü quriyaday (働き者は食糧を得る、怠け者は草を得る)

ajilçi kümün çay-tayan qaramçi, aljayı kümün noyir-tayan qaramçi (働き者は時間に

けちであり、怠け者は眠気にけちである)

ajilçi kümün-i şangnana, aljayu kümün-i torjana (働き者を賞与し、怠け者を罰する)

aljayu kümün-ü nidün-dü, nuuqa jujayan çuylaraday, ajilçi kümün-ü qarman-du

asig joyus jujayan çuylaraday (怠け者の目に目くそ多いたまり、働き者のポケットにお金が多く集まる)

ertelejü oruyilan çirmayiqu ni ajilçi kümün-ü jangsıl, idejü untaqu-tai jiyuralduqu ni

aljayu kümün-ü dadqal (朝早く先頭に立って努力することは働き者の習慣であり、寝食とつきまとうのは怠け者の習性である)

6.2.3.2. qayira (愛) ⇔ qorusul (憎み)

qayira gegçi ilçi-tai yal, qorusul gegçi çisu-tai kituya (愛というのは熱のある火であり、憎みというのは血のついたナイフ)

qayira-yin qariyu sü, qorusul-un qariyu çisu (愛の報いがミルク、憎みの報いが血)

qayira qorusul todurqai bayiqu, üne qangsi yoolçi bayiqu (愛憎ははっきりであり、値段が真実である)

qayira sedkil gün bayiday, qorusul ösiye jujayan bayiday (愛情は深く、憎みが厚い)

qayira –aça egüsügsen sedkilge qalayun jögelen bayiday, qorusul –aça egüsügsen sanaya qargis kerçegei bayiday (愛から出じされた心は親切であり、憎みから出じた心は残酷である)

qayira aqadabal qoor boluna, qorusul aqadabal çisu boluna. (愛は過ぎると毒になり、憎みが過ぎると血になる)

qayira qorusul qoyar kemjiye ügei bayiday, qas temür qoyar jögelen ügei bayiday
(愛憎みは無限であり、玉と鉄は柔らかくない)

6.2.3.3. sayin (良い) ⇔ mayu (悪い)

mayu uçir yabudal-du çiki jögelen daruça, sayin kereg uçir-tu çiki dülei noyan (悪い
事に関心があるリーダー、良い事に無関心のリーダー)

mayu sanaya beye-ji oriyana, sayin sanaya tala-ji toçurina (悪い心が自分自身に損をし、
良い心が尊重される)

mayu-ban qalabal sayin bolju boluna, musiyai-ban jasabal asqan bolju boluna. (悪い
事を改めると良い事になり、曲がっている物を改めるとまっすぐにする)

mayu sanaya mökül-ün bilegü, sayin sedkil sayijiral-un bilegu (悪い心が嫌われ、良い
心が褒められる)

mayu kümün-ü sanaya sedkil muqur yudumji adali, sayin kümün-ü sanaya sedkil
sarayul tala-tai adali (悪い人の心が行き止りであり、良い人の心が果てしない)

mayu çimege qosiyun-du, sayin çimege ayil-du (悪いことは旗まで、良いことは村まで)

sayin sanayan-u üjügür-tü sü, mayu sanayan-u üjügür-tü çisu (良い心の末が乳であり、
悪い心の末報いが血である)

sayin-i dayabal çayan, mayu-yi dayabal qara (善に従えば白、悪に従えば黒)

sayin mayu-yi ilyaqu, ünen qudal-i todulaqu (善悪を区別し、真偽を明らかにする)

sayin kümün kigsen-iyen, mayu kümün idegsen -iyen (良い人はやったことを、悪い人
は食事したことを)

sayin-i ni bildaučilaqu, mayu-yi ni dorumjilaqu (良い人にごまをすり、悪い人を軽視する)

sayin jam durayina, mayu jam böglere (良い道が長いであり、悪い道が短いである)

sayin kümün-eçe surulčana, mayu kümün-eçe jayilana (良い人から勉強し、悪い人から避ける)

sayin kümün-du nöklär olan, mayu kümün-du qorusul olan (良い人に友が多く、悪い人に憎みが多い)

sayi kümün nere-ben manduyuluna, mayu kümün nere-ben yutuyana (良い人は名を挙げる、悪い人は名を汚す)

sayin-i dayabal sayijirana, mayu-yi dayabal möküne (善に従うと良くなる、悪に従うと滅びる)

sayin keüked-tei eke ečige edür edür bayarladay, mayu keüked-tei eke ečige çay çay jobaday (偉い子供がいる両親は日々喜び、悪い子供がいる両親が時々苦しむ)

sayin ere ger-ün tulayyuri, mayu ere ger-ün daruyasu (良い男性は家の柱、悪い男は重荷)

sayin gebel minu gekü, mayu gebel busud-un gekü (良いことと言えば私のと言う、悪いことと言えば他人のと言う)

sayin mayu-yi ilyaqu ügei, qara çayan-i taniqu ügei (善悪を区別せず、白黒を認識しない)

6.2.4. 連語

モンゴル語における反義語は連語を形成する重要な方法である。「モンゴル語の中では連語は数多くあり、しかもますます増えている状態である」⁶⁾。連語は語彙論の研究対象であり、二語から構成されていると上述したことがある。注意しなければならないことは、二語から構成されている全ての語が連語というわけではない。例えば、bi očiqu (私は行く)、yurban qoni (三つの羊)、tung sayin (とてもいい)、qurdun guüyüükü (早く走る)、öregen jam (広い道)などの語は全部二語から構成されても連語ではなく、普通の複合語である。反義語から構成されている連語、例えば、yar köl (手、足)、yal usu (火、水)、nökür daisun (友、敵)、öndür nam (高い、低い)、oruju yarqu (入る、出る)、qalayun küyiten (暑い、寒い)、tölkijü tataqu (押す、引く)、nemejü qasuqu (加わる、減る)等々である。

モンゴル語の反義語から構成された連語の特徴を例示する。

6.2.4.1. 位置の交換

6.2.4.1.1. 位置が交換できる連語

yar köl (手と足) あるいは köl yar (足と手)、yarču oruqu (出ると入る) あるいは oruju yarqu (入ると出る)、emüne qoyina (南と北) あるいは qoyina emüne (北と南) などである。位置を交換しても意味は変わらない。

6.2.4.1.2. 位置が交換できない連語

qalayun küyiten (暑いと寒い)、nökür daisun (友と敵)、qara çayan (黒いと白い)、öndür nam (高いと低い)、yeke baya (大きいと小さい)、nemejü qasuqu (足すと引く)、ebül jun (冬と夏)、erte orui (早いと遅い) などである。位置を交換すれば意味は変わるか、あるいはそういう言い方はしないのである。

6.2.4.2. 意味の特徴

同じ連語は異なる意味を示す。例えば、yal usu というモンゴル語の反義語は以下のような異なる意味を示す。

6.2.4.2.1 yal usu-yin ayul-i kečiyejü yabuñarai. (火事と水害に気をつけなさい)

6.2.4.2.2 aqa degüü qoyayula-ban yal usu metü. (兄弟の間は仲良くない)

6.2.4.2.3 erteken sig yal usu-ban kiye. (早めにご飯を作ろう)

一番目の例文は元の意味を示しており、二番目の例文と三番目の例文は元の意味とまったく異なる意味を示している。つまり、一番目の例文は普通の火事と水害を示してお

り、二番目の例文は人々の中の仲良くない関係を示しており、三番目の例文は料理を作るという意味を示している。そのほか、yar köl（手と足）という反義語を分析すると次のようである。

yar köl ni siraydaju gemtûjei.（手と足はけがをした）

čerig jasay-un noyad yar köl bolju arad tümen-i yasalyana.（軍隊と政府のリーダーは相互に結託して国民を苦しめる）

前者の例文は人の手と足という元の意味を示しており、後者の例文は元の意味とまったく異なるぐるになるという意味を示している。

6.3. 教育の役割

語の意味はばらばらに存在しないで、体系として存在している。「単語は一つ一つがばらばらに存在しているのではなく、まとまりをもち、いわばネットワークをなして存在している」⁷⁾。これは、語の重要な特徴の一つである。反義語は意味論の研究対象として、言語の体系性から離れることができない。反義語の体系性及び対立関係はその言語の語彙を教えることにも役割がある。このことを実例で証明しよう。以下は、本人の日本における KEC 日本語学院の日本語授業の実際調査である。

調査1 場所：KEC 日本語学院、 目的：留学生向けの日本語教育、 日時：2008年5月17日の昼のクラス（12時から15時まで）、 学生：留学生6人、 先生：北原恵美子（長崎出身）、 内容：形容詞を教える、 例：高い ⇨ 安い、高い ⇨ 低い、暑い ⇨ 寒い、大きい ⇨ 小さい、暑い ⇨ 冷たい、新しい ⇨ 古い。

調査2 場所：KEC 日本語学院 目的：留学生向けの日本語教育 日時：2008年5月24日の午後のクラス（15時半から18時半まで）、 学生：留学生9人 先生：十河優子（徳島出身）、 内容：位置名詞を教える 例：前 ⇨ 後、右 ⇨ 左、上 ⇨ 下、中 ⇨ 外。

このように教えると、学生にとって学習しやすいし、先生にとって教えやすいという両方の役割があるのは言うまでもない。教え方として、すばらしい、最高だと学生たちに認められた。

6.4. 辞典編纂の役割

辞典は参考書として、人間の学習や研究に欠かすことができないのもである。辞典を編纂する時、説明される語の意味にできるだけわかりやすく注釈を加える必要がある。その

中で、反義語の対立する特徴を使用して語の意味をわかりやすく、覚えやすく説明できる場合がある。これは、反義語の辞典学における語の注釈に対する役割である。「反義語は意味の対立関係をはっきり表しているので、辞典編纂にも参考にする価値がある」⁸⁾。「反義語を分析することは、語の意味の注釈及び辞典編纂に役立つであろう」⁹⁾。中国語の学者は昔から反義語の対立関係の役割を利用し語の意味を注釈したと記載している。「古代中国語では、反義語の対立関係を利用して語の意味を注釈したことは少なくないのである。これは、その語の意味を理解させるに役立を果たすであろう」¹⁰⁾。モンゴル語の注釈辞典である『モンゴル語辞典』を例として挙げてみよう。本辞典で「čingya (きつい)、buyan (善良)、yuldu (縦)、dooratu (下)、kündelen (横)、mön (肯定)、oldui (不器用な)」というモンゴル語を次のように注釈している¹¹⁾。

oldui — uran-u esergü, eb dem ügei, ura düi mayutai . (巧みの反対語)

buyan — nigül-ün esergü udqa-tai üge. (罪惡の反対語)

köndelen — yuldu-yin esergü. (縦の反対語)

yuldu — köndelen-ü esergü sinji. (横の反対語)

mön — bisi-yin esergü udqa-tai batulaqu sula üge. (否定助詞の反対語)

douratu — degedü-yin esergü. (上への反対語)

čingya — sula-yin esergü udqa-tai üge. (緩いの反対語)

[注]

1) 赤祖父哲二 1998 p. 285

2) Tangkis-nar 2007

3) 塩谷茂樹 2005 p. 1

4) 塩谷茂樹 2005 p. 1

5) Serüb 2007

6) Öbür mongyul-un yeke surɣayuli-yin mongyul kele bičig sudulqu yajar 2005 p. 816

7) 北原保雄 東郷吉男 1988 p.1

8) 贺水彬 1985 p. 53

9) 謝文慶 1987 p. 71

10) 孙明 1982 p. 85

11) Norjin-nar 1997 p. 415 p. 1049 p. 1507 p. 1723 p. 1882 p. 2595 p. 2754

おわりに

モンゴル語における反義語研究はモンゴル語の意味論において困難で、複雑な課題である。そのため、意味論の中で研究成果が少ない、進展が遅い分野である。本論では、筆者は新しい方法を用いて、新しい角度と視点からモンゴル語における反義語研究について体系的、詳細に分析することを目指して努めてきた。当然のことながら、本論でモンゴル語における反義語研究の全ての問題を百パーセント解決することはできないのである。今後引き続き、モンゴル語における反義語研究について努力しようと思っている。

研究論文として、本論の独創性と発展性についてまとめ、簡単に述べようと思う。実際、これは、この研究課題にはモンゴル語における反義語について、いったい何を書き、どれくらいまで分析したかという質問に対する答えである。

独創性について：

1. 本論は、初めて統計方法を使用してモンゴル語の反義語について研究しており、さらにモンゴル語の反義語研究の大きな間違い、つまりモンゴル語では形容詞反義語の数量が最も多くという結論を訂正して、動詞反義語が最も多いという結論を提出した。

2. 本論は、初めて構成分析の方法を使用して、モンゴル語における単語反義語を分析しており、さらにモンゴル語における単語反義語の構造的モデルを明らかにした。

3. 本論は、モンゴル語における反義語の見落とされた研究対象である連語反義語を詳しく分析しており、さらに連語反義語の構造的モデルを明らかにした。

4. 本論は、初めてモンゴル語の反義語における対等性について体系的分析を行っており、さらに対等性はモンゴル語の反義語であるか否ないかを検証する基準であるという意見を提唱してきた。

5. 本論は、初めてモンゴル語における反義語の意義深さについて例示しながら分析し、こういう研究を注意しなければならないという意見を示した。

6. 本論は、初めてモンゴル語における反義語の多様性について例示した。この特徴は理解しにくい、モンゴル語における反義語の重要な特徴である。

7. 初めてモンゴル語の学術向けのモンゴル語反義語辞典を編集し、しかも、モンゴル語の単語反義語や連語反義語を合わせた最初のモンゴル語反義語辞典である。これは、モンゴル語における意味論だけではなく、辞典学の研究にも役立つであろう。

発展性について：

1. モンゴル語の品詞における反義語研究について、以前は名詞類の反義語と動詞類の反義語のみ研究されており、本論は名詞類の反義語と動詞類の反義語だけではなく、不変化詞類の反義語も研究した。また、名詞類の反義語と動詞類の反義語の特徴についてもできる限り分析した。

2. モンゴル語の反義語の概念について、以前の説明した概念の欠点を分析して、対等性に一致する語が反義語であるという観点を提唱した。

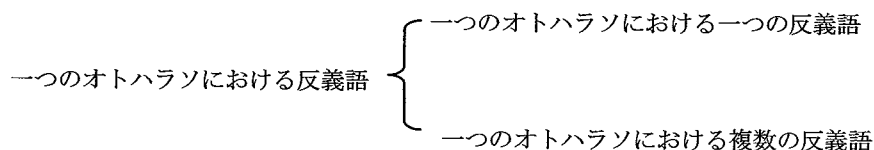
3. モンゴル語の反義語と類義語の相互関係について、過去の分析を基に、その研究を図式化して、さらに反義語と類義語の相互関係によっていくつかの反義語を形成するかの数量計算の公式を提出した。

4. モンゴル語の過渡的意味による分類について、以前の説明したことを基に、両極反義語と相補反義語の概念と特徴について図式化して説明した。これは、この二種類の反義語の区別や特徴について理解しやすくするだろう。

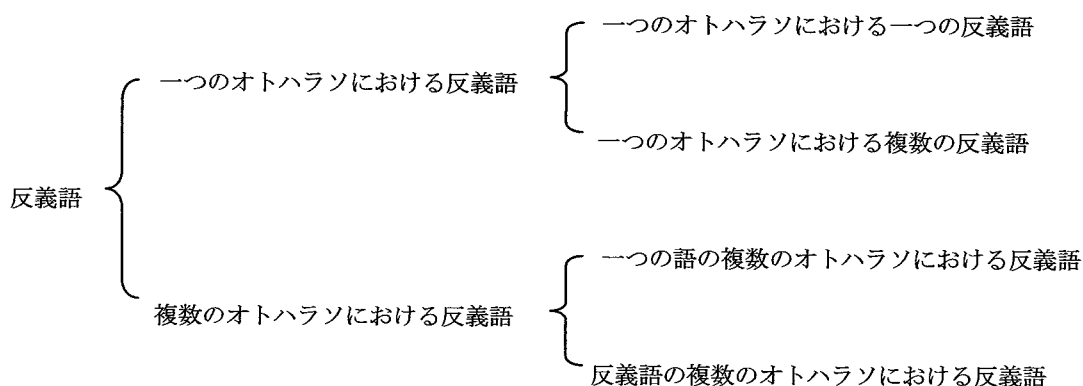
5. モンゴル語の反義語の役割について、以前は反義語の使用の役割について簡単に説明してきた。本論は、モンゴル語の反義語の使用の役割だけではなく、形成の役割、教育の役割、辞典編纂の役割についてなるべく詳しく分析して説明した。

6. モンゴル語の反義語の例において誤っている例を訂正して、更にその誤っている理由を分析した。以前は、主にモンゴル語における反義語の対等性について言及されなかったもので、色々な間違いが出てきた。

7. モンゴル語における反義語のオトハラソ(udqalasu)による分類について、以前の分類は以下の通りである。



本論のオトハラソによる分類は以下の通りである。



以上は、本論の独創性と発展性についてのまとめである。

謝辞

光陰矢のごとし。日本に留学して四年になりました。この四年間、学業だけではなく、日本での生活面に至るまで助けて頂きました。また研究論文を仕上げる際は、何度も助言下さり、丁寧に訂正して下さいました指導教員の塩谷茂樹先生及び前の指導教員の橋本勝先生に心から感謝の気持ちをお伝えしたく存じます。私の博士論文に関し、貴重なご意見を下さった副指導教員の角道正佳先生と岸田文隆先生にも心から感謝致します。また、いつも色々な点で親切に協力してくれた後輩の博士課程在籍のバダマハンドさん及び論文の日本語について丁寧に添削してくれた私の知人、内田孝さんに心から感謝します！

参考文献

モンゴル語文献

- Engkemendü mongyul kelen-u esergü udqa-tai üge-yin ončaliy sinji ba ilerekü bayidal-yi ajiylaqu ni sangdu-yin undurul 1983/1
- Osor orčin čay-un mongyul kelen-u qursiya üge-yin bötücc ba köriye kebčiye mongyul kele sinjilegen-u ögülel-üd(I) 1985
- Osor orčin čay-un mongyul kelen-u qursiya üge-yin tuqai jarim asayudal mongyul kele sinjilegen-u ögülel-üd dawatay ba öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriya 1987
- Öbür mongyul-un yeke suryayuli-yin mongyul kelesičig sudulqu yajar odu üge-yin mongyul kele, öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriya, 2005
- Öbür mongyul-un yeke suryayuli-yin mongyul kele bičig sudulqu yajar : mongyul qitad toil bičig öbür mongyul-un yeke suryayuli-yin keblel-ün qoriya, 1999
- Norjin mongyul kelen-ü üge bötügekü dayaburi-yin quriyangyui öbür mongyul-un suryan kömüjil-ün keblel-ün qoriya 2001
- Norjin-nar mongyul kelen-ü toli öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriya 1997
- Bao qing shan Nere tomiyan-u nereelte ba barimjiyalalta-yin jarčim-un tuqai mongyul nere tomiyan-u ögülel-üd öbür mongyul-un öbertegen jasaqu orun-u mongyul nere tomiyan-u komin öbür mongyul -un suryan kömüjil-ün keblel-ün qoriya 1991
- Bao zhi hong mongyul kelen-u esergü udqa-tai üge-yin tuqai kele sudulul 1983/4
- Bao zhi hong mongyul kelen-u esergü udqa-tai üge-yin tuqai öčüken ajiylal mongyul kele bičig 1985,1
- Bandi mongyul kelen-ü eserkü udqa üge-yin tobuči toli ulanbayatur 2002
- Bandi mongyul kelen-u esergü nere-yin tuqai sinjilekü uqayan amidural 1978/5
- Bayatur mongyul kelen-ü üges-un sang sinjilege ündüsüten-u keblel-un qoriya 1988
- Batuiregedüi mongyul kelen-ü üge udqa-yin sang ulayanbayatur 2008
- Batuiregedüi mongyul kelen-u qorsiya üge-yin tobči toli bičig ulayanbayatur 2008
- Batugerel esergü udqa-tai üge-yin ündüsün učir kele ba orčiyulya 1993/4
- Batugerel mongyul kelen-ü üge-yin udqa sudulul öbür mongyul-un suyul-un keblel-ün

qoriya, 2000

Badmadurji orčin çay-un mongyul kelen-ü udqa sudulul-un ündüsü ulayanbayatur
1997

Badmaduji mongyul kelen-ü esergü udqa-tai üge-yin sudulqu asayudal mongyul ulus-un
yeke suryayuli-yin erdem sinjilegen-u biçig XXV248 2005

Boyçu esergü udqatu üge-yin egüsün bōrildükü-yin uçir barayun qoyitu-yin
ündüsüten-ü yeke suryayuli-yin erdem sinjilegen-ü sedkül 2004,1

Boyçu esergü udqatu üge oyiralçaya udqatu üge jiçi qariya udqatu üge-yi udqa
element-ber jadalju sinjilekü ni öbür mongyul-un neyigem-ün sinjilekü uqayan
2002,5

Boyçu esergü udqatu üge-<degere-- दौरа>yin sonirqaltai asayudal-aça mongyul
kele biçig 2006,2

Boyçu esergü udqatu üge-yin tengçegü çinar öbür mongyul-un neyigem-ün sinjilekü
uqayan 2003/5

Boyçu mongyul kelen-ü esergü udqatu qolbuya üge-yin tuqai öbür mongyul-un
ündüsüten-ü yeke suryayuli-yin erdem sinjilegen-ü sedkül 2003,2

Boyçu mongyul kelen-ü kereglegen-ü esergü udqatu üge-yin asayudal-du mongyul kele
biçig 2002,11

Boyçu mongyul kelen-ü dang üge-yin esergü udqatu ügen-ü bōtūçe-yin onçalıy
mongyul-un sudulul 2002,1

Bolur Mongyul kelen-u qorsiya üge-yin udqa çidamji-yin tuqai mongyul kele biçig
sedkül 2007,9

Qaserdeni- nar orčin çay-un mongyul kele öbür mongyul-un suryan kömüjil-ün
keblel-ün qoriya,1996

Qaserdeni -nar mongyul kelen-ü ündüsü girin-u arad-un keblel-ün qoriya 1977

He lian xi mongyul kelen-ü üge-yin olan udqa-yin sudulul öbür mongyul-un arad-un
keblel-ün qoriya 2002

Gereltü mongyul biçig-ün kele jüi-yin suddulul, öbür mongyul-un yeke suryayuli-yin
keblel-ün qoriya, 1998

Mōnggün esergü udqa-tai üge ba sürgeü udqa-tai üge mongyul kele udqa jokiyal

1986,3

Lobsangwangdan orčin çay-un mongyul kele öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriya 1961

Lobsangwangdan mongyul kelen-ü oyiralçaya üge-yin tobçi toli öbür mongyul-un suryan kömüjil-ün keblel-ün qoriya 1985

Sampildandab esergü nere-yin udqa-yin onçalıy-aça sinjilekü uqayan amidural 1976,4

Sečen bulu kelen-ü sinjilel-ün nere tomiyan-u tayilburi Öbür mongyul-un suryan kömüjil-ün keblel-ün qoriya 1996

Sečen delgerma udqa jüi, öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriya, 2000

Serüb mergen üge-yin tegübüri ündüsüten-ü keblel-ün qoriya 2007

Tangkis-nar Onisuya öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriya 2007

Temurçerin mongyul kelen-ü uge-yin sang-un sudulul Öbür mongyul-un suryan kömüjil-ün keblel-ün qoriya 2004

Tedke kele sinjilel-ün tobçıyan öbür mongyul-un yeke suryayuli-yin keblel-ün qoriya, 1987

Toyuva-nar orčin üye-yin mongyul kele öbür mongyul-un bayaçud ketüked-ün keblel-ün qoriya 1993

Törgen -ner Orčin çay-un mongyul kelen-ü sudulul Öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriya 1988

Delgerma mongyul kelen-ü udqa sudulul liao ning-un ündüsüten-ü keblel-ün qoriya, 2001

Rinčin üge-yin udqa uçir öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriya, 1956

Jambalsürüng nar Orčin çay-un mongyul kelen-ü üges-ün sudulul-un ündüsü Öbür mongyul-un suryan kömüjil-ün keblel-ün qoriya 1990

Tulyayuri mongyul kelen-ü udqa esergü üge-yin onçalıy-yi sinjiku ni mongyul kele biçig 1993/4

Delgerma mongyul kelen-ün udqa sudulul liao ning-un ündüsüten-ü keblel-ün qoriya 2001

Çenggeltai odu üye-yin mongyul kelen-u jui(nemen jasaysan debter), öbür mongyul-un

arad-un keblel-ün qoriya、1999

Yuan chao- nar mongyul kele sinjilel-ün toli liao ning-un ündüsüten-n keblel-ün qoriya 1992

Rinčin üge-yin udqa učir öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriya 1964

Rinčin mongyul bičig-ün kelen-ü jüi öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriya 1988

Rinčin mongyul kelen-ü esergü udqa бүкүй үгес-үн туқай өгүлекү ni mongyul kele jokiyal teüke 1960/7

日本語文献

池上嘉彦 意味の世界、日本放送出版協会 2006

池上嘉彦 意味論 大修館書店 1975

井上尚美他 一般意味論 河野心理教育研究所出版 1974

大野晋 日本・日本語・日本人、株式会社新潮社 2007

沖森卓也他 図解日本語 三省堂 2006

加藤彰彦他 日本語概説 桜楓社 1989

金水敏他 意味と文脈 岩波書店 2000

蒲谷宏他 敬語表現教育の方法 大修館書店、2006

工藤浩 他編 日本語要説、ひつじ書房 1995

国廣哲弥 意味論の方法 大修館書店 1982

坂原茂 松本裕治 意味 岩波書店 1998

佐藤信夫 意味の弾性 岩波書店 1986

柴田武 現代日本語 朝日新聞社 1976

白井賢一郎 形式意味論入門 産業図書 1985

中右実 認知意味論の原理 大修館書店 1994

西尾寅弥 現代語彙の研究 明治書院 1988

前田とみよし 国語語彙史研究 明治書院 1985

松井栄一 日本語新辞典、小学館 2001

森岡健二 語彙の形成、明治書院、1987

山内洋一郎 国語概論 和泉書院 1982

渡辺 実 日本語概説 岩波書店 2008

R・A・ウォルドロン著 築島謙三訳 意味と意味の発展 法政大学出版局 1990
ジェフリー・リーチ編、安藤貞雄訳 現代意味論 研究社 1977
ジェフリー・リーチ編 内田種臣他訳 意味論と語用論の現在 理想社 1986
ジョージ・レイコフ著 池上嘉彦他訳 認知意味論 紀伊国屋書店 1993
トゥリオ・マーウロ著 竹内孝次訳 意味論序説 朝日出版社 1977
フランク R・パーマー著 川本喬訳 意味論入門 白水社 1978
ルドルフ・カルナップ編 永井成男他訳 意味と必然性 紀伊国屋書店 1974

中国語参考文献

曹伟 现代汉语词义学 学林出版社 2001 年
陈满华 词义之间的关系与同义词 反义词的构成 汉语学习 1994 年 第 2 期
戴耀晶 论词的反义关系 杭州大学学报 1988 年 2 期
范晓 贺国伟 主编 反义词小词典 上海辞书出版社 1999 年
符淮青 词义的分析 and 描写 语文出版社 2000 年
傅朝阳 怎样找反义词 语文学习 1980 年 第 5 期
甘为生 反义词和同义词关系刍议 语言文学 1984 年 第 1 期
顾明华 语义对立和反义词 外国语 1985 年 第 4 期
广达 林玉 反义词划界浅探 阴山学刊 1990 年 第 2 期
郭定泰 翻译言语中词的反义组合 外语学刊 1989 年 第 5 期
韩敬体 反义词词典 四川人民出版社 1989 年
贺水彬 反义词三论 辽宁师范大学学报 1985 年 第 1 期
黄晓苑 词汇与文化 嘉应大学学报 2000 年 第 8 期
贾彦德 汉语语义学 北京大学出版社 1998 年
兰玉英 反义连文词语研究 内江师专学报 1998 年 第 3 期
李峰 同义近义反义多音多义字词典 人民日报出版社 2003 年
李福印 语义学概论 北京大学出版社 2006 年
李丽君 从义素分析法看反义词聚的构成和范围 汉语学习 1989 年 第 4 期
林彦凤 反义词辞典 吉林人民出版社 2003 年
刘叔新 周荐 同义词语和反义词语 商务印书馆 2000 年
马学良 普通语言学 中央民主大学出版社 1997 年

倪宝元 反义词的修辞作用 语文知识 1957 年 第 9 期

钱漪云 反义词定义刍议 语文学习 1982 年 第 11 期

沈然 同义词 反义词词典 新疆青少年出版社 2003 年

石安石 语义研究 语文出版社 1998 年

束定芳 现代语义学 上海外语教育出版社 2000

孙良明 反义词 语文学习 1958 年 第 1 期

孙明 反义词浅说 西南民族学院学报 1982 年 第 1 期

谭达人 略论反义相成词 语文研究 1989 年 第 1 期

唐志超等 同义词 反义词词典 延边大学出版社 2002 年

王德春 语言学概论 上海外语教学出版社 1997 年

王立廷 浅谈反义词的特点和定义 山东师范大学学报 1986 年 第 4 期

王振昆 谢文庆 反义词的意义分析 天津师范学院学报 1982 年 第 3 期

魏昆 同义词和反义词 语文学习 1956 年 第 11 期

武占坤 略谈多义词和反义词的关系 语文学习 1958 年 第 1 期

武占坤 王勤 现代汉语词汇概要 内蒙古人民出版社 1983

谢文庆 反义词 湖北教育出版社 1988 年

谢文庆 现代汉语反义词的关系 语言教学与研究 1987 年 第 2 期

谢文庆 怎样确定反义词的范围 语言教学与研究 1986 年 第 1 期

徐烈炯 语义学 语文出版社 1990 年

许威汉 二十世纪的汉语词汇学 书海出版社 2002 年

许正勋 反义词词典 延边人民出版社 2002 年

徐志民 词义关系和聚合关系 语文论丛(8) 上海教育出版社 2004 年

言寺 每个词是不是一定有个反义词 语文学习 1960 年 第 2 期

杨晓安 单音节反义形容词语义转换的条件 西北大学学报 1987 年 第 2 期

扬之舟 否定词的反义词 中国语文 1981 年 第 2 期

姚春青 反义词词典 内蒙古人民出版社 2004 年

叶悲声等 语言学纲要 北京大学出版社 2000 年

于根元等 语言漫话 上海教育出版社 1981 年

袁晖 新华反义词词典 商务印书馆 2003 年

张长松 反义词词典 延边大学出版社 2003 年

张德鑫 谈汉语的正反词 语言教学与研究 1986 年 第 1 期
 张拱贵 反义词及其在构词上和修辞上的作用 中国语文 1957 年 第 8 期
 张建理 标记性和反义词 外国语 1999 年第 3 期
 张庆云 词汇新研究 语文出版社 1996 年
 张晰 反义词与有无标记现象 河南师范大学学报 1990 年 第 2 期
 张志毅 张庆云 词汇语义学 商务印书馆 2001 年
 赵克勤 古汉语反义词浅论 语文研究 1986 年 第 3 期
 仲崇山 反义语素对反义词的制约和影响 大庆高等专科学校学报 1996 年 第 8 期
 周荐 词汇论著 商务印书馆 2004 年
 周荐 二十世纪现代汉语词汇论著指要 商务印书馆 2004 年
 朱文献 反义词对举的灵活性 语文学习 1980 年 第 5 期

辞典類

愛知大学中日大辞典編纂処 中日大辞典 大修館書店 1994
 相原茂 日中辞典 講談社 2006
 赤祖父二哲他 日・中・英言語文化辞典 マクミランランゲージハウス 2000
 荒井伸一 日本語モンゴル語辞典 ウランーバートル 1999
 伊地智善繼 中国語辞典 白永社 2002
 内モンゴル大学モンゴル語研究所 蒙漢辞典 内モンゴル大学出版社 1999
 大東文化大学中国語大辞典編纂室 中国語大辞典 角川書店 1993
 小沢重男 現代モンゴル語辞典 大学書林 1994
 香坂順一 簡約現代中国語辞典 光生館 1990
 北原保雄 東郷吉男 反対語対照語辞書 東京堂出版 1988
 塩谷茂樹 モンゴル語ことわざ用法辞典 大学書林 2005
 徳廣弥十郎 日蒙漢辞典 ビブリオ 1998
 橋本勝 現代モンゴル語日本語辞典 春風社 2001

 ダムバダルジャ・ナランツェツェグ 日本語モンゴル語基礎語辞典 大学書林 1998
 張淑榮 中日漢語対比辞典 ゆまに書房 1987
 ボラグ 漢蒙熟語辞典 内モンゴル人民出版社 1992

モンゴル語の反義語辞典について

辞典は参考書として、学術研究のためだけではなく、日常生活にもよく使用される。また、辞典は実践的なものとして、理論的研究の基礎になる役割がある。モンゴル語の辞典は民族文化の重要な部分として、歴史は長く、しかも種類も多いのである。「国家にとって、辞典の発展はその民族文化発展のシンボルである」と述べている¹⁾。

本書は学術研究向けの辞典である。辞典を編纂することは、骨の折れる大変な作業だが、モンゴル人の学者達は 800 年ほど前の元朝から、『至元訳語』や『華夷訳語』などの翻訳の辞典を編纂することから始め、これまで、様々な種類の辞典が編纂されており、モンゴル語やモンゴル文化の発展を進めてきた。この『モンゴル語反義語辞典』は、反義語研究だけではなく、モンゴル語の辞典学にも微力ながら尽力することを目指し、編集したものである。

本書の反義語は、『モンゴル語辞典』²⁾より選択した。

本書は、モンゴル語のアルファベットの順番に並べ、注釈を付した。

本書は、上部と下部という二つの部分から構成されている。つまり、上部は単語における反義語であるが、下部は連語における反義語である。

本書では、単語反義語は 540 組であり、連語反義語は 120 組であり、合わせて 660 組の反義語である。

本書の反義語の注釈は、『モンゴル語辞典』³⁾の注釈に基づき注釈を付した。

本書はわかりやすく提示するため、なるべく簡単に注釈することに注意した。

[注]

1) Norjin-nar 1997 p. 1

2) Norjin-nar 1997

3) Norjin-nar 1997

• မည်သို့ — မည်သို့

$\sim$ $\sim$ $\sim$ $\sim$ $\sim$

— 1 —

.. ~

— **ਅੰਤ**

:: ~ :: ~

— १ —

[illegible]

— **Ἰνδὸν** ♦

[illegible]

—

[illegible]

— **മുഖ്യമന്ത്രി** ◆

[illegible]

—

[illegible]

— ୩୫ —

[illegible]

سرسنمىق — سىڭلىنىمىق ،

ھەلىقىنىق يۇقىرى ۋە ، ھەلىقى يۇقىرىق ، ، قىرىن رىق ~ ~ سىڭىق ھەلىق ، ، ~

سرسنمىق — سىڭلىنىمىق ،

ھەلىقىنىق يۇقىرى ۋە ، ھەلىقى يۇقىرىق ھەلىق ، ، سىڭىلىق ، ، رىقنىق ~ ~ ، ،

سرسىق — يەلىق ،

ھەلىق مە ، يەلىقىنىق سىق ، ، ~ يەلىق ، ، ھەلىقىنىق ، ،

سەلىق — ۋەلىق ،

ۋەلىق ھەلىق مە ، سەلىق ، ۋەلىق مە ، ، سەلىق مە ، ، ~ ۋەلىق ھەلىق ، ،

سەلىق — ۋەلىق ،

سەلىق ۋەلىق ، سەلىق ھەلىق ۋەلىق مە ، ھەلىق ۋەلىق ، ، ۋەلىق ۋەلىق ، ، ~ ۋەلىق ، ،

سەلىق — ۋەلىق ،

ھەلىق ھەلىق ۋەلىق ۋەلىق ، ، سەلىق ھەلىق ، ، ~ ۋەلىق ، ،

سەلىق — يەلىق ،

سەلىق ۋەلىق ۋەلىق ۋەلىق ، ، سەلىق ھەلىق ۋەلىق ھەلىق ، ، سەلىق ، ، ~ يەلىق ، ،

سەلىق — ۋەلىق ،

سەلىق ، ۋەلىق ۋەلىق ، ۋەلىق ۋەلىق ۋەلىق ، ، ۋەلىق ۋەلىق ، ، ~ مەلىق ھەلىق ، ،

سەلىق — ۋەلىق ،

ھەلىق ۋەلىق ۋەلىق ۋەلىق ، ، ۋەلىق ، ، ~ ۋەلىق ، ، ۋەلىق ، ،

॥ श्रीगणेशाय नमः ॥ ~ ~ ~ ॥ श्रीगणेशाय नमः ॥

是——是

[illegible]

—

[illegible]

— ५ —

.. గుర్తునది .. ~ .. నా పాత్ర నాది ..

നഗരം — നഗരം .

~ ~ ~ ~ ~

ମୋହ — ମୁଗ୍ଧତା ।

[illegible][illegible]

॥ श्रीगणेशाय नमः ॥

ਅੰਤਰਿ — ਅੰਤਰਿ :

ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ १ ॥
 ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ २ ॥
 ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ ३ ॥
 ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ ४ ॥
 ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ ५ ॥
 ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ ६ ॥
 ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ ७ ॥
 ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ ८ ॥
 ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ ९ ॥
 ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ १० ॥

—

ഒന്നു ക്ലോക്ക് വേണ്ടി നിശ്ചിത സ്ഥാനം .. നല്ല ~ .. ~ മേറ്റിംഗ് ..

—

بعضى — كالمصفا ،

كشتر ل هفدر م رىعدر بختسيفن بمريلدر بىدن .. ~ دىك .. ~ رىفوعىر ..

بىر — صفر ،

ون ل بىر بىدن ل وىلن ل رىلدر .. ~ بىر بىرستىق .. ~ رىفوعىر ..

بىرىن — صفرىن ،

ون ل بىر بىدن ل وىلن ل بىر رىلدر كشر ل .. ~ بىلمىدن .. ~ بىلدىن ..

بىقى — بىلدىن ،

بىدر بىلمىدر بىر بىدر بىلرور رىلدىلر بىر رىلمىلر ل .. ~ وىلدىن .. رىلدىن ..

بىلمىدر — بىلدىلدر ،

وىلدىن بىلدى بىقى .. ~ كشرىق .. ~ كشرىلدىق ..

بىلر — بىلمىلدىق ،

رلىلدر بىلمىدر و بىلدىن ل بىر ل رىلر بىلرور بىلدىن لدر وىلمىق .. بىلدىن دىك .. ~
بىلرور بىلمىلدىلر ل ~ ..

بىلرور — بىلمىلر ،

بىر ل بىلدىن ل وىلر ل .. ~ رىلرور .. ~ بىلمىلر ..

بىلرور — بىلمىلر ،

بىلرور بىلمىلر وىلمىلر .. ~ رىلرور .. ~ بىلمىلر ..

بىلرور — كىر بىلمىلر ،

بىلمىلر بىر بىلرور بىلدى بىلدىن دىن وىلمىلر ن بىلمىلرور بىلمىلر وىلمىلر ..

بایستد — بایستد ،

رویداد هر میسر است که میسر است نهاده ، ~ راجع به آن ~ که به آنست ،

بایستد — بایستد ،

از بایستد میسر است و به بایستد ، فتنه را بایستد نهاده ، ~ راجع به آن ~ به بایستد ،

بایستد — بایستد ،

و به بایستد ، راجع به بایستد ، فتنه را بایستد نهاده ، ~ راجع به آن ~ به بایستد ،

بایستد — به بایستد ،

بایستد ، راجع به بایستد ، فتنه را بایستد نهاده ، ~ راجع به آن ~ به بایستد ،

بایستد — به بایستد ،

بایستد ، راجع به بایستد ، فتنه را بایستد نهاده ، ~ راجع به آن ~ به بایستد ،

بایستد — بایستد ،

بایستد ، راجع به بایستد ، فتنه را بایستد نهاده ، ~ راجع به آن ~ به بایستد ،

بایستد — بایستد ،

بایستد ، راجع به بایستد ، فتنه را بایستد نهاده ، ~ راجع به آن ~ به بایستد ،

بایستد — به بایستد ،

بایستد ، راجع به بایستد ، فتنه را بایستد نهاده ، ~ راجع به آن ~ به بایستد ،

بایستد — بایستد ،

بایستد ، راجع به بایستد ، فتنه را بایستد نهاده ، ~ راجع به آن ~ به بایستد ،

—

.. ~ 6 ന്റെ പരിധിയിൽ

— सुखदाम् ।

~ תחילת .. ~ סיום ..
הענין המרכזי של הלכות פסח הוא הפסח

• **பெயர்** — **தாய்**

[illegible]

— **1954** .

ههسهر مه رښکاره رښتښه نه کيږي ههسهر ههسهر
 ~~~~~  
 زهښه ~~~~~  
 نهسهر

—

[illegible]

— **ସମ୍ପାଦକ** ♦

[illegible]

**—**

مستحق نذرک در محاکمه ++ مختصر ++ ~

مستحق محاکمه در نذر محاکمه ++ مختصر ++ ~

— **महोदय** .

ਅੰਤਰਿ ਸ੍ਰੀ ਗੁਰੂ ਗ੍ਰੰਥ ਸਾਹਿਬ ਜੀ ॥

—



רַבִּי מִיכָאֵל וּ מִיכָאֵל מִסֵּת וְחַסִּידִים .. עַד מִיכָאֵל .. ~ מַחֲבֵרִים ..

מִיכָאֵל — מִיכָאֵל ,

מִיכָאֵל מִיכָאֵל מִיכָאֵל מִיכָאֵל .. מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל ..

מִיכָאֵל — מִיכָאֵל מִיכָאֵל ,

מִיכָאֵל מִיכָאֵל מִיכָאֵל מִיכָאֵל .. מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל .. ~ עַד מִיכָאֵל ..

מִיכָאֵל — מִיכָאֵל ,

מִיכָאֵל מִיכָאֵל מִיכָאֵל מִיכָאֵל .. מִיכָאֵל מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל ..

מִיכָאֵל — מִיכָאֵל ,

מִיכָאֵל מִיכָאֵל מִיכָאֵל .. מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל ..

מִיכָאֵל — מִיכָאֵל ,

מִיכָאֵל מִיכָאֵל מִיכָאֵל .. מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל ..

מִיכָאֵל — מִיכָאֵל מִיכָאֵל ,

מִיכָאֵל מִיכָאֵל מִיכָאֵל מִיכָאֵל .. מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל ..

מִיכָאֵל — מִיכָאֵל ,

מִיכָאֵל מִיכָאֵל מִיכָאֵל מִיכָאֵל .. מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל ..

מִיכָאֵל — מִיכָאֵל ,

מִיכָאֵל מִיכָאֵל מִיכָאֵל .. מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל .. ~ מִיכָאֵל ..

מִיכָאֵל — מִיכָאֵל ,

۱۱ ~ [مستطیل] :: ۱۱ ~  
 ۱۱ ~ مستطیل :: ۱۱ ~ مستطیل

— **सर्व**

അതിന്റെ കാരണം എന്താണ്?  $\therefore$  കാരണം  $\therefore$   $\therefore$

System — System

ندرب مستقر ( نين زهدهو مستقر ) دتار وړ موهو ژبلس .. ~ عو لخوا .. عو مهو ..

—

$\frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 & i \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$

— **ਸ਼੍ਰੀਮਤੀ**

.. ..

—

..  
~  
..  
..

Պատմություն — Պատմություն •

[illegible][illegible]

.. ۱۹۴۱ ~ ۱۹۴۲ ..

— ଭୂମିକାପାତ୍ର —

١٠٠



یہاں سے — یہاں ،

کشمیر کا ہمارا مہم ہمسفر ہے ، ~ ہمارا ، ~ ، ~

یہاں سے — یہاں ،

کشمیر کے لیے ہمارا مہم ہمسفر ، ~ ، ~ ، ~

یہاں سے — یہاں ،

یہاں سے ہمارا مہم ہمسفر ، ~ ، ~ ، ~

یہاں سے — یہاں ،

یہاں سے ہمارا مہم ہمسفر ، ~ ، ~ ، ~

یہاں سے — یہاں ،

ہمارا مہم ہمسفر ، ~ ، ~ ، ~

یہاں سے — یہاں ،

ہمارا مہم ہمسفر ، ~ ، ~ ، ~

یہاں سے — یہاں ،

ہمارا مہم ہمسفر ، ~ ، ~ ، ~

یہاں سے — یہاں ،

ہمارا مہم ہمسفر ، ~ ، ~ ، ~

یہاں سے — یہاں ،

کشمیر کا ہمارا مہم ہمسفر ، ~ ، ~ ، ~

کشمیر کا ہمارا مہم ہمسفر ، ~ ، ~ ، ~

یہاں سے — یہاں ،

یہاں سے وہ رہا ہے .. ~ عو یہاں سے ..

یہاں سے — یہاں ،

یہاں سے یہاں رہا ہے وہاں سے یہاں سے .. ~ عو .. یہاں ..

یہاں سے — یہاں سے ،

یہاں سے یہاں سے یہاں سے .. ~ عو .. یہاں سے ..

یہاں سے — یہاں سے ،

یہاں سے .. ~ عو .. یہاں سے ..

یہاں سے — یہاں سے ،

یہاں سے وہاں سے یہاں سے .. ~ عو .. یہاں سے ..

یہاں سے — یہاں ،

یہاں سے یہاں سے یہاں سے .. ~ عو .. یہاں سے ..

یہاں سے — یہاں سے ،

یہاں سے یہاں سے .. ~ عو .. یہاں سے ..

یہاں سے — یہاں سے ،

یہاں سے یہاں سے .. ~ عو .. یہاں سے ..

یہاں سے — یہاں سے ،

یہاں سے یہاں سے .. ~ عو .. یہاں سے ..

یمنسډ — ژمنسډ ،

هوډمنسډ ځنگ ټ ټسډن ټډن هوډو وډسډن من ټسډسډ ټسډن .. ~ ټسډن .. ~ ټسډن ..

یمنسډسډ — ژمنسډسډ ،

یمنسډ هوډو ټ وډوډسډسډ ، یمنسډسډ سډسډ ټسډن ټسډسډسډ .. ~ ټسډسډ .. ~ ټسډسډ ..

یمنسډسډسډ — ټسډسډسډسډ

ټسډسډسډسډ ټو هوډسډ .. ~ ټو ټسډسډ ..

یمنسډسډ — ټسډسډ ،

سډسډ من یمنسډ ټسډسډسډ یمنسډسډ ځنگ ټسډسډ ټسډ سډسډ .. ~ ټسډسډ .. ~ سډسډ ..

یمنسډسډسډ — یمنسډسډسډسډ ،

یمنسډسډ هوډو من یمنسډ ټسډسډ .. ~ ټو ټسډسډسډ .. ~ ټسډ ټسډسډ یمنسډ ..

یمنسډسډسډ — یمنسډسډسډسډ ،

سډسډسډ یمنسډ هو ټسډسډسډ یمنسډ ټن سډا سډسډسډ یمنسډسډسډ هوډن .. ~ ځنگ سډسډسډسډ ..  
هوډسډسډسډ ټن .. ~

یمنسډسډ — وډسډسډ ،

یمنسډسډسډ وډسډسډ ځنگ یمنسډسډسډسډ یمنسډ ټن هو .. ~ ټو .. ~ هوډسډ ..

یمنسډسډسډسډ — وډسډسډسډسډ ،

وډسډسډسډسډ ځنگ ځنگ یمنسډ ټو یمنسډسډ .. یمنسډ ټسډسډ ځنگ ټن ټن .. ~ ټو ټسډسډسډسډ ..

یمنسډسډسډسډ — یمنسډسډسډسډ ،

سډسډ ټسډ ځنگ ټسډسډسډسډسډ .. ~ ټو سډسډسډ ټسډسډسډ .. ټسډسډ .. ~

ଆମେ — ଆମେ ।

“ சாஸ்திரம் ~  
“ சாஸ்திரம் தருகிறது ”

—

ဇယား ၂၂ ကိုဖော်ပြပါသည်။

• ה'תשנ"ד — תשנ"ה

$$O_{\text{AN}} \text{ ን ንዓምሳዕሪ ይብሉኝ } \cdot \cdot \text{ ማዕከሪ ንዓምሳዕሪ ሆኖ } \sim \cdot \cdot$$

— സംഗ്രഹം .

ಸೃಷ್ಟಾರ್ಥಿ ಸೃಷ್ಟಾಂತರಾರ್ಥಿ ಸ್ಥಿತಿಗಳು .. ~ ನನ್ನ ಪ್ರಾಣಗಳು ..

—

[illegible]

— **Ἰουδαῖος** —

.. ॐ नमो भगवते वासुदेवाय .. ~ .. नमो ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ..

— **הַיְּהוּדִים** —

$\sim$   $\sim$   $\sim$

ସମାପ୍ତି —

[illegible]

— १०५ —

[illegible]

نَسْتَقِيسُ — وَهَلْ قِيسُ ،

مَقْدُوسٌ وَهُوَ مَسْرُوعٌ يَدْرُكُ مَسْهُوكًا لَيْسَ كَنَزَارِيسَ مَكْمُورِيسَ .. ~ لَنْ رَقْدَارِيسَ .. يَنْقُصُ .. ~

نَسْتَحْرِسُ — رَهْلَقِيسِرْمَكْ ،

رَهْجُورٌ وَرَيْسَتَمَرٌ مَهْفُوقٌ كَسَاكُ يَسْتَرِينْ .. لَنْ ~ .. ~ يَسْرُجْ ..

نَسْتَحْزِلُ — عَسْتَحْزِلُ ،

وَنَ لَاحِزٌ مَحْلُوكٌ كَسَاكُ .. زَيْفَعُ مَرْ ~ .. ~ لَنْ كَسْرُوقْ ..

نَسْتَسْتَمِنُ — عَسْتَسْتَمِنُ ،

يَسْتَقِ مَحْلُوكٌ وَنَ .. ~ يَلْدَعُوقْ .. رَحْمُ مَرْ ~ ..

نَسْتَسْرَبِيسُ — عَسْتَسْرَبِيسُ ،

يَسْرَهْزِينْ رَهْزِمَرْ هُوَ مَحْلُوقٌ يَجْعَلُوقْ .. ~ عَوْ يَلْعَلُوقْ .. يَسْتَمِنُ .. ~

نَسْتَسْقِرُ — عَسْتَسْقِرُ ،

يَسْقِرُ مَحْلُوكٌ قَرَبَ .. ~ رَهْجُورٌ .. رَهْقِيسُ مَرْ ~ ..

نَسْرُ — يَحْلُقِيسُ ،

هَوْرَمَرْ لَ عَدْرِيْ مَرْ كُنْ لَنْ وَهَرْ لَ .. ~ زَيْفَعُيسُ .. وَنَ لَ مَحْنُ ..  
مَسْتَقِ عَدْرِيْ لَحْمٌ يَحْكُمُ وَهَرْ لَ .. ~ مَسْتَقِ .. لَحْمُ ..

نَسْرِيسُ — رَهْلَقِيسِمِيسُ ،

لَحْلَقِيسُ يَحْلُقِيسِرْمَكْ لَنْ وَتَسْرِيسُ .. يَحْلَقِيسِرْمَقِيسُ وَ لَحْلَقِيسُ ~ ..

نَسْرِيْنَمَرْ — يَحْلَقِيسَرْ ،

كَسَاكُ يَسْتَرِينْ كَسْتَمَرُ لَ يَحْلُوقُ مَحْلُوقٌ رَهْقِيسُ .. ~ رَهْمَرْ ..

മുസ്ലീം ന്നു നമസ്കാർ ന്നു ന്നു ന്നു .. ~ മുസ്ലീം ..

美 — 美

[illegible]

— **ജി**

مستقّ عيسى لأمّ يسرى عيسى. ~ مستقّ. ~  
 مستقّ عيسى لأمّ يسرى عيسى. ~ مستقّ. ~

[illegible]

—

[illegible]

— ମହାଶୟୀ ।

~  
::  
പ്ര. :: ഗുഹ പാലി വ്യാഖ്യാനം

—

[illegible]

—  $\frac{1}{2}$  —

॥ ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ ~ ॥  
 ॥ ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ ~ ॥

—

.. ~  
.. ..

—

[illegible]



نځين پېر — داسې نېستو ،

هېر د نځين هېستو .. زه هېر وړ ~ .. ~ غو پېر ..

نځين پېر — داسې نېستو ،

هېر نځين پېر .. زه هېر نځ ~ ..

نځين پېر — داسې نېستو ،

داسې و نځين داسې نېستو .. پېر ~ .. زه پېر نځ ~ ..

نځين پېر — داسې نېستو ،

نځين هېر داسې .. پېر داسې نځ ~ ..

نځين — داسې نېستو ،

نځين داسې و داسې نېستو .. پېر ~ .. زه پېر نځ ~ ..

نځين داسې — داسې نېستو ،

زور داسې داسې نځين داسې نېستو .. زه پېر ~ ..

نځين — داسې نېستو ،

زور داسې و داسې نځين داسې نېستو .. زه پېر ~ .. زه پېر نځ ~ ..

نځين داسې — داسې نېستو ،

نځين داسې داسې نځين .. زه پېر داسې نځ ~ ..

نځين داسې — داسې نېستو ،

زور داسې داسې نځين داسې نځين .. زه پېر داسې نځ ~ ..

— Երաստայ

.. اسرائیل ~ .. ישראל וישראל

• Երանայի — Երանայի

[illegible]

— गुला

[illegible]

— १ —

[illegible]

— — — — —

[illegible]

• **അവസ്ഥ** —

لەبەر و بکۆرێک دەقیقو کەس هەڵەن .. ~

خەس ئیستەم .. ~ ئیستەت .. [

— **ማህተም**

[illegible]

— ३५७ —

നീയെ ഓർമ്മിപ്പിക്കുന്നു. . . . .

— ကျွန်ုပ်တို့ — ကျွန်ုပ်တို့ •

۱۰۰ : هفتصد و پنجاه و دو  
 ۱۰۱ : هفتصد و پنجاه و سه  
 ۱۰۲ : هفتصد و پنجاه و چهار  
 ۱۰۳ : هفتصد و پنجاه و پنج  
 ۱۰۴ : هفتصد و پنجاه و شش  
 ۱۰۵ : هفتصد و پنجاه و هفت  
 ۱۰۶ : هفتصد و پنجاه و هشت  
 ۱۰۷ : هفتصد و پنجاه و نه  
 ۱۰۸ : هفتصد و پنجاه و ده  
 ۱۰۹ : هفتصد و پنجاه و یازده  
 ۱۱۰ : هفتصد و پنجاه و بیست

وسځا — کنډا ،

په سويلي سويلي ځاي ډير ښکته کوي .. ټولې سويلي ځاي ~  
کيډي پکښي .. ~ ځاي ..  
پکښي وښکني .. ~ پکښي ..  
وښکني ځاي وښکني ځاي سويلي سويلي .. ~ سويلي ..

وسځا — کنډا ،

ځاي کنډا سويلي وسځا ځاي ځاي .. سويلي .. ~ سويلي ځاي ~ ..

وسځا — کنډا ،

هغه سويلي ځاي وښکني ځاي ځاي .. سويلي ځاي ~ ..

وسځا — کنډا ،

کډي وسځا سويلي کنډا .. ~ سويلي ځاي ..

وسځا — کنډا ،

پکښي سويلي وښکني کنډا .. ~ پکښي پکښي ځاي ..

وسځا — کنډا ،

وسځا سويلي ځاي ځاي سويلي .. سويلي .. ~ سويلي ..

وسځا — کنډا ،

وښکني سويلي ځاي سويلي ځاي سويلي سويلي .. ځاي ~ .. پکښي ځاي ~ ..

وسځا — کنډا ،

پکښي سويلي ځاي سويلي ځاي ~ .. ~ سويلي سويلي ..



وليدك — كدستيدك \*

يدق بيدفدكك مږ وليدسو كدكك \*\* ~ مږ كك \*\*

وليدك — ژلمندك \*

يدكك يلمندك و وليدك وليدكك \*\* ~ وليدكك \*\* مږ ككيدك \*\*

وليدكسو — كدكسو \*

يدكك كدكك مږ وليدكسو يلدكك يلدككك و وليدكك \*\* ~ عككيدكسو \*\* يلدككيدكك \*\* ~

وليدكك — كدكك \*

يدكك كدكسو كدكك \*\* ~ وليدككك \*\* ژلمندك \*\*

وليدككيدكك — كدككيدكك \*

يدككيدكك كدككك وليدكك مږين \*\* ~ مږينكسو \*\* كدككيدكك مږينككيدكك \*\*

وليدككيدككسو — كدككيدككيدكك \*

وليدكك كدكك مږين يلدككك \*\* ككك و وليدككك ~ عكك مږينكسو \*\*

وليدككيدككك — كدككيدكك

يدك مږينكك يلدكك مږينككيدكك يلدكك مږينكك \*\* ~ و مږينككيدكك \*\* و يلدككيدكك \*\*

وليدكسو — مږينكسو \*

ژلمندك مږينكسو وليدك كدكككك و مږينكسو \*\* مږينكككك \*\* ~ و مږينكككك \*\* ~

وليدكك — مږينككيدكك \*

مږينكسو وليدكك و مږينككيدكك مږينكك مږينكسو مږينكسو مږينككيدكك وليدكك وليدككيدكك و

$\text{H}^1(\mathbb{R}^n, \mathbb{R}) \cong \mathbb{R}^n$

— ୧୫୫ —

പ്രതി സ്വർണ്ണമേ പൊൻതൂണാകട്ടെ .. ~ മിസ്സാ ..

— ୧୫ —

[illegible]

ॐ । ॐ ।

استقوت لعلی در اهل اللؤلؤ و المصنوع در المصنوع . . . المصنوع ~

—  
•

$$++ \quad \text{Pumpung} \sim ++ \quad \text{Jahres- und Jahresmittel}$$

മിസ്സം — മിസ്സം

المعلم والمعلمة في السنة الأولى من التعليم ~

ജിന്ദഗി — മൃതി •

.. ~ ..

അനന്തം — പരമേശ്വരൻ.

$\gamma \sim \frac{1}{\sqrt{\lambda}}$  ,  $\beta = O(\frac{1}{\sqrt{\lambda}})$

—

.. ~ ..









අනුප්‍රාප්ති ආරක්ෂාව සඳහා .. ~ මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති — මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති ආරක්ෂාව සඳහා .. ~ මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති — මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති ආරක්ෂාව සඳහා .. ~ මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති — මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති ආරක්ෂාව සඳහා .. ~ මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති — මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති ආරක්ෂාව සඳහා .. ~ මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති — මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති ආරක්ෂාව සඳහා .. ~ මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති — මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති ආරක්ෂාව සඳහා .. ~ මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති — මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති ආරක්ෂාව සඳහා .. ~ මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති — මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති ආරක්ෂාව සඳහා .. ~ මගේ මනස ..

අනුප්‍රාප්ති — මගේ මනස ..









لښوون — له پلنې ،

لږو له پلنې سره وړاندې څو مهالېږي ، ~ مهالېښتېږي ، ~ په پلنې سره ،

رښلېږي — له پلنې

رښلېږي له پلنې و مهالېږي له پلنې ، ~ مهالېږي ، ~ له پلنې نه پلنې ،

رښلېښتېږي — له پلنې سره

رښلېښتېږي له پلنې سره نه پلنې سره وړاندې څو مهالېږي ، ~ له پلنې نه پلنې ،

رښلېږي — له پلنې سره

رښلېږي له پلنې سره ، ~ له پلنې نه پلنې ، ~ له پلنې نه پلنې ،

رښلېږي — له پلنې سره

لږو له پلنې سره وړاندې څو مهالېږي ، ~ له پلنې نه پلنې ، ~ له پلنې نه پلنې ،

رښلېږي — له پلنې سره

رښلېږي له پلنې سره وړاندې څو مهالېږي ، ~ له پلنې نه پلنې ، ~ له پلنې نه پلنې ،

رښلېږي — له پلنې سره

وړاندې له پلنې نه پلنې سره وړاندې څو مهالېږي ، ~ له پلنې نه پلنې ، ~ له پلنې نه پلنې ،

رښلېږي — له پلنې سره

پلنې له پلنې سره وړاندې څو مهالېږي ، ~ له پلنې نه پلنې ، ~ له پلنې نه پلنې ،

رښلېږي — له پلنې سره

وړاندې له پلنې نه پلنې سره وړاندې څو مهالېږي ، ~ له پلنې نه پلنې ، ~ له پلنې نه پلنې ،















ئۇيۇش — تىل ت

يەنە بىر تەنقىدچىنىڭ ھەلەپ تەنقىدچىسىنىڭ ئىكەنلىكىنى ئىسپات قىلىش ئۈچۈن ..

ئۇيۇش — تىل ت

ئۇيۇش ئىكەنلىكىنى ئىسپات قىلىش ئۈچۈن ..

ئۇيۇش — تىل ت

يەنە بىر تەنقىدچىنىڭ ھەلەپ تەنقىدچىسىنىڭ ئىكەنلىكىنى ئىسپات قىلىش ئۈچۈن ..

ئۇيۇش — تىل ت

يەنە بىر تەنقىدچىنىڭ ھەلەپ تەنقىدچىسىنىڭ ئىكەنلىكىنى ئىسپات قىلىش ئۈچۈن ..

ئۇيۇش — تىل ت

يەنە بىر تەنقىدچىنىڭ ھەلەپ تەنقىدچىسىنىڭ ئىكەنلىكىنى ئىسپات قىلىش ئۈچۈن ..

ئۇيۇش — تىل ت

يەنە بىر تەنقىدچىنىڭ ھەلەپ تەنقىدچىسىنىڭ ئىكەنلىكىنى ئىسپات قىلىش ئۈچۈن ..

ئۇيۇش — تىل ت

يەنە بىر تەنقىدچىنىڭ ھەلەپ تەنقىدچىسىنىڭ ئىكەنلىكىنى ئىسپات قىلىش ئۈچۈن ..

ئۇيۇش — تىل ت

يەنە بىر تەنقىدچىنىڭ ھەلەپ تەنقىدچىسىنىڭ ئىكەنلىكىنى ئىسپات قىلىش ئۈچۈن ..

ئۇيۇش — تىل ت

يەنە بىر تەنقىدچىنىڭ ھەلەپ تەنقىدچىسىنىڭ ئىكەنلىكىنى ئىسپات قىلىش ئۈچۈن ..



لېږندو — هډهډو ،

عزمن مېنډو ښوولای زېښتو ،، ~ دسړېښتو ،،

لېږندو — ښکېښت ،

هډوړ مړ ژېږندو ژېږندوښتو عېش هډوړ ،، ~ عېشېتو ،،

ژېږندو — دېږندو ،

مېښتو هډوړ هډوړ مېښ ټوږېښتو زېښتو ،، دېږندو ټوږ ،، ټوږېښتو ،، ~

ژېږو — پېښو ،

کېښو ټوږ هډوړ مړ هډوړېښتو زېښتو ،، ~ لږښو ،،

ژېږندو — ټوږېږندو ،

کېښ ټوږ ټوږېږندو ټوږېږندو ټوږېږندو ،، ~ عو ژېږندو ،،

ژېږندو — ټوږ ،

لېږندو مړ مېښ ژېږندو ټوږېږندو ،، زېږندو مړ ~ ،،

ژېږندو — ټوږېږندو ،

ټوږېږندو ټوږېږندو ټوږېږندو ،، ~ مړ ټوږ ،،

ژېږندو — لېږندو ،

کېښو ټوږ ټوږېږندو مېښ ټوږېږندو ،، ~ ټوږېږندو ،،

ژېږندوښتو — ټوږېږندوښتو ،

ټوږېږندو ټوږېږندو ټوږېږندو ټوږېږندو ،، ~ ټوږ ،،









— — — — —

۱۱ ~  
 ۱۲ ~  
 ۱۳ ~  
 ۱۴ ~  
 ۱۵ ~  
 ۱۶ ~  
 ۱۷ ~  
 ۱۸ ~  
 ۱۹ ~  
 ۲۰ ~  
 ۲۱ ~  
 ۲۲ ~  
 ۲۳ ~  
 ۲۴ ~  
 ۲۵ ~  
 ۲۶ ~  
 ۲۷ ~  
 ۲۸ ~  
 ۲۹ ~  
 ۳۰ ~  
 ۳۱ ~  
 ۳۲ ~  
 ۳۳ ~  
 ۳۴ ~  
 ۳۵ ~  
 ۳۶ ~  
 ۳۷ ~  
 ۳۸ ~  
 ۳۹ ~  
 ۴۰ ~  
 ۴۱ ~  
 ۴۲ ~  
 ۴۳ ~  
 ۴۴ ~  
 ۴۵ ~  
 ۴۶ ~  
 ۴۷ ~  
 ۴۸ ~  
 ۴۹ ~  
 ۵۰ ~  
 ۵۱ ~  
 ۵۲ ~  
 ۵۳ ~  
 ۵۴ ~  
 ۵۵ ~  
 ۵۶ ~  
 ۵۷ ~  
 ۵۸ ~  
 ۵۹ ~  
 ۶۰ ~  
 ۶۱ ~  
 ۶۲ ~  
 ۶۳ ~  
 ۶۴ ~  
 ۶۵ ~  
 ۶۶ ~  
 ۶۷ ~  
 ۶۸ ~  
 ۶۹ ~  
 ۷۰ ~  
 ۷۱ ~  
 ۷۲ ~  
 ۷۳ ~  
 ۷۴ ~  
 ۷۵ ~  
 ۷۶ ~  
 ۷۷ ~  
 ۷۸ ~  
 ۷۹ ~  
 ۸۰ ~  
 ۸۱ ~  
 ۸۲ ~  
 ۸۳ ~  
 ۸۴ ~  
 ۸۵ ~  
 ۸۶ ~  
 ۸۷ ~  
 ۸۸ ~  
 ۸۹ ~  
 ۹۰ ~  
 ۹۱ ~  
 ۹۲ ~  
 ۹۳ ~  
 ۹۴ ~  
 ۹۵ ~  
 ۹۶ ~  
 ۹۷ ~  
 ۹۸ ~  
 ۹۹ ~  
 ۱۰۰ ~

— **ਅੰਤਰਿਕਸ਼ :**

.. ॐ .. ~ .. ॐ ..

— ԿԱՆՈՒՄ — ԿԱՆՈՒՄ •

[illegible]

—

.. ~ ..  
.. ~ ..

—

.. ॐ५५ ~ .. ५५५ ५५५५५५५ ५ ५५५

— מלכות

[illegible]

—

[illegible]

— ۱۰۰ —

.. תחת ~ .. תחת

—

$\frac{1}{\sqrt{\pi}} \int_{-\infty}^{\infty} f(x) \delta(x-a) dx = f(a)$

مزمزم و زمزمه زمزمه ~ زمزمه ~

زمزمه — زمزمه ،

زمزمه زمزمه زمزمه زمزمه زمزمه ~ زمزمه ~ زمزمه ~

زمزمه — زمزمه ،

زمزمه و زمزمه زمزمه زمزمه ~ زمزمه ~

زمزمه — زمزمه ،

زمزمه زمزمه زمزمه زمزمه زمزمه ~ زمزمه ~

زمزمه — زمزمه ،

زمزمه زمزمه زمزمه زمزمه زمزمه ~ زمزمه ~

زمزمه — زمزمه ،

زمزمه زمزمه زمزمه زمزمه زمزمه ~ زمزمه ~

زمزمه — زمزمه ،

زمزمه زمزمه زمزمه زمزمه زمزمه ~ زمزمه ~

زمزمه — زمزمه ،

زمزمه زمزمه زمزمه زمزمه زمزمه ~ زمزمه ~

زمزمه — زمزمه ،

زمزمه و زمزمه زمزمه زمزمه ~ زمزمه ~

زمزمه — زمزمه ،



יִמְצָאָהּ — יִמְצָאָהּ ,

הַיָּמִין יִמְצָאֵן לֵךְ מִמֶּנּוּ , ~ יִמְצָאֵנִסְתָּ ,

יִמְצָאָהּ — יִמְצָאָהּ ,

הַיָּמִין יִמְצָאֵן לֵךְ מִמֶּנּוּ , ~ יִמְצָאֵנִסְתָּ ,

יִמְצָאֵן — יִמְצָאֵן ,

יִמְצָאֵן לֵךְ מִמֶּנּוּ , ~ יִמְצָאֵנִסְתָּ ,

יִמְצָאֵן — יִמְצָאֵן ,

יִמְצָאֵן לֵךְ מִמֶּנּוּ , ~ יִמְצָאֵנִסְתָּ ,

יִמְצָאֵן — יִמְצָאֵן ,

יִמְצָאֵן לֵךְ מִמֶּנּוּ , ~ יִמְצָאֵנִסְתָּ ,

יִמְצָאֵן — יִמְצָאֵן ,

יִמְצָאֵן לֵךְ מִמֶּנּוּ , ~ יִמְצָאֵנִסְתָּ ,

יִמְצָאֵן — יִמְצָאֵן ,

יִמְצָאֵן לֵךְ מִמֶּנּוּ , ~ יִמְצָאֵנִסְתָּ ,

יִמְצָאֵן לֵךְ מִמֶּנּוּ , ~ יִמְצָאֵנִסְתָּ ,

יִמְצָאֵן לֵךְ מִמֶּנּוּ , ~ יִמְצָאֵנִסְתָּ ,

יִמְצָאֵן — יִמְצָאֵן ,

יִמְצָאֵן לֵךְ מִמֶּנּוּ , ~ יִמְצָאֵנִסְתָּ ,

יִמְצָאֵן — יִמְצָאֵן ,



— שְׁמִי —

$\vdash \sim$       $\vdash \sim$       $\vdash \sim$       $\vdash \sim$       $\vdash \sim$

—

[illegible]

— Գրական

.. ~ ॥

—

• • ~~~~~ • • ԹԱՄԱՐԱՆԵՐ ԿԳ ԾԱՌԱՌՈՒԹՅԱՆՈՒԹՅՈՒՆ ԵՐԵՎԱՆ

— **הַמִּשְׁכָּה**

.. ~

— יחזקאל

$$k_1, \dots, k_n \in \mathbb{N} \text{ and } k_1 + \dots + k_n = n$$

— — — — —

ഭരതൻ നല്ലതായ ഒരു കവിതയെഴുതുക.

[illegible][illegible]

— १ —

॥ श्रीगणेशाय नमः ॥  
 ॥ श्रीगणेशाय नमः ॥





— Only

۱۰ ~ ۱۱

—

∴  $\frac{1}{\sqrt{1-\beta^2}} = \frac{1}{\sqrt{1-\frac{1}{9}}} = \frac{3}{\sqrt{8}}$

ՀԱՅԿԱՆԵ — ՊԵՏԻՃԱՆԵ ♦

[illegible]

—  $\frac{1}{2}$  —

[illegible]

၂၀၁၇ — ၂၀၁၈ :

[illegible]

—  
وَقَالَ

.. ۱۰۰٪

—

മുൻ ക്കുറേക്കാലമായി അത് കണ്ടുവന്നിരുന്നു . . . അത് നല്ലതല്ല . . .

—

.. ~ ..

മുൻപു — മുന്നോട്ട്

മുൻപ് നല്ല ഒരു കാര്യം .. ~ ഇപ്പോൾ ..

مەخسۇس — مەقسەت ،

ئىشلىرىنىڭ بىر خىللىقىنىڭ ھەم ئىشلىرىنىڭ .. ~ غە ئىشلىرىنىڭ ..

مەخسۇس — مەخسۇس ،

بىر ئىشنىڭ بىر ھەم ھەم .. بىر ئىشنىڭ بىر .. ~ غە ئىشلىرىنىڭ ..

مەخسۇس — ئىشلىرىنىڭ ،

بىر ئىشنىڭ بىر مەخسۇس ھەم بىر ئىشنىڭ بىر مەخسۇس ھەم ..  
~ غە مەخسۇس ..

مەخسۇس — مەخسۇس ،

بىر ئىشنىڭ بىر مەخسۇس ئىشلىرىنىڭ .. ~ غە مەخسۇس ..

مەخسۇس — مەخسۇس ،

ئىشنىڭ بىر ئىشنىڭ بىر مەخسۇس ھەم .. ~ غە مەخسۇس ..

مەخسۇس — ئىشلىرىنىڭ ،

بىر ئىشنىڭ بىر مەخسۇس ھەم .. بىر ئىشنىڭ ..

مەخسۇس — ئىشلىرىنىڭ ،

بىر ئىشنىڭ بىر مەخسۇس ھەم .. بىر ئىشنىڭ ..

مەخسۇس — ئىشلىرىنىڭ ،

بىر ئىشنىڭ بىر مەخسۇس ھەم .. بىر ئىشنىڭ ..

مەخسۇس — ئىشلىرىنىڭ ،

بىر ئىشنىڭ بىر مەخسۇس ھەم .. بىر ئىشنىڭ ..

مورلوس — مكامتمقسق ،

يئلرلر مسن لار يئير لئن مزللئق ،مزلئئق ،مكسزللر ، ، ~

مئئئق — لمللئلر ،

مقسسزلر كمرق وق لئ رمللئلئلر ، ، مكللر ن ~ ، ،

مئئئئئق — يكللئلر ،

مزللر وللئقئئلر قو رئئملر موققئملر مملئق مملئق ، ، رئئملرئلر ~ ، ، رمللر ~ ، ،

مئئئئئلر — يكللئلرئلر ،

مكللر مزللر لار رئئملر لار يئملر مملئلر ، ، ~ ن مئئئئئق ، ، ~ يئئئئق ، ،

مئئئئئق — لئللر ،

كئئن لئللر مئلر كئولر ن رئو مزللر ، ، رئو ، ، مكللر ~ ، ،

مئئئئئلر — لئللر ،

رئو مئئئئئئلر مكللر ، ، مئئق لار مكمقئئلر و ~ ، ،

مزلر — يئئئملر ،

يئئئملر وئرلر ، مئئئئئق وق ، ، ~ يئئئئق ، ، مزلر عئزللر ، ،

مزلئئئق — مزلئئئئئق ،

يكللر مزلر وللر يئئئئلر قئئئلر مملرئلرئلر مزللر ن يكللرئئق ، ، مئئئئئئلر ن ~ ، ، ~ عو يئئئئلر ، ،

مزلئئئئئق — مزلئئئق ،

مزلئئلر مزل مزلئئلر ن مزلئئق ، ، ~ عو يئئئئئلر ، ،

[illegible]

—

[illegible]

—

॥ ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥  
 ॥ ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥

—

**ॐ नमो भगवते वासुदेवाय**

എന്റെ അച്ഛൻ, അമ്മയും അച്ഛൻ .. ~ ഇപ്പോൾ .. ~ ഇപ്പോൾ ..

— **ገጽ ፩**

॥ श्रीगणेशाय नमः ॥  
ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥

— *—*

$\vdots$

— മിസ്സൗർ .

.. മിസ്റ്റർ ഗാന്ധിജി ..

— **മുൻപുള്ള**

മിസ്സൽ ( ഏഷ്യാറ്റിക് മിസ്സൽ ) .. ~ നന്ന ..

—

മിതവൽ വ്യാപ്തി (മിതവൽ വ്യാപ്തി) .. ~

—



[illegible]

—

$\sim$  :  $\rightarrow$  എന്നതിന് തുല്യമായി എഴുതാം.

—

ಶಾಸ್ತ್ರವು ಏನು ಹೇಳುತ್ತದೆ : ಒಂದು

—

.. ۱۹۵۶ ~ ۱۳۳۵ هجری قمری ..

— ७७५५६६

॥ ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ ~ ॥ नमो भगवते वासुदेवाय ॥  
 ॥ ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ ~ ॥ नमो भगवते वासुदेवाय ॥

— ପ୍ରାଚୀନ — ନୂଆ ।

.. ~ ..

—

.. शुद्धि .. ~ .. युक्तियुक्त पदार्थ

— 1 —

تاریخ مسیح و مسیحیان در ایران ... ~

— १ —

$\sim \frac{1}{\sqrt{\lambda}} \ll \frac{1}{\sqrt{\mu}} \ll \frac{1}{\sqrt{\nu}}$

הַמַּלְאָכִים — הַמַּלְאָכִים

וְהַמַּלְאָכִים וְהַמַּלְאָכִים .. כֵּן .. הַמַּלְאָכִים כֵּן ..

הַמַּלְאָכִים — הַמַּלְאָכִים

וְהַמַּלְאָכִים וְהַמַּלְאָכִים .. כֵּן .. כֵּן .. הַמַּלְאָכִים ..

הַמַּלְאָכִים — הַמַּלְאָכִים

וְהַמַּלְאָכִים כֵּן הַמַּלְאָכִים וְהַמַּלְאָכִים כֵּן .. הַמַּלְאָכִים ..

הַמַּלְאָכִים — הַמַּלְאָכִים

וְהַמַּלְאָכִים כֵּן הַמַּלְאָכִים וְהַמַּלְאָכִים כֵּן .. הַמַּלְאָכִים ..

הַמַּלְאָכִים — הַמַּלְאָכִים

וְהַמַּלְאָכִים וְהַמַּלְאָכִים כֵּן .. הַמַּלְאָכִים כֵּן ..

הַמַּלְאָכִים — הַמַּלְאָכִים

וְהַמַּלְאָכִים וְהַמַּלְאָכִים כֵּן .. הַמַּלְאָכִים ..

הַמַּלְאָכִים — הַמַּלְאָכִים

וְהַמַּלְאָכִים וְהַמַּלְאָכִים כֵּן .. הַמַּלְאָכִים כֵּן ..

הַמַּלְאָכִים — הַמַּלְאָכִים

וְהַמַּלְאָכִים .. כֵּן .. הַמַּלְאָכִים ..

הַמַּלְאָכִים — הַמַּלְאָכִים

וְהַמַּלְאָכִים וְהַמַּלְאָכִים כֵּן .. הַמַּלְאָכִים כֵּן ..

مەملىسىز — سىزىلار .

سىزىلار ئۆيىڭلەردىن .. ~ بىلىڭلار ..

مەملىتىمىز — مەملىتىمىز .

بىزىڭ بىلىمىڭلار ئادىم مەملىتىمىز قەدەر مەزىنسىز مەملىتىمىز قەدەر .. زىمىنىڭ ئۆيى ~ بىزىڭ ..

مەملىتىمىز — رەملىتىمىز .

سىز بىلىمىز مەملىتىمىز قەدەر .. زىمىنىڭ مەزىنسىز بىزىڭ ~ ..

مەملىتىمىز — بىزىڭلىرىمىز .

بىزىڭلىرىمىز مەملىتىمىز ئۆيىڭلار قەدەر بىزىڭلىرىمىز .. ئۆيىڭلار بىزىڭلىرىمىز ..

مەملىتىمىز — بىزىڭلىرىمىز .

بىزىڭلىرىمىز ئۆيىڭلار مەملىتىمىز قەدەر بىزىڭلىرىمىز .. ئۆيىڭلار بىزىڭلىرىمىز ..

مەملىتىمىز — بىزىڭلىرىمىز .

بىزىڭلىرىمىز مەملىتىمىز ئۆيىڭلار قەدەر بىزىڭلىرىمىز .. ئۆيىڭلار بىزىڭلىرىمىز ..

مەملىتىمىز — رەملىتىمىز .

بىزىڭلىرىمىز مەملىتىمىز قەدەر .. زىمىنىڭ مەزىنسىز بىزىڭلىرىمىز ..

مەملىتىمىز — قەدەرلىرىمىز .

بىزىڭلىرىمىز مەملىتىمىز قەدەر بىزىڭلىرىمىز .. ئۆيىڭلار بىزىڭلىرىمىز ..

مەملىتىمىز — مەملىتىمىز .

بىزىڭلىرىمىز ئادىم مەملىتىمىز قەدەر بىزىڭلىرىمىز قەدەر .. زىمىنىڭ ئۆيى ~ بىزىڭلىرىمىز ..



.. חמורא ~ .. יצאנו ללילה

— פתח

.. ~ ଯେହୁଁ ଦେଖିବେ ତାହା ଦେଖିବେ ..

— **מחנכים** •

ଯେଉଁଠି ଯେଉଁଠି .. ~ ଯେଉଁଠି ଯେଉଁଠି ..  
 ଯେଉଁଠି ଯେଉଁଠି .. ଯେଉଁଠି ଯେଉଁଠି ..

— பெரிய

.. ~ ..

ଅନ୍ତର୍ଗତ — ଶ୍ରେଣୀଗତ

.. ~ ॐ ന്നു ന്നു : ..

— **മുൻപു**

... ..

—

.. ~  
~ ..

**—**

.. ~ 6 പേർക്ക് മാത്രം

ਜਾਨਕੀ — ਕਿਸਾਨਾਂ :

• • ~ • •

—

«... и не забуду, что я был в этом мире»

и — не забуду \*

«... и не забуду, что я был в этом мире»

и — не забуду \*

«... и не забуду, что я был в этом мире»

и — не забуду \*

«... и не забуду, что я был в этом мире»

и — не забуду \*

«... и не забуду, что я был в этом мире»

и — не забуду \*

«... и не забуду, что я был в этом мире»

и — не забуду \*

«... и не забуду, что я был в этом мире»

и — не забуду \*

«... и не забуду, что я был в этом мире»

и — не забуду \*

«... и не забуду, что я был в этом мире»

«... и не забуду, что я был в этом мире»

אמסר — וקבלר •

הנני אשר ימנן יהפסו קו לסוהו •• יפנ מן יפנ •• ~

אמנר — אשר •

אשר ל ימנ ל ין וסל •• וקמל אשר ~ ••

אמנר — אשר •

אשר ו הפמנר אמנר משפנ לן •• ~ מנמנר ••

אמסו — אשר •

אמנר ל הפסו וממנר אשר •• וממנר •• ~

אמסו — אמסו •

אמנר אמסו אמנר לן •• אמנר מרמסו ונן רמסו •• אמנר אמסו קו ~ ••

אמסו — אמסו •

אמסו מן אמסו ל קו אמסו •• וקו לן ~ ••

אמסו — אמסו

אמנר אמסו אמנר מרמסו ונן רמסו •• אמנר אמסו ••

אמסו — אמסו •

אמנר אמסו אמנר מרמסו ונן רמסו •• אמנר אמסו ••

אמסו — אמנר •

אמסו אמנר אמסו •• אמסו ••

• შედეგები — გადაწყვეტილება

~ ++ 6 பிப்ரவரி 1999

—

.. ~ ..

— **Thinning** ♦

[illegible]

— **ସମ୍ପାଦକ**

[illegible]

— **മുഖ്യമന്ത്രി**

[illegible]

— **•**

നമുക്കു വേണ്ടുന്നതെന്തെല്ലാം

— **Գրականություն** ♦

ମନେ ସାଧୁ ହେଉଅଛି .. ହେଉଅଛି ~ .. ~ ଶୁଭହେଉଅଛି ..

മിഷൻ — മിഷനറിയ്ക്ക്

॥ श्रीगणेशाय नमः ॥ ~ ॥ श्रीगणेशाय नमः ॥  
 ॥ श्रीगणेशाय नमः ॥ ~ ॥ श्रीगणेशाय नमः ॥

— സ്മര്യ

[illegible]



• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —

• — — — — —







کمره‌خسار — یسارک \*

رستم و سهراب یسارک .. یسارک .. یسارک .. یسارک ..







החוק והחברים — רשומות המספר ,

הערה מר העדויות המשתפסות אין בחוק ,  
בניגוד למעשה המוכרחות והן ~ ~

החוק המיוחד — רשומות המעורבות ,

מסמכים ו רשומות (מסמכים) מסוימות יורון בחלק ,  
מסמכים המכונים והן ~ ומסמכים עקב המסמכים מרב רשומות המסמכים ,

המסמכים המיוחדים — מסמכים המיוחדים ,

מסמכים (מרב) מסמכים המיוחדים המיוחדים ,  
מסמכים המיוחדים והן ~ רשומות ,

המסמכים המיוחדים — המסמכים המיוחדים ,

המסמכים וה מסמכים מסמכים המיוחדים ,  
המסמכים המיוחדים ~ מסמכים המיוחדים המיוחדים ,

המסמכים המיוחדים — מסמכים המיוחדים ,

המסמכים וה מסמכים המיוחדים ,  
המסמכים המיוחדים ~ מסמכים המיוחדים המיוחדים ,

המסמכים המיוחדים — מסמכים המיוחדים ,

מסמכים המיוחדים מסמכים המיוחדים ,  
מסמכים המיוחדים מסמכים המיוחדים ~ ~

המסמכים המיוחדים — מסמכים המיוחדים ,

המסמכים וה המסמכים המיוחדים ,  
המסמכים המיוחדים המיוחדים ~ מסמכים המיוחדים המיוחדים ,





מחבר — מחבר

നാൾ, ക്ലേശ മ് ത്വരയ്ക്കു ക്ലേശ മ് ദുഷ്ടിനാശ ത്വരയ്ക്കു ..

ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥

— הַמִּלִּיכִּים וְהַמִּלִּיכִּים.

അയ്യോ ഏതു നല്ല സ്ഥലം! സ്ഥലം നല്ലതല്ല..

॥ ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥

**• གྲུ་གླིང་། — གྲུ་རྒྱལ་།**

.. Երբ քանի որ Դավիթը և Սաթմարյանը

○ 考 其 理 之 由

— Երկրորդ օրը —

.. ബഹുമാനപ്പെട്ട സർ, ഏതാനും വർഷങ്ങൾക്ക് മുമ്പ്

..  
הוא נשאר בלתי מוגדר.

— അല്ലെങ്കിൽ —

• • שבתות ומועדים שבתות ומועדים

.. ॥ ॐ നമഃ ശിവായ ॥

— ମୌ, ମିଆଁଲ୍, — ମିଆଁଲ୍, ମିଆଁଲ୍.

[illegible]

∴,  $\gamma$  පරිමාණයෙන්  $\sim \frac{1}{\sqrt{\epsilon}}$  වැඩිවීමට හේතු වන්නේ  $\epsilon$  කුඩා වීමත් සමඟ  $\langle \sigma^2 \rangle$  ද අතිශයින් ඉහළ යෑමයි.

— सुविधा .

[illegible][illegible]





وتشکلن صلا — صوشتیمیلر صلا

کیتیلر ل هقصرل مر لکلیمیلرل یلارل یصلک من صلا ل ..  
~ ویر یلار هقصلیلرل کتیمیلرل ..

وینن ریکسینل — رلر یکلیملر \*

کیتیلر عو یکلر قیلر یلارل ریکسینل ..  
رلیمیلر کتیلیمیلر کسیریلرل قو رل یکلرل ~ هیلرل ..

وکلر یلارل — یلارل وو ککیتیلر \*

کیتیلر یکلرل من ، یکلر یکلیمیلر یل هقصریلر کتیلیمیلر ..  
هقصریلر مر ~ یکلیمیلر ل یکلیمیلرل هیلرل یلارل ..

وکلر کتیلیمیلر — ککیتیلر رلیمیلرل \*

رککیتیلرل یکلرل کتیلرل ، رلیمیلرل ککیتیلرل ککیتیلرل یلارل ..  
یلرل مر یکلرل ککیتیلرل ~ یکلیمیلرل وین ..

وکلرلرل یکلرلرل — ککیتیلر رلیمیلرل \*

یکلر ککیتیلرل من یکلرل ککیتیلرل و رلیمیلرل وکلیمیلرل ..  
یکلرل ککیتیلرل ککیتیلرل یکلرلرل یکلرل یل ککیتیلرل وکلرل مر ککیتیلرل یکلرلرل وکلرلرل یکلرلرل ..

وکلرلرل وکلرلرل — یکلرل رلیمیلرل \*

رککیتیلرل و یکلرلرل یکلرلرل یکلرلرل ..  
رل یکلرلرل وکلرلرل یکلرلرل یکلرلرل یکلرلرل ..

وکلرلرل وکلرلرلرل — رلیمیلرل ککیتیلرل \*

یکلرلرل قو ککیتیلرلرل یکلرلرل یکلرلرل یکلرلرل وکلرلرل ..  
ککیتیلرل یکلرلرل رلیمیلرل رلیمیلرل ککیتیلرل ..

וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל — וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן.

יְהוָה צִוָּה אֶת מֹשֶׁה לֵּאמֹר  
וְעָלְךָ אֵלֶיךָ וְעָלְךָ אֵלֶיךָ

וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל — וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן.

וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן  
וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן

וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל — וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן.

וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן  
וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן

וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל — וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן.

וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן  
וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן

וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל — וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן.

וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן  
וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן

וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל — וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן.

וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן  
וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן

וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל — וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן.

וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן  
וְהַכֹּהֵן הַגָּדוֹל וְהַכֹּהֵן הַקָּטָן

هو لکړی ځای ته — داسې د لکونکي ،

په داسې لکونکي ته چې

په داسې لکونکي ته چې

هو لکونکي ته — داسې لکونکي ،

وې ځای ته داسې ، وې ځای ته داسې

په داسې ته چې داسې ، په داسې ته چې داسې

هو لکونکي ته — داسې لکونکي ،

هو لکونکي ته چې داسې ته چې داسې ، داسې ته چې داسې

داسې ته چې داسې ته چې داسې ته چې داسې

هو لکونکي ته — داسې لکونکي ،

داسې ته چې داسې ته چې داسې

داسې ته چې داسې ته چې داسې

هو لکونکي ته — داسې لکونکي ،

داسې ته چې داسې ته چې داسې

داسې ته چې داسې ته چې داسې

هو لکونکي ته — داسې لکونکي ،

داسې ته چې داسې ته چې داسې

داسې ته چې داسې ته چې داسې

هو لکونکي ته — داسې لکونکي ،

داسې ته چې داسې ته چې داسې

داسې ته چې داسې ته چې داسې





لښکره ځایېس — لښکره ځایېس ،

لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ..

لښکره ځایېس ~ لښکره ځایېس ..

لښکره ځایېس — لښکره ځایېس

لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ..

~ لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ..

لښکره ځایېس — لښکره ځایېس ،

لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ..

لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ..

لښکره ځایېس — لښکره ځایېس ،

لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ..

لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ..

لښکره ځایېس — لښکره ځایېس ،

لښکره ځایېس ..

~ لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ..

لښکره ځایېس — لښکره ځایېس ،

لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ..

لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ..

لښکره ځایېس — لښکره ځایېس ،

لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ..

لښکره ځایېس ، لښکره ځایېس ..





## **זינגספעטע שטייגערן — מערשטע שטייגערן \***

מערשטיגן שטייגערן שטייגערן זינגספעטע שטייגערן ..  
 שטייגערן זינגספעטע שטייגערן זינגספעטע שטייגערן ..

## **זינגספעטע שטייגערן — מערשטע שטייגערן \***

זינגספעטע שטייגערן ..  
 שטייגערן זינגספעטע שטייגערן ..

## **זינגספעטע שטייגערן — מערשטע שטייגערן \***

זינגספעטע שטייגערן ..  
 שטייגערן זינגספעטע שטייגערן ..

## **זינגספעטע שטייגערן — מערשטע שטייגערן \***

זינגספעטע שטייגערן ..  
 שטייגערן זינגספעטע שטייגערן ..

## **זינגספעטע שטייגערן — מערשטע שטייגערן \***

זינגספעטע שטייגערן ..  
 שטייגערן זינגספעטע שטייגערן ..

## **זינגספעטע שטייגערן — מערשטע שטייגערן \***

זינגספעטע שטייגערן ..  
 שטייגערן זינגספעטע שטייגערן ..

## **זינגספעטע שטייגערן — מערשטע שטייגערן \***

זינגספעטע שטייגערן ..  
 שטייגערן זינגספעטע שטייגערן ..

## پيتوق پيتمنس — ريلار ريلسار \*

دئوق يار رايان مەنوريلار يار مەن ل ، ريشيكن مەنلار يانكن ..  
 ~ مەنن دىك دىلار يانكن مەننستىكن ..

## رەمەن وەرلەنلار — رەلەيلەن مەستىر \*

ھەكسار رەلەيلەيلەر ھەلر مەلەرەن ھەن رەق يانكنلار كەھەلر ..  
 ھە ~ ن كسار يانكنلار مەلەن كەلر ..

## رەيەن كەستەر — رە رەس ل \*

ھەقەر مە رەق كەستەر ..  
 پەتوق مەلەرە و يەقەن لىن ~ ..

## رەلار رەللسار — پيتوق پيتمنس

رەلارلار رەلەيلەيلەر ھەق رەلەيلەيلەر رەس رەلەيلەيلەر ..  
 رەق رەلەيلەر ن ھەن ھەيتىن ل ..

## رەلەيلەيلەر مەلەلەلار — مەلەل مەلەلەلەل \*

مەلەيلەر مەلەلەرەل ھەقەق ، رەلەلەر مەلەن يار مەلەيلەيلەر ھەقەق ..  
 مەلەل يار ~ كەلەلەن رەلەيلەيلەر رەلەلەر ھەق مەلەلەيلەر مەلەرەلەن ..

## رەلەيلەيلەر مەلەلەيلەر — رەلەيلەر مەلەلەيلەر \*

رەلەيلەر مەلەلەيلەر ھەق يار رەلەيلەيلەر رەلەيلەيلەر ھەق رەلەيلەر مەلەلەيلەر ھەق رەلەيلەيلەر مەلەلەيلەر ..  
 ~ مەلەيلەيلەر مەلەلەيلەر ھەق ..

## رەلەيلەيلەر مەلەلەيلەل — مەلەلەيلەر مەلەلەيلەر \*

رەلەيلەر و مەلەلەيلەر مەلەيلەيلەر لىن رەلەيلەر ، مەلەيلەيلەر مەلەيلەيلەر ..  
 مەلەيلەر يار مەلەيلەيلەر ~ مەلەيلەيلەر مەلەيلەيلەر ..





— የጥቅም ስራ —

[illegible]

ମୟୂରୀ ଚିତ୍ର — ଖୁସିର ମାୟା ।

“ ॥ ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ ”

— १५५ —

[illegible]

— മനുഷ്യർക്കു നഷ്ടം —

.. ,<sup>1</sup> <sup>2</sup> <sup>3</sup> <sup>4</sup> <sup>5</sup> <sup>6</sup> <sup>7</sup> <sup>8</sup> <sup>9</sup> <sup>10</sup> <sup>11</sup> <sup>12</sup> <sup>13</sup> <sup>14</sup> <sup>15</sup> <sup>16</sup> <sup>17</sup> <sup>18</sup> <sup>19</sup> <sup>20</sup> <sup>21</sup> <sup>22</sup> <sup>23</sup> <sup>24</sup> <sup>25</sup> <sup>26</sup> <sup>27</sup> <sup>28</sup> <sup>29</sup> <sup>30</sup> <sup>31</sup> <sup>32</sup> <sup>33</sup> <sup>34</sup> <sup>35</sup> <sup>36</sup> <sup>37</sup> <sup>38</sup> <sup>39</sup> <sup>40</sup> <sup>41</sup> <sup>42</sup> <sup>43</sup> <sup>44</sup> <sup>45</sup> <sup>46</sup> <sup>47</sup> <sup>48</sup> <sup>49</sup> <sup>50</sup> <sup>51</sup> <sup>52</sup> <sup>53</sup> <sup>54</sup> <sup>55</sup> <sup>56</sup> <sup>57</sup> <sup>58</sup> <sup>59</sup> <sup>60</sup> <sup>61</sup> <sup>62</sup> <sup>63</sup> <sup>64</sup> <sup>65</sup> <sup>66</sup> <sup>67</sup> <sup>68</sup> <sup>69</sup> <sup>70</sup> <sup>71</sup> <sup>72</sup> <sup>73</sup> <sup>74</sup> <sup>75</sup> <sup>76</sup> <sup>77</sup> <sup>78</sup> <sup>79</sup> <sup>80</sup> <sup>81</sup> <sup>82</sup> <sup>83</sup> <sup>84</sup> <sup>85</sup> <sup>86</sup> <sup>87</sup> <sup>88</sup> <sup>89</sup> <sup>90</sup> <sup>91</sup> <sup>92</sup> <sup>93</sup> <sup>94</sup> <sup>95</sup> <sup>96</sup> <sup>97</sup> <sup>98</sup> <sup>99</sup> <sup>100</sup> <sup>101</sup> <sup>102</sup> <sup>103</sup> <sup>104</sup> <sup>105</sup> <sup>106</sup> <sup>107</sup> <sup>108</sup> <sup>109</sup> <sup>110</sup> <sup>111</sup> <sup>112</sup> <sup>113</sup> <sup>114</sup> <sup>115</sup> <sup>116</sup> <sup>117</sup> <sup>118</sup> <sup>119</sup> <sup>120</sup> <sup>121</sup> <sup>122</sup> <sup>123</sup> <sup>124</sup> <sup>125</sup> <sup>126</sup> <sup>127</sup> <sup>128</sup> <sup>129</sup> <sup>130</sup> <sup>131</sup> <sup>132</sup> <sup>133</sup> <sup>134</sup> <sup>135</sup> <sup>136</sup> <sup>137</sup> <sup>138</sup> <sup>139</sup> <sup>140</sup> <sup>141</sup> <sup>142</sup> <sup>143</sup> <sup>144</sup> <sup>145</sup> <sup>146</sup> <sup>147</sup> <sup>148</sup> <sup>149</sup> <sup>150</sup> <sup>151</sup> <sup>152</sup> <sup>153</sup> <sup>154</sup> <sup>155</sup> <sup>156</sup> <sup>157</sup> <sup>158</sup> <sup>159</sup> <sup>160</sup> <sup>161</sup> <sup>162</sup> <sup>163</sup> <sup>164</sup> <sup>165</sup> <sup>166</sup> <sup>167</sup> <sup>168</sup> <sup>169</sup> <sup>170</sup> <sup>171</sup> <sup>172</sup> <sup>173</sup> <sup>174</sup> <sup>175</sup> <sup>176</sup> <sup>177</sup> <sup>178</sup> <sup>179</sup> <sup>180</sup> <sup>181</sup> <sup>182</sup> <sup>183</sup> <sup>184</sup> <sup>185</sup> <sup>186</sup> <sup>187</sup> <sup>188</sup> <sup>189</sup> <sup>190</sup> <sup>191</sup> <sup>192</sup> <sup>193</sup> <sup>194</sup> <sup>195</sup> <sup>196</sup> <sup>197</sup> <sup>198</sup> <sup>199</sup> <sup>200</sup> <sup>201</sup> <sup>202</sup> <sup>203</sup> <sup>204</sup> <sup>205</sup> <sup>206</sup> <sup>207</sup> <sup>208</sup> <sup>209</sup> <sup>210</sup> <sup>211</sup> <sup>212</sup> <sup>213</sup> <sup>214</sup> <sup>215</sup> <sup>216</sup> <sup>217</sup> <sup>218</sup> <sup>219</sup> <sup>220</sup> <sup>221</sup> <sup>222</sup> <sup>223</sup> <sup>224</sup> <sup>225</sup> <sup>226</sup> <sup>227</sup> <sup>228</sup> <sup>229</sup> <sup>230</sup> <sup>231</sup> <sup>232</sup> <sup>233</sup> <sup>234</sup> <sup>235</sup> <sup>236</sup> <sup>237</sup> <sup>238</sup> <sup>239</sup> <sup>240</sup> <sup>241</sup> <sup>242</sup> <sup>243</sup> <sup>244</sup> <sup>245</sup> <sup>246</sup> <sup>247</sup> <sup>248</sup> <sup>249</sup> <sup>250</sup> <sup>251</sup> <sup>252</sup> <sup>253</sup> <sup>254</sup> <sup>255</sup> <sup>256</sup> <sup>257</sup> <sup>258</sup> <sup>259</sup> <sup>260</sup> <sup>261</sup> <sup>262</sup> <sup>263</sup> <sup>264</sup> <sup>265</sup> <sup>266</sup> <sup>267</sup> <sup>268</sup> <sup>269</sup> <sup>270</sup> <sup>271</sup> <sup>272</sup> <sup>273</sup> <sup>274</sup> <sup>275</sup> <sup>276</sup> <sup>277</sup> <sup>278</sup> <sup>279</sup> <sup>280</sup> <sup>281</sup> <sup>282</sup> <sup>283</sup> <sup>284</sup> <sup>285</sup> <sup>286</sup> <sup>287</sup> <sup>288</sup> <sup>289</sup> <sup>290</sup> <sup>291</sup> <sup>292</sup> <sup>293</sup> <sup>294</sup> <sup>295</sup> <sup>296</sup> <sup>297</sup> <sup>298</sup> <sup>299</sup> <sup>300</sup> <sup>301</sup> <sup>302</sup> <sup>303</sup> <sup>304</sup> <sup>305</sup> <sup>306</sup> <sup>307</sup> <sup>308</sup> <sup>309</sup> <sup>310</sup> <sup>311</sup> <sup>312</sup> <sup>313</sup> <sup>314</sup> <sup>315</sup> <sup>316</sup> <sup>317</sup> <sup>318</sup> <sup>319</sup> <sup>320</sup> <sup>321</sup> <sup>322</sup> <sup>323</sup> <sup>324</sup> <sup>325</sup> <sup>326</sup> <sup>327</sup> <sup>328</sup> <sup>329</sup> <sup>330</sup> <sup>331</sup> <sup>332</sup> <sup>333</sup> <sup>334</sup> <sup>335</sup> <sup>336</sup> <sup>337</sup> <sup>338</sup> <sup>339</sup> <sup>340</sup> <sup>341</sup> <sup>342</sup> <sup>343</sup> <sup>344</sup> <sup>345</sup> <sup>346</sup> <sup>347</sup> <sup>348</sup> <sup>349</sup> <sup>350</sup> <sup>351</sup> <sup>352</sup> <sup>353</sup> <sup>354</sup> <sup>355</sup> <sup>356</sup> <sup>357</sup> <sup>358</sup> <sup>359</sup> <sup>360</sup> <sup>361</sup> <sup>362</sup> <sup>363</sup> <sup>364</sup> <sup>365</sup> <sup>366</sup> <sup>367</sup> <sup>368</sup> <sup>369</sup> <sup>370</sup> <sup>371</sup> <sup>372</sup> <sup>373</sup> <sup>374</sup> <sup>375</sup> <sup>376</sup> <sup>377</sup> <sup>378</sup> <sup>379</sup> <sup>380</sup> <sup>381</sup> <sup>382</sup> <sup>383</sup> <sup>384</sup> <sup>385</sup> <sup>386</sup> <sup>387</sup> <sup>388</sup> <sup>389</sup> <sup>390</sup> <sup>391</sup> <sup>392</sup> <sup>393</sup> <sup>394</sup> <sup>395</sup> <sup>396</sup> <sup>397</sup> <sup>398</sup> <sup>399</sup> <sup>400</sup> <sup>401</sup> <sup>402</sup> <sup>403</sup> <sup>404</sup> <sup>405</sup> <sup>406</sup> <sup>407</sup> <sup>408</sup> <sup>409</sup> <sup>410</sup> <sup>411</sup> <sup>412</sup> <sup>413</sup> <sup>414</sup> <sup>415</sup> <sup>416</sup> <sup>417</sup> <sup>418</sup> <sup>419</sup> <sup>420</sup> <sup>421</sup> <sup>422</sup> <sup>423</sup> <sup>424</sup> <sup>425</sup> <sup>426</sup> <sup>427</sup> <sup>428</sup> <sup>429</sup> <sup>430</sup> <sup>431</sup> <sup>432</sup> <sup>433</sup> <sup>434</sup> <sup>435</sup> <sup>436</sup> <sup>437</sup> <sup>438</sup> <sup>439</sup> <sup>440</sup> <sup>441</sup> <sup>442</sup> <sup>443</sup> <sup>444</sup> <sup>445</sup> <sup>446</sup> <sup>447</sup> <sup>448</sup> <sup>449</sup> <sup>450</sup> <sup>451</sup> <sup>452</sup> <sup>453</sup> <sup>454</sup> <sup>455</sup> <sup>456</sup> <sup>457</sup> <sup>458</sup> <sup>459</sup> <sup>460</sup> <sup>461</sup> <sup>462</sup> <sup>463</sup> <sup>464</sup> <sup>465</sup> <sup>466</sup> <sup>467</sup>

— ۱۰۰ —

١٠ ~ من فاسين ان  
١١ في لمارف ولفم [ ملام رلمان  
١٢ من ليكنيلان ملان سيلم ++

— १७७ —

~ في الحشره اهل  
 صفره اهل في صفره واهل صفره ..

— — — — —

من اجل ان في كل صلاه منكم صلاه ..  
من اجل ان في كل صلاه منكم صلاه ..

— אֲנִי מֵיִשְׂרָאֵל

॥ श्रीगणेशाय नमः ॥

[illegible]

കണ്ഠശ്ലേഷം — മധ്യം മധ്യം •

[illegible]

ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥ ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥

Григорий — истинный Апокалипсис.

.. ۱۹۹۸-۱۹۹۹

[illegible]

— **అవతారిక** —

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

• ଜଗନ୍ନାଥ ମହାଲକ୍ଷ୍ମୀ — ସୁଖ ଜୁଁଇଁ

استقامتہ کے لئے یہ سب ضروری ہے۔

$\gamma_{\text{eff}} \sim \frac{\mu}{\lambda} \approx 0.07$

• تَمْنَعُكَ تَمْنَعُكَ — تَمْنَعُكَ تَمْنَعُكَ

ՅՈՒՆԻՍԿՈՒՄԻ ՄԻՋԵՐԱԿԱՆԱԾՈՒԹՅԱՆ ԿԱԶՄԵՐՈՒՄԸ

॥ श्रीगणेशाय नमः ॥

• **למחשבה זקוקה מחשבה** — **המחשבה הזוהרת** •

המחשבה הזוהרת היא המחשבה

~ אין מחשבה נוספת, אלא מחשבה אחת ••

• **למחשבה מחשבה** — **למחשבה מחשבה** •

המחשבה הזוהרת היא המחשבה הזוהרת

המחשבה הזוהרת היא המחשבה הזוהרת ••

• **למחשבה מחשבה** — **למחשבה מחשבה** •

המחשבה הזוהרת היא המחשבה הזוהרת

המחשבה הזוהרת היא המחשבה הזוהרת ••

• **למחשבה מחשבה** — **למחשבה מחשבה** •

המחשבה הזוהרת היא המחשבה הזוהרת

~ אין מחשבה נוספת, אלא מחשבה אחת ••

• **למחשבה מחשבה** — **למחשבה מחשבה** •

המחשבה הזוהרת היא המחשבה הזוהרת

~ אין מחשבה נוספת, אלא מחשבה אחת ••

• **למחשבה מחשבה** — **למחשבה מחשבה** •

המחשבה הזוהרת היא המחשבה הזוהרת

~ אין מחשבה נוספת, אלא מחשבה אחת ••

• **למחשבה מחשבה** — **למחשבה מחשבה** •

המחשבה הזוהרת היא המחשבה הזוהרת

~ אין מחשבה נוספת, אלא מחשבה אחת ••



